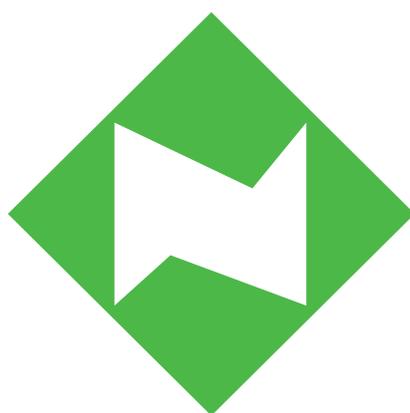


平成20年版

日生病院年報

(平成20年1月～12月)



第7卷

財団法人 日本生命済生会付属

日生病院

平成20年日生病院年報の発刊にあたって

院長 寺川 直樹

平素は日生病院に対しましてご支援ならびにご高配を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。平成20年版日生病院年報を発刊するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

診療報酬の度重なるマイナス改定に加えて、昨年来の大恐慌とも言える世界的な経済危機・不況が重なり、わが国の医療は今、大変厳しい状況にあります。日生病院におきましても平成20年はその厳しい環境下にありましたが、大阪市西区の基幹病院として地域の皆様のお役に立てますよう、職員一同、努力してまいりました。

診療機能の強化と地域医療への貢献を目指して、当院では平成19年に「がん治療センター」と「低侵襲医療センター」を立ち上げましたが、これらセンターは昨年7月に病院一階受付横の広いスペースに移動して、本格的に稼働致しました。

同じく7月には、わが国における疾病構造の変化にも対応して「生活習慣病センター」を開設しました。これらのセンターは順調に運営されており、地域の皆様のお役に立てるものと信じております。

昨年10月には「乳腺外科」を新たに開設しましたが、当地域における専門機関としてすでに多数の乳癌症例の診療に当たっております。日生病院は昨年3月にマンモグラフィー検診施設の認定を受けており、10月からは大阪市乳がん検診取扱医療機関にもなっておりますので、あわせてご案内申し上げます。

専門医による乳癌診療の実施に伴って、当院は本年4月、大阪府がん診療拠点病院の指定を受けました。

当院が果たすべき分野の予防医学につきましても、お陰様で「ニッセイ予防医学センター」が順調に稼働しています。

学術活動につきましてもご報告致します。昨年9月に開催されました欧州IVR学会では、全世界から1200題の演題応募がありましたが、そのなかで、当院放射線科が発表した「肝癌の塞栓治療におけるコンビームCTの有用性」と題する演題が、唯一、最優秀演題賞に輝いたというニュースはまことに誇らしく、勇気付けられるものであります。

日生病院はこれからも地域の皆様ならびに地区医師会の先生方のお役に立つ病院を目指して、職員一同、一層努力してまいります。

平成20年の当院活動状況を記したこの年報にお目通し頂きますとともに、今後とも日生病院に対してご指導とご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

目 次

∞ 平成 20 年日生病院年報の発刊にあたって

院長 寺川 直樹

∞ 第 1 章 軌 跡

1.日生病院の概要・理念・基本方針	……P1
2.患者様の権利・学会認定	……P2
3.日本生命済生会組織図	……P3

∞ 第 2 章 病院統計

1.1日平均外来患者数	…… 4
2.1日平均入院患者数	…… 5
3.救急患者数	…… 6
4.病床稼働率	…… 7
5.産科関係件数	…… 8
6.手術件数	…… 8
7.薬剤関係件数	…… 9
8.リハビリテーション関係件数	……10
9.レントゲン・RI・CT関係件数	……10
10.中央臨床検査部検査件数	……11
11.生理検査関係件数	……12
A. 脳波検査	……12
B. 超音波検査	……12
C. 生理検査	……12
D. 内視鏡検査	……12
E. 眼科(屈折・眼圧)検査	……13
F. 眼科(網膜・神経)検査	……13
G. 平行機能検査	……13
12.医療生活相談室・取扱件数	……14
13.各科別医療収入	……16
14.医療行為別医療収入	……18
15.病院従業員数	……20
16.退院患者統計	……21
1)退院患者医療評価指標 (1)・(2)	……21
2)診療科別・月別・退院患者数	……23
3)診療科別・月別・死亡剖検数	……24
4)疾病統計	……25
5)手術統計	……26
6)紹介入院患者 疾患トップ20	……33

目 次

∞ 第3章 診療業務

◆循環器・神経内科	36
◆消化器内科	37
◆総合内科	38
◆血液・化学療法内科	39
◆神経科・精神科	40
◆小児科	41
◆消化器・一般外科	42
◆乳腺外科	43
◆整形外科	44
◆皮膚科	45
◆泌尿器科	46
◆産婦人科	47
◆眼 科	48
◆耳鼻咽喉科	49
◆放射線科	50
◆麻酔科	51
◆病理診断科	52
◆がん治療センター	53
◆低侵襲医療センター	54
◆生活習慣病センター	55
◆予防医学センター（健康管理科）	56

∞ 第4章 部別概要

◆中央臨床検査部	57
◆看護部	58
◆薬剤部	59
◆治験管理室	60
◆栄養管理室	61
◆医療生活相談室	62
◆地域医療連携室	63
◆業績	64

∞ 第5章 諸活動

◆診療科別教育	79
◆全体教育	80
◆地域活動	91
◆ボランティア	92
◆院内行事	93

～日生病院の概要～

財団法人日本生命済生会は大正13年に「済生利民」を基本理念として創設されました。平成21年の今年は85年目です。日生病院は、財団法人日本生命済生会の附属病院として、昭和6年6月に開院されました。当院は現在17診療科を有し、大阪市西部の地域基幹病院・研修指定病院として、急性期医療の充実と患者サービスの向上ならびに医療人の育成に努めております。平成13年には日本医療機能評価機構より病院機能評価の認定を取得し、その後18年には審査体制区分3 (Ver5.0) に認定されました。平成14年には開放型病院の認定を受け、地域医療機関との連携を進めるとともに厚生省指定の臨床研修病院になっております。総合健診クリニック予防医学センターは、平成17年には日本病院会 日本人間ドック学会の優良施設「人間ドック・健診施設機能評価」を認定取得し、平成20年4月より日生看護専門学校跡に新装、移転しました。

医療安全、患者サービスの向上に目を向けますと、平成19年には患者様にやさしい治療であるカテーテル治療や内視鏡手術の推進を目的に低侵襲医療センターを開設し、排尿障害の電話相談などにも対応しています。近年のがん患者の増加を踏まえて、各科医師によるチーム医療を提供し、緩和医療にも取り組むため、がん治療センターを立ち上げました。緩和ケアチームの充実、20年10月に乳腺外科の新設を行い、大阪市乳がん検診（マンモグラフィ）取扱い機関に認定、大阪府がん診療拠点病院の認定を受け、内容の充実をはかっています。平成20年7月に生活習慣病センターを設置し、生活習慣を変えることによる疾患の改善を目的としています。このように診療科をこえて、あるいは多くのコ・メディカルの参加によるチーム医療を充実させてきました。

日本生命済生会は病院事業のほかに、総合健診クリニック予防医学センター（人間ドック、定期健康診断、無料・低額診療事業）、日生訪問看護ステーション、日生ケアプランセンターを通じて地域住民の健康増進に貢献しております。

日生病院理念と基本方針

理念

日生病院は、(財)日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、質の高い医療サービスの提供を目指します。

基本方針

1. 患者様の立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令の順守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 社会に学び、地域医療に貢献します。

～患者様の権利について～

医療は患者様と医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合って作り上げていくものです。日生病院では、患者様中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者様の権利を大切にいたします。

1. 患者様は、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者様は、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者様は、十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者様は、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者様は、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

なお、患者様におかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけるい責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

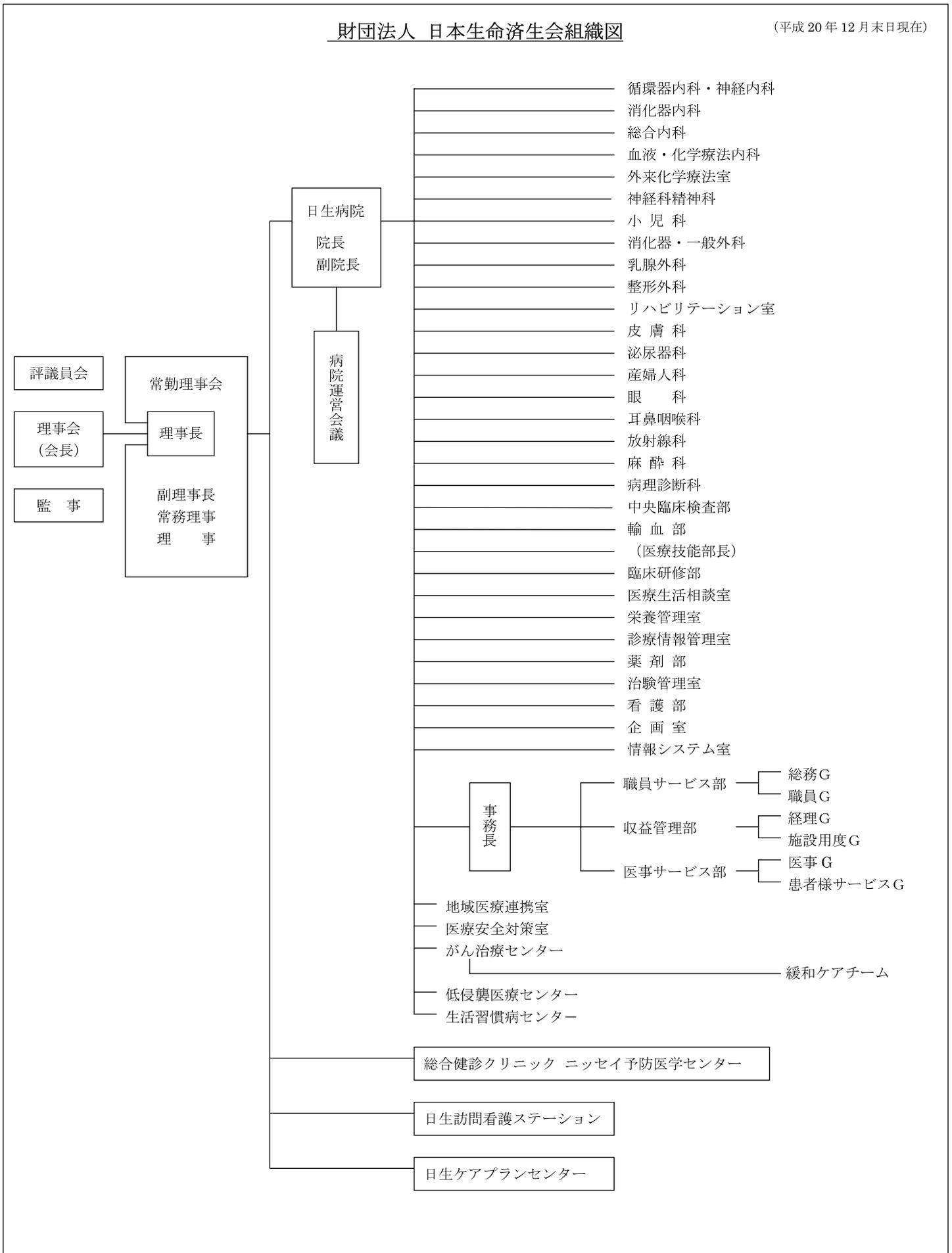
～学会認定～

- 日本内科学会
- 日本整形外科学会
- 日本血液学会
- 日本超音波医学会
- 日本循環器学会
- 日本皮膚科学会
- 日本眼科学会
- 日本病理学会
- 日本消化器外科学会
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本外科学会
- 日本泌尿器科学会
- 日本耳鼻咽喉科学会
- 日本アレルギー学会
- 日本産婦人科学会
- 日本麻酔科学会
- 日本小児科学会
- 日本臨床腫瘍学会
- 日本糖尿病学会
- 日本プライマリ・ケア学会
- 日本医学放射線学会
- 日本ペインクリニック学会
- 日本リウマチ学会
- 日本臨床細胞学会
- 日本内分泌学会
- 日本乳癌学会
- 日本消化器病学会
- 日本心血管インターベンション学会

(平成 20 年 12 月 31 日現在)

財団法人 日本生命済生会組織図

(平成 20 年 12 月末日現在)



第2章 病院統計

1 一日平均外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計平均
内科 (計)	289人 (238)	278人 (279)	279人 (284)	275人 (277)	279人 (291)	267人 (276)	273人 (286)	269人 (260)	284人 (290)	290人 (279)	303人 (275)	304人 (300)	283人 (278)
循環器内科 神経内科	102 (87)	96 (101)	96 (106)	96 (102)	99 (101)	93 (98)	92 (101)	91 (90)	94 (100)	96 (101)	104 (92)	103 (107)	97 (99)
消化器内科	61 (56)	64 (66)	63 (68)	62 (65)	61 (69)	60 (63)	56 (63)	60 (60)	63 (62)	64 (60)	64 (63)	66 (64)	62 (63)
総合内科	103 (74)	94 (88)	99 (88)	95 (88)	96 (99)	95 (93)	102 (98)	95 (88)	106 (103)	105 (97)	109 (99)	112 (104)	101 (93)
血液内科	23 (21)	24 (24)	21 (22)	22 (22)	23 (22)	19 (22)	23 (24)	23 (22)	21 (25)	25 (21)	26 (21)	23 (25)	23 (23)
神経科・精神科	62 (44)	57 (55)	60 (55)	57 (56)	56 (58)	56 (55)	59 (59)	58 (55)	55 (57)	62 (56)	61 (56)	64 (60)	59 (56)
小児科	45 (40)	43 (43)	49 (49)	42 (46)	39 (46)	42 (43)	39 (41)	38 (38)	36 (37)	42 (38)	51 (47)	61 (56)	44 (44)
外科 (計)	41 (35)	43 (42)	46 (43)	39 (38)	43 (38)	43 (38)	38 (40)	36 (42)	42 (44)	45 (45)	47 (46)	56 (49)	43 (42)
消化器・一般外科										36	32	44	37
乳腺外科										9	15	12	12
整形外科	72 (68)	65 (77)	75 (82)	61 (75)	77 (76)	74 (75)	73 (79)	71 (69)	76 (75)	73 (72)	70 (73)	69 (74)	71 (75)
皮膚科	119 (87)	114 (104)	117 (105)	112 (101)	117 (109)	112 (111)	123 (112)	106 (105)	116 (124)	115 (113)	121 (112)	115 (116)	116 (108)
泌尿器科	52 (41)	50 (49)	47 (52)	46 (51)	49 (49)	45 (48)	48 (51)	45 (48)	52 (54)	50 (50)	54 (48)	51 (51)	49 (49)
産婦人科	76 (57)	71 (72)	71 (67)	80 (65)	75 (70)	74 (71)	77 (74)	71 (71)	73 (73)	75 (72)	80 (73)	77 (74)	75 (70)
眼科	57 (44)	55 (53)	56 (53)	58 (52)	57 (55)	58 (49)	54 (50)	55 (52)	55 (54)	57 (53)	57 (51)	60 (56)	57 (52)
耳鼻咽喉科	75 (68)	71 (83)	82 (79)	73 (78)	76 (74)	75 (70)	70 (67)	69 (69)	78 (70)	77 (72)	74 (76)	86 (80)	76 (74)
放射線科	6 (8)	5 (13)	5 (11)	6 (9)	7 (9)	13 (10)	18 (9)	13 (7)	9 (9)	11 (9)	10 (6)	9 (6)	9 (9)
麻酔科	21 (17)	20 (21)	21 (22)	22 (20)	22 (19)	22 (19)	20 (20)	21 (19)	22 (19)	25 (20)	23 (20)	24 (21)	22 (20)
歯科	25 (25)	20 (26)	15 (28)	(26)	(27)	(28)	(27)	(27)	(27)	(27)	(25)	(27)	5 (27)
健康管理科	9 (3)	10 (5)	8 (7)	(5)	(7)	(9)	(11)	(10)	(10)	(12)	(12)	(10)	2 (8)
合計	949 (775)	902 (922)	931 (937)	871 (899)	897 (928)	881 (902)	892 (926)	852 (872)	898 (943)	922 (918)	951 (920)	976 (980)	910 (910)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入

2. ()内は前年同月

3. 乳腺外科-H20.10開設

4. 歯科-H20.3廃止

5. 健康管理科-H20.3末まで

[医 事 G]

2 一日平均入院患者数

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		累計平均					
内科 (計)	133人 (128)	27人	128人 (143)	31人	125人 (139)	25人	122人 (131)	21人	116人 (127)	20人	121人 (124)	29人	119人 (119)	40人	115人 (128)	38人	121人 (125)	29人	131人 (137)	30人	127人 (131)	21人	121人 (125)	34人	123人 (130)	29人				
循環器内科 神経内科	49 (41)	10	46 (54)	8	45 (53)	7	45 (48)	6	42 (42)	3	40人 (46)	5	40 (44)	11	40 (48)	14	40 (49)	14	50 (49)	12	50 (49)	9	45 (46)	11	44 (47)	9				
消化器内科	25 (22)	3	23 (20)	2	23 (23)	4	23 (23)	1	17 (23)	2	24 (27)	2	17 (25)	1	21 (21)	2	21 (18)	3	24 (25)	5	23 (24)	1	23 (23)	1	22 (23)	2				
総合内科	34 (33)	13	39 (36)	19	34 (36)	12	29 (36)	14	32 (38)	15	31 (31)	22	40 (28)	25	32 (35)	20	32 (35)	12	34 (38)	11	35 (35)	10	35 (31)	20	34 (34)	16				
血液内科	25 (32)	1	20 (33)	2	23 (27)	2	25 (24)		25 (24)		26 (20)		22 (22)	3	22 (24)	2	28 (23)		23 (25)	2	19 (23)	1	18 (25)	2	23 (25)	1				
神経科・精神科	8 (8)	6	9 (7)	2	12 (9)	4	12 (10)	3	14 (10)	2	14 (9)	1	14 (13)	3	13 (13)	4	13 (12)	2	11 (13)	3	10 (10)	2	14 (9)	4	12 (10)	3				
小児科	8 (4)	1	6 (6)		8 (6)		8 (5)		7 (6)		5 (6)		6 (5)		5 (6)		5 (4)		5 (3)		5 (7)		7 (9)		6 (6)	0				
外科 (計)	32 (28)	6	25 (25)	5	23 (25)	4	27 (26)	6	23 (20)	4	22 (21)	5	22 (26)	5	18 (29)	3	20 (22)	7	27 (25)	3	25 (24)	3	28 (28)	4	24 (25)	5				
消化器・一般外科																											24	26	25	
乳腺外科																												1	2	2
整形外科	32 (32)	3	31 (27)	4	24 (29)	6	29 (33)	6	28 (31)		27 (32)		28 (30)		30 (27)	1	28 (22)		26 (28)	1	30 (33)		30 (29)		29 (29)	2				
皮膚科	10 (9)	3	8 (10)	5	14 (11)	2	11 (10)	3	15 (13)	2	15 (12)	1	12 (15)	2	16 (14)	5	13 (13)		12 (13)	2	11 (12)	4	11 (9)	3	12 (12)	3				
泌尿器科	13 (7)	2	11 (9)	1	9 (9)	2	11 (13)	2	13 (9)	2	13 (11)	1	12 (10)	2	14 (12)	2	15 (16)	3	9 (17)	5	11 (14)	3	14 (14)	1	12 (12)	2				
産婦人科	33 (29)	1	41 (41)	1	38 (35)	1	33 (35)	2	36 (33)	2	38 (37)	1	38 (35)		39 (34)	1	35 (34)	2	34 (37)		36 (33)		38 (28)		37 (34)	1				
眼科	5 (7)		9 (9)		9 (6)	1	8 (4)	1	7 (5)	1	10 (7)	1	9 (7)		6 (4)	2	5 (2)	2	8 (4)		5 (7)		4 (5)		7 (6)	1				
耳鼻咽喉科	6 (6)		7 (8)		5 (11)		8 (11)		4 (11)		10 (9)		8 (12)	1	6 (10)		3 (8)		4 (9)		5 (7)		6 (5)	1	6 (9)	0				
放射線科	0 (0)		0 (0)	0																										
麻酔科	0 (0)	5	0 (1)	4	0 (0)	5	0 (0)	4	0 (0)	4	0 (0)	3	0 (0)	2	0 (0)	4	0 (0)	2	0 (0)	3	0 (0)	2	0 (0)	1	0 (0)	3				
歯科	0 (0)		0 (0)	0																										
健康管理科	0 (0)		0 (0)	0																										
合計	280 (258)	54	275 (286)	53	267 (280)	50	269 (278)	48	263 (265)	37	275 (268)	42	268 (272)	55	262 (277)	60	258 (258)	47	267 (286)	47	265 (278)	35	273 (261)	48	267 (272)	48				

(注) 1. 明朝体数字は、共観数
2. ()内は前年同月
3. 乳腺外科 - H20.10開設

4. 歯科-H20.3廃止
5. 健康管理科-H20.3末まで

[医事G]

3 救急患者数

	人 数												内、入院数												累 計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	<入院>
内科(計)	239	170	172	162	159	172	143	155	156	179	137	178	96	83	77	85	77	91	72	79	69	91	69	69	2022	<958>
循環器内科	101	67	67	66	61	63	64	60	48	80	41	66	45	36	37	41	41	37	36	36	25	46	25	41	784	<446>
消化器内科	52	23	32	33	28	36	18	30	27	29	32	38	22	9	15	15	12	17	9	12	8	20	18	10	378	<167>
総合内科	66	66	64	45	49	59	52	51	58	60	53	56	17	35	18	20	17	30	20	24	24	21	20	15	679	<261>
血液・化学療法内科	20	14	9	18	21	14	9	14	23	10	11	18	12	3	7	9	7	7	7	7	12	4	6	3	181	<84>
神経科・精神科	3	2	4	8	5	2	2	6	7	3	2	4	0	1	2	3	2	1	1	1	3	2	1	3	48	<20>
小児科	17	19	24	25	30	19	18	26	23	13	24	38	14	14	16	16	19	11	12	14	14	11	19	23	276	<183>
外科	18	25	15	28	28	23	29	25	25	29	18	20	9	20	13	14	9	8	12	11	10	12	11	12	283	<141>
整形外科	37	21	28	26	16	24	32	39	19	19	21	22	23	10	17	10	7	11	10	19	10	12	14	10	304	<153>
皮膚科	14	19	20	14	27	16	23	20	12	24	15	17	9	14	12	7	19	12	12	11	8	13	9	13	221	<139>
泌尿器科	12	12	9	9	7	12	15	11	13	14	16	18	7	5	4	9	6	5	7	9	2	7	7	10	148	<78>
産婦人科	61	53	72	52	80	70	59	43	52	68	54	56	34	27	49	20	48	42	33	29	28	40	31	32	720	<413>
眼科	1	3	2	2	2	0	5	1	4	1	1	1	1	0	1	1	1	0	2	0	1	1	0	1	23	<9>
耳鼻咽喉科	31	14	39	18	18	22	16	15	15	12	26	23	7	4	11	9	9	15	12	9	8	8	13	13	249	<118>
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	<0>
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	<0>
歯科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	<0>
合計	434	338	385	344	372	360	342	341	326	362	314	378	200	178	202	174	197	196	173	182	153	197	174	186	4296	<2,212>

1. 歯科-H20.3廃止

[医事G、総務G]

4 病床稼働率

	定床	定床	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計平均	前年度累計平均
3階	60床	1日平均患者数	46人	44人	41人	43人	39人	44人	41人	40人	39人	42人	40人	45人	42人	42人
		稼働率	76.7%	73.3%	68.3%	71.7%	65.0%	73.3%	68.3%	66.7%	65.0%	70.0%	66.7%	75.0%	70.0%	70.7%
4階(西)	60	1日平均患者数	49	46	48	48	49	51	49	47	45	44	45	46	47	49
		稼働率	81.7	76.7	80.0	80.0	81.7	85.0	81.7	78.3	75.0	73.3	75.0	76.7	78.8	82.1
4階(東)	51	1日平均患者数	40	39	36	37	37	37	37	41	36	41	41	38	38	39
		稼働率	78.4	76.5	70.6	72.5	72.5	72.5	72.5	80.4	70.6	80.4	80.4	74.5	75.2	76.5
5階(西)	44	1日平均患者数	38	38	39	38	37	40	38	36	38	38	37	37	38	39
		稼働率	86.4	86.4	88.6	86.4	84.1	90.9	86.4	81.8	86.4	86.4	84.1	84.1	86.0	88.1
5階(東)	49	1日平均患者数	38	41	37	38	37	37	38	37	37	40	40	39	38	39
		稼働率	77.6	83.7	75.5	77.6	75.5	75.5	77.6	75.5	75.5	81.6	81.6	79.6	78.1	78.9
6階(西)	42	1日平均患者数	36	36	33	33	33	37	35	36	38	37	36	35	35	36
		稼働率	85.7	85.7	78.6	78.6	78.6	88.1	83.3	85.7	90.5	88.1	85.7	83.3	84.3	84.9
6階(東)	27	1日平均患者数	23	25	23	22	23	24	23	20	20	19	21	24	22	23
		稼働率	85.2	92.6	85.2	81.5	85.2	88.9	85.2	74.1	74.1	70.4	77.8	88.9	82.4	84.9
小計	333	1日平均患者数	270	269	257	259	255	270	261	257	253	261	260	264	261	267
		稼働率	81.1	80.8	77.2	77.8	76.6	81.1	78.4	77.2	76.0	78.4	78.1	79.3	78.5	80.1
小児	10	1日平均患者数	4	3	3	4	4	2	3	3	3	3	4	5	3	3
		稼働率	40.0	30.0	30.0	40.0	40.0	20.0	30.0	30.0	30.0	30.0	40.0	50.0	34.2	33.3
未熟児	7	1日平均患者数	4	3	4	4	3	3	3	1	2	1	1	2	3	2
		稼働率	57.1	42.9	57.1	57.1	42.9	42.9	42.9	14.3	28.6	14.3	14.3	28.6	36.9	32.1
計	350	1日平均患者数	278	275	264	267	262	275	267	261	258	265	265	271	267	272
		稼働率	79.4	78.6	75.4	76.3	74.9	78.6	76.3	74.6	73.7	75.7	75.7	77.4	76.4	77.8

5 産科関係件数

科名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
分娩	45	32	44	29	37	46	38	34	30	26	30	37	428	404
帝王切開	14	7	8	6	3	7	7	6	5	5	2	8	78	94
両親学級後期Ⅰ	21	18	23	52	31	24	25	10	17	40	15	19	295	254
両親学級後期Ⅱ	19	15	17	24	14	22	31	21	33	35	18	12	261	231
マタニティピクス	42	44	18	54	67	62	70	22	29	63	59	50	580	687
アフターピクス	76	78	38	71	39	44	56	36	44	48	44	38	612	605
ベビーピクス	30	42	33	57	62	64	86	64	73	84	75	65	735	643

6 手術件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
外科	40 (23)	39 (22)	37 (16)	42 (25)	33 (21)	33 (23)	30 (18)	24 (14)	40 (25)	41 (27)	30 (24)	36 (25)	425 (263)	412 (258)
乳腺外科										1 (1)	2 (2)	6 (6)	9 (9)	0 (0)
整形外科	16 (10)	17 (10)	19 (9)	18 (9)	20 (13)	21 (14)	22 (14)	16 (10)	20 (9)	19 (8)	15 (12)	12 (5)	215 (123)	233 (125)
婦人科	63 (35)	60 (45)	55 (39)	54 (41)	58 (42)	57 (37)	55 (39)	66 (46)	53 (39)	60 (43)	53 (37)	56 (41)	690 (484)	612 (420)
泌尿器科	29 (6)	28 (7)	23 (10)	26 (6)	23 (7)	32 (8)	32 (6)	27 (6)	21 (6)	28 (9)	24 (4)	34 (8)	327 (83)	338 (79)
耳鼻科	13 (6)	6 (3)	6 (6)	9 (6)	9 (4)	7 (6)	16 (10)	6 (5)	4 (2)	5 (4)	7 (3)	4 (0)	92 (55)	109 (71)
眼科	34 (0)	54 (0)	60 (0)	62 (1)	48 (0)	56 (1)	55 (0)	35 (0)	45 (1)	56 (0)	51 (1)	45 (0)	601 (4)	412 (6)
皮膚科	18 (0)	12 (0)	14 (0)	14 (0)	21 (1)	15 (0)	19 (0)	8 (0)	12 (0)	16 (0)	20 (2)	18 (0)	187 (3)	236 (12)
麻酔科他	3 (0)	11 (0)	11 (0)	6 (0)	1 (0)	12 (0)	16 (0)	11 (0)	9 (0)	8 (0)	1 (0)	2 (0)	91 (0)	70 (1)
合計	216 (80)	227 (87)	225 (80)	231 (88)	213 (88)	233 (89)	245 (87)	193 (81)	204 (82)	234 (92)	203 (85)	213 (85)	2637 (1024)	2423 (972)

[中央手術材料部・麻酔科]

- 1.中央手術室以外での手術、麻酔は含まれない。
- 2.()内は全身麻酔。

7 薬剤関係件数

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計		
処方箋	外来	枚数	枚数	2,037	1,922	2,004	1,492	1,716	1,719	1,940	1,783	1,697	1,933	1,580	1,844	21,667	24,490
			件数	2,831	2,501	2,659	2,211	2,413	2,399	2,784	2,552	2,499	2,882	2,468	2,943	31,142	35,920
		当日	枚数	89	84	77	62	72	66	78	66	74	74	66	80	74	83
			件数	123	109	102	92	101	92	111	95	109	111	103	128	106	122
	入院	総数	枚数	4,650	4,290	4,076	4,021	4,364	4,319	4,636	4,340	3,856	4,760	3,928	4,260	51,500	48,223
			件数	8,467	8,182	7,506	7,516	7,831	7,558	8,283	7,399	6,785	8,706	7,239	7,556	93,028	87,334
		当日	枚数	150	153	131	134	141	144	150	140	129	159	131	137	142	132
			件数	273	292	242	251	253	252	267	239	226	290	241	244	256	240
注射	総数	枚数	6,286	5,452	5,219	5,606	6,286	6,101	6,940	5,583	5,646	6,710	6,614	7,216	73,659	70,375	
	1日当日	枚数	203	195	168	187	203	203	224	180	188	224	220	233	202	194	

摘要	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定	735	747	746	746	785	822	828	780	733	747	695	750	9,114	9,016
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)	137	141	132	116	138	128	150	130	100	188	171	193	1,724	1,288
(入院化学療法)	80	89	70	76	93	47	78	83	76	70	60	61	883	848
TPN調製件数	169	126	163	161	217	254	164	183	166	146	192	152	2,093	2,890

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計	
麻薬処方箋	外来	内用	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	4	2	
		外用	3	4	6	5	4	5	13	6	6	6	4	4	66	50
		注射	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	内用	104	58	54	59	46	51	79	40	43	47	38	39	658	926
		外用	58	42	53	39	31	58	69	47	51	68	56	57	629	788
		注射	123	143	147	153	156	138	149	138	159	163	169	156	1,794	1,524

製剤室

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
製剤	件数	339	364	241	224	350	314	442	421	282	363	177	506	4,023	3,687
無菌製剤	件数	127	167	187	165	131	175	149	176	150	184	191	226	2,028	1,999

[薬剤部]

8 リハビリテーション関係件数

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
運動器リハ	外来	203	242	237	185	184	226	215	184	225	264	169	206	2540	2874
	入院	1036	1114	969	1068	995	1142	1442	1296	1140	1373	1101	1371	14047	12778
呼吸器リハ	外来	1	0	0	2	0	0	0	6	0	1	1	0	11	2
	入院	10	9	0	15	33	13	4	26	27	7	19	7	170	56
脳血管リハ	外来	15	17	13	7	7	11	11	21	33	18	34	20	207	126
	入院	53	16	25	72	68	85	66	75	52	67	90	76	745	1102
退院指導	入院	30	34	35	26	33	36	13	36	33	53	34	43	406	427
その他	外来	13	3	6	2	4	10	11	7	7	4	1	5	73	111
	入院	16	9	7	7	5	12	13	3	4	5	6	14	101	351
小計	外来	232	262	256	196	195	247	237	218	265	287	205	231	2831	3113
	入院	1145	1182	1036	1188	1134	1288	1538	1436	1256	1505	1250	1511	15469	14714
総合計		1377	1444	1292	1384	1329	1535	1775	1654	1521	1792	1455	1742	18300	17827

[リハビリテーション室]

9 レントゲン・RI・CT関係件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
単 純	2,727	2,615	2,634	2,617	2,586	2,542	2,551	2,469	2,427	2,801	2,324	2,608	30,901	31,958
造影剤使用	290	293	271	144	123	154	144	131	114	145	132	124	2,065	3,381
C T	727	722	659	657	733	718	729	644	688	805	628	678	8,388	7,957
核医学 IN vivo	74	73	70	48	41	47	47	40	46	40	40	47	613	820
M R I	332	321	361	367	379	412	428	385	356	411	343	378	4,473	4,444
治 療	0	0	0	0	12	208	300	198	98	159	81	99	1,155	997
合 計	4,150	4,024	3,995	3,833	3,874	4,081	4,199	3,867	3,729	4,361	3,548	3,934	47,595	49,557

[放射線科]

10 中央臨床検査部検査件数

検査室名	検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
外来検査室	尿	12,065件	12,315件	12,349件	11,205件	11,483件	11,640件	11,726件	11,605件	12,107件	14,104件	12,097件	12,899件	145,595件
	糞便	552	668	572	356	385	235	320	316	329	978	744	687	6,142
	計	12,617 (11,572)	12,983 (11,527)	12,921 (13,385)	11,561 (11,960)	11,868 (13,520)	11,875 (12,989)	12,046 (14,125)	11,921 (13,932)	12,436 (11,825)	15,082 (14,356)	12,841 (13,427)	13,586 (12,149)	151,737 (154,767)
化学検査室	化学・血清	112,394	107,036	111,282	108,643	110,028	107,987	113,783	108,563	109,839	124,728	113,512	117,025	1,344,820
	輸血	109	116	116	211	162	201	136	134	142	176	137	210	1,850
	尿化学	607	855	698	743	725	778	963	662	655	935	743	630	8,994
	ワール髄液	345	337	178	100	109	99	111	85	85	115	88	115	1,767
	止血他	1,783	1,836	1,913	1,762	1,775	1,993	1,744	1,727	1,774	1,803	1,480	1,613	21,203
	計	115,238 (99,462)	110,180 (94,672)	114,187 (104,389)	111,459 (98,343)	112,799 (109,567)	111,058 (108,383)	116,737 (113,529)	111,171 (116,541)	112,495 (100,771)	127,757 (128,462)	115,960 (114,236)	119,593 (107,028)	1,378,634 (1,295,383)
細菌検査室	一般細菌	4,871	4,693	4,311	4,947	4,957	4,902	6,062	5,050	5,442	4,844	4,002	5,640	59,721
	抗酸菌	173	174	162	228	176	164	158	138	115	166	154	168	1,976
	計	5,044 (5,923)	4,867 (3,794)	4,473 (5,078)	5,175 (4,666)	5,133 (6,351)	5,066 (5,031)	6,220 (4,413)	5,188 (7,306)	5,557 (5,347)	5,010 (5,966)	4,156 (4,975)	5,808 (4,802)	61,697 (63,652)
病理検査室	病理組織染色	501	525	526	556	527	546	669	533	514	619	531	578	6,625
	細胞診	637	635	679	805	825	831	931	751	749	895	757	786	9,281
	計	1,138 (1,079)	1,160 (1,199)	1,205 (1,308)	1,361 (1,121)	1,352 (1,372)	1,377 (1,242)	1,600 (1,267)	1,284 (1,316)	1,263 (1,081)	1,514 (1,444)	1,288 (1,402)	1,364 (1,138)	15,906 (14,969)
血液検査室	血色素量他	33,831	32,528	33,627	33,960	34,290	34,458	37,002	34,646	34,777	37,834	35,504	36,226	418,683
	特殊検査	31	21	24	27	24	24	29	21	11	10	6	13	241
	計	33,862 (31,235)	32,549 (29,281)	33,651 (32,482)	33,987 (29,940)	34,314 (32,941)	34,482 (31,994)	37,031 (33,342)	34,667 (34,574)	34,788 (30,046)	37,844 (39,199)	35,510 (33,812)	36,239 (31,649)	418,924 (390,495)
合計		167,899 (149,271)	161,739 (140,473)	166,437 (156,642)	163,543 (146,030)	165,466 (163,751)	163,858 (159,639)	173,634 (166,676)	164,231 (173,669)	166,539 (149,070)	187,207 (189,427)	169,755 (167,852)	176,590 (156,766)	2,026,898 (1,919,266)
剖検		2(2)	0(2)	4(2)	0(0)	1(1)	0(2)	0(1)	1(2)	1(0)	1(0)	0(4)	2(0)	12(16)

()内前年同月

[中央臨床検査部]

11 生理検査関係件数

A.脳波関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
脳波	19件	14件	19件	18件	21件	22件	20件	25件	19件	19件	9件	18件	223件	210件
筋電図他	10	18	8	12	10	13	16	8	11	12	11	12	141	119
計	29	32	27	30	31	35	36	33	30	31	20	30	364	329件

[神経科・精神科・脳波室]

B.超音波検査室

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
甲状腺	42件	57件	59件	43件	60件	69件	62件	60件	40件	78件	67件	66件	703件	626件
乳腺	80 (0)	89 (1)	97 (2)	97 (0)	82 (0)	93 (0)	106 (0)	76 (0)	76 (0)	40 (0)	30 (0)	20 (0)	886 (3)	1172 (51)
腹部	314 (102)	359 (238)	358 (135)	193 (2)	217 (2)	206 (1)	232 (3)	198 (5)	208 (0)	276 (2)	232 (5)	243 (5)	3,036 (500)	4,220 (1,462)
その他	8	16	13	17	19	16	12	12	17	17	16	11	174	183
計	444	521	527	350	378	384	412	346	341	411	345	340	4,799	6,201

()内はドック件数

[超音波検査室]

C.生理検査室

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
心電図	1,007件	960件	967件	798件	788件	835件	761件	754件	723件	871件	722件	770件	9,956件	11,483件
トレッドミル	21	38	43	45	29	32	41	34	30	38	36	40	427	401
負荷心筋シチ	3	5	3	2	1	1	1	2	1	1	2	6	28	22
持続心電図	21	25	24	22	29	23	30	26	24	33	27	29	313	266
心エコー	101	113	147	137	134	137	170	156	146	151	140	162	1,694	1,529
末梢血管エコー	50	68	75	52	67	72	64	67	65	80	60	81	801	727
肺機能	124	80	107	111	116	121	114	101	117	135	106	105	1,337	1,283
サーモグラフィー	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	13
A B I	56	55	53	47	40	49	53	54	51	88	66	69	681	550
その他循環器系検査	8	17	10	5	6	10	19	15	8	16	10	9	133	102
計	1,391	1,361	1,429	1,219	1,210	1,282	1,254	1,209	1,165	1,413	1,169	1,271	15,373	16,366

[循環器生理検査室]

D.内視鏡関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
胃・十二指腸・食道ファイバースコープ	194件	238件	208件	195件	224件	192件	238件	192件	193件	224件	182件	148件	2,428件	2,435件
胃ポリヘクミ	4	2	2	2	2	3	2	3	1	2	4	4	31	22
大腸ファイバースコープ (大腸ポリヘクミ)	69 (22)	80 (20)	93 (22)	95 (31)	80 (22)	100 (28)	95 (22)	92 (21)	76 (26)	93 (22)	78 (15)	82 (21)	1,033 (272)	1025 (245)
ERCP、その他	10	9	2	8	6	7	10	5	9	7	9	7	89	93
食道静脈瘤結紮	0	2	0	1	1	0	0	0	2	1	0	1	8	9
計	277	331	305	301	313	302	345	292	281	327	273	242	3,589	3,584

[内視鏡室]

E.眼科(屈折、眼圧)検査関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
屈折検査	546件	634件	617件	680件	644件	670件	678件	676件	538件	559件	434件	557件	7,233件	6,911件
矯正検査	859	869	865	937	877	914	901	921	840	968	787	948	10,686	9,460
調節検査	8	10	13	10	7	15	11	26	7	9	20	13	149	158
調節負荷検査	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	6
角膜曲率半径計測	34	33	41	25	48	36	16	35	31	34	40	43	416	331
超音波眼軸長測定(A-モード)	26	23	35	23	27	31	16	21	26	27	29	20	304	215
精密眼圧測定	874	1,051	968	1,026	951	1,031	998	1,000	947	1,064	821	980	11,711	10,326
精密眼圧負荷測定	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	5	2	14	8
計	2,347	2,620	2,541	2,705	2,555	2,697	2,621	2,679	2,390	2,662	2,136	2,563	30,516	27,415

[眼科]

F.眼科(網膜、神経)検査関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
眼底カメラ撮影	25件	31件	42件	29件	47件	43件	42件	59件	53件	71件	38件	66件	546件	372件
蛍光眼底カメラ撮影	5	9	7	13	7	12	9	12	4	11	7	7	103	85
前眼部・細隙灯加圧	24	33	39	26	43	41	18	32	36	35	39	23	389	378
角膜内細胞撮影	38	42	47	45	49	60	41	47	44	38	45	44	540	440
網膜電位図(ERG)	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0
精密視野検査(両側)	13	13	12	19	12	17	23	29	25	27	22	37	249	125
動的量的視野検査	15	12	12	15	10	13	16	14	10	16	16	14	163	144
静的量的視野検査	39	40	37	35	39	39	36	52	50	51	36	48	502	419
複像検査	3	8	12	13	4	4	3	9	5	6	7	8	82	78
網膜光凝固術(その他)	2	0	0	6	1	2	3	1	1	1	0	2	19	20
計	164	188	209	201	212	231	191	255	229	256	211	249	2,596	2,061

[眼科]

G.平行機能検査

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
平衡機能検査	136件	62件	144件	69件	83件	136件	87件	131件	139件	120件	78件	166件	1,351件	1,326件
聴力機能検査	192	209	203	174	170	216	208	197	187	175	157	236	2,324	2,074
その他	2	1	3	3	1	0	3	8	0	1	4	7	33	38
計	330	272	350	246	254	352	298	336	326	296	239	409	3,708	3,438

[耳鼻咽喉科]

12 医療生活相談室・取扱件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
循環器内科・神経内科	108	118	118	129	82	45	96	87	84	108	99	71	1145	1461
消化器内科	43	53	62	44	33	37	36	41	32	35	37	32	485	262
血液内科	23	15	24	16	17	35	26	29	29	21	15	31	281	205
総合内科	35	42	50	41	51	61	59	35	40	45	39	39	537	593
神経科・精神科	27	22	24	44	34	55	46	62	46	45	38	44	487	416
小児科	2	0	0	2	5	11	4	1	2	2	5	2	36	46
外科	30	21	22	27	28	26	32	31	16	24	19	25	301	401
整形外科	91	104	79	79	82	53	54	36	93	96	70	70	907	954
皮膚科	2	7	3	8	11	12	18	5	11	25	21	16	139	135
泌尿器科	3	6	9	8	14	1	2	16	22	11	4	4	100	200
産婦人科	8	5	10	9	11	10	10	27	20	38	26	31	205	74
眼科	2	6	1	0	6	19	6	9	15	3	0	3	70	27
耳鼻咽喉科	8	15	7	7	6	2	9	12	4	1	0	2	73	131
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0
麻酔科	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0
歯科・口腔外科	0	0	0										0	21
その他	7	6	6	9	9	9	6	2	4	6	5	5	74	104
合計	390	420	415	423	389	376	404	394	418	462	378	375	4844	5030

新規ケース紹介経路

	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	11	6	1	11	4	0	5	1	1	15	4	0	7	6	0	15	3	2
家族	2	3	0	5	4	0	3	4	2	5	6	0	1	4	0	4	6	1
医師	1	14	0	2	6	0	2	9	1	9	11	0	4	6	0	2	5	0
看護師	3	20	0	9	18	0	5	16	0	4	23	0	9	17	0	6	21	0
その他院内職員	1	1	0	1	2	0	4	5	0	4	1	0	2	3	0	1	4	0
保健福祉関係機関	6	7	0	3	6	1	5	2	2	3	6	0	3	7	2	5	7	0
医療機関	2	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	1	1	0	1	0	0	1
福祉施設	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
介護保健施設・事業所	3	0	0	3	1	0	3	0	0	2	2	1	4	3	0	4	3	0
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
小計	30	51	1	36	43	1	30	37	6	42	56	2	31	47	3	37	50	5
総合計	82			80			73			100			81			92		

	7月			8月			9月			10月			11月			12月			累計			前年累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	6	5	1	8	6	0	2	5	0	8	1	0	7	3	0	5	4	0	100	48	5	113	101	5
家族	7	5	0	5	3	0	1	5	1	2	4	1	2	2	0	6	6	0	43	52	5	51	77	14
医師	0	6	0	4	10	0	5	5	0	5	3	0	3	5	0	5	5	0	42	85	1	41	90	0
看護師	7	19	0	7	19	0	9	26	0	11	31	0	4	22	0	8	19	0	82	251	0	83	221	3
その他院内職員	1	3	0	3	3	0	4	3	0	4	3	0	1	3	0	2	0	0	28	31	0	28	27	0
保健福祉関係機関	7	16	0	1	7	0	2	9	1	3	10	2	5	1	0	9	13	0	52	91	8	49	79	9
医療機関	5	1	1	2	1	0	1	1	1	4	3	0	3	1	2	2	0	0	24	9	7	21	9	5
福祉施設	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	4	1	0
介護保健施設・事業所	4	1	0	1	1	0	8	4	0	5	8	1	2	1	0	1	2	0	40	26	2	42	15	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	1	5	2	1	3	0
小計	37	56	2	33	50	0	33	58	3	42	64	5	27	39	2	39	49	0	417	600	30	433	623	37
総合計	95			83			94			111			68			88			1047			1093		

13 各科別医療収入

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月		
	外来	入院	計																					
内科(計)	60,555	155,231	215,786	60,369	147,235	207,604	60,362	156,106	216,468	59,799	150,894	210,693	61,529	150,589	212,118	59,376	154,051	213,427	62,468	151,917	214,385	58,785	141,936	200,721
循環器内科	16,747	62,227	78,974	15,999	55,953	71,952	15,663	63,844	79,507	15,878	60,033	75,911	15,922	51,422	67,344	15,843	54,563	70,406	16,093	55,913	72,006	15,418	50,334	65,752
神経内科																								
消化器内科	11,024	27,701	38,725	10,665	22,819	33,484	10,202	27,172	37,374	9,916	28,502	38,418	9,682	23,020	32,702	9,267	29,388	38,655	9,513	22,788	32,301	9,689	29,224	38,913
総合内科	23,042	32,580	55,622	21,312	34,896	56,208	23,267	31,497	54,764	23,202	28,555	51,757	23,791	35,453	59,244	23,710	32,545	56,255	25,049	38,150	63,199	22,567	30,492	53,059
血液内科	9,742	32,723	42,465	12,393	33,567	45,960	11,230	33,593	44,823	10,803	33,604	44,407	12,134	40,694	52,828	10,556	37,555	48,111	11,813	35,066	46,879	11,111	31,886	42,997
神経科・精神科	5,566	6,009	11,575	5,523	6,354	11,877	5,769	8,586	14,355	5,761	9,081	14,842	5,455	11,844	17,299	5,918	10,957	16,875	6,304	10,640	16,944	6,301	9,428	15,729
小児科	8,170	8,295	16,465	8,133	6,857	14,990	9,826	8,712	18,538	8,085	8,082	16,167	3,907	8,659	12,566	4,263	5,268	9,531	4,396	6,941	11,337	4,916	6,674	11,590
外科(計)	17,730	46,442	64,172	17,698	33,962	51,660	19,486	31,663	51,149	15,898	37,615	53,513	19,051	31,949	51,000	19,943	34,640	54,583	19,882	30,881	50,763	18,184	23,996	42,180
消化器一般外科																								
乳腺外科																								
整形外科	6,982	33,872	40,854	6,900	34,493	41,393	8,436	30,360	38,796	7,108	34,710	41,818	8,313	31,207	39,520	8,503	39,050	47,553	8,508	37,097	45,605	7,783	34,119	41,902
皮膚科	8,257	8,900	17,157	7,992	7,613	15,605	8,221	13,786	22,007	9,521	9,832	19,353	9,550	14,609	24,159	9,353	13,726	23,079	11,020	13,523	24,543	8,544	14,972	23,516
泌尿器科	14,054	21,886	35,940	15,282	16,905	32,187	14,430	16,464	30,894	13,651	16,107	29,758	11,387	21,350	32,737	11,935	19,498	31,433	13,170	20,809	33,979	11,607	21,379	32,986
産婦人科	17,316	60,438	77,754	16,587	61,643	78,230	17,255	61,748	79,003	19,106	52,302	71,408	17,708	58,577	76,285	18,149	61,120	79,269	20,438	63,024	83,462	17,558	65,930	83,488
眼科	6,089	9,611	15,700	6,140	16,069	22,209	6,221	17,814	24,035	7,463	15,022	22,485	6,008	14,382	20,390	7,332	17,789	25,121	6,761	16,738	23,499	6,651	10,988	17,639
耳鼻咽喉科	5,563	7,049	12,612	5,655	6,372	12,027	6,703	5,987	12,690	5,780	8,341	14,121	6,078	4,828	10,906	6,168	10,412	16,580	6,059	10,320	16,379	6,019	6,619	12,638
放射線科	3,664	0	3,664	3,310	0	3,310	3,015	1	3,016	3,406	0	3,406	2,972	71	3,043	4,443	979	5,422	5,062	1,019	6,081	3,798	274	4,072
麻酔科	744	803	1,547	977	1,262	2,239	919	712	1,631	900	915	1,815	688	1,098	1,786	757	1,084	1,841	848	945	1,793	1,030	847	1,877
歯科	2,039	0	2,039	1,908	0	1,908	1,243	0	1,243															
健康管理科	5,803	284	6,087	7,321	577	7,898	6,402	0	6,402															
計	162,532	358,820	521,352	163,795	339,342	503,137	168,288	351,939	520,227	156,478	342,701	499,179	152,646	349,163	501,809	156,140	368,574	524,714	164,916	363,854	528,770	151,176	337,162	488,338
百分率	31%	69%	100%	33%	67%	100%	32%	68%	100%	31%	69%	100%	30%	70%	100%	30%	70%	100%	31%	69%	100%	31%	69%	100%

(注) 共観科の収入は主たる科の収入に含む場合もある。

1. 乳腺外科-H20.10開設
2. 歯科-H20.3廃止
3. 健康管理科-H20.3末まで

[単位:千円]

9月			10月			11月			12月			累計			前年度累計	対前年差額
外来	入院	計	外来	入院	計											
60,138	148,528	208,666	66,820	159,547	226,367	57,724	148,431	206,155	62,300	153,878	216,178	730,225	1,818,143	2,548,368	2,638,187	▲ 89,819
15,073	50,438	65,511	17,207	60,829	78,036	14,715	57,312	72,027	16,116	57,231	73,347	190,674	680,099	870,773	927,110	▲ 56,337
9,971	23,850	33,821	12,414	29,765	42,179	9,349	27,081	36,430	10,558	26,901	37,459	122,250	318,211	440,461	453,671	▲ 13,210
23,394	31,106	54,500	25,853	34,741	60,594	21,618	34,219	55,837	24,072	36,470	60,542	280,877	400,704	681,581	674,024	7,557
11,700	43,134	54,834	11,346	34,212	45,558	12,042	29,819	41,861	11,554	33,276	44,830	136,424	419,129	555,553	583,382	▲ 27,829
5,281	9,143	14,424	6,652	7,756	14,408	5,446	6,899	12,345	6,162	10,439	16,601	70,138	107,136	177,274	161,913	15,361
4,617	6,860	11,477	6,557	7,283	13,840	6,368	6,711	13,079	8,822	8,655	17,477	78,060	88,997	167,057	158,191	8,866
21,108	30,992	52,100	26,803	42,258	69,061	24,774	36,384	61,158	29,678	41,011	70,689	250,235	421,793	672,028	622,752	49,276
			20,932	0	20,932	16,565	35,303	51,868	21,564	37,060	58,624	59,061	72,363	131,424		
			5,871	0	5,871	8,209	1,081	9,290	8,114	3,951	12,065	22,194	5,032	27,226		
7,967	33,850	41,817	8,264	35,500	43,764	6,413	40,413	46,826	7,070	32,100	39,170	92,247	416,771	509,018	507,587	1,431
8,935	12,659	21,594	10,074	11,040	21,114	8,588	10,803	19,391	9,132	11,729	20,861	109,187	143,192	252,379	231,865	20,514
13,030	18,892	31,922	13,138	17,873	31,011	11,200	14,652	25,852	12,503	21,970	34,473	155,387	227,785	383,172	402,016	▲ 18,844
16,645	56,211	72,856	18,330	58,681	77,011	15,992	53,763	69,755	16,909	63,525	80,434	211,993	716,962	928,955	850,037	78,918
6,639	12,312	18,951	7,028	16,734	23,762	5,157	13,499	18,656	7,457	9,995	17,452	78,946	170,953	249,899	191,883	58,016
6,117	3,965	10,082	6,432	4,855	11,287	5,214	5,982	11,196	6,528	6,077	12,605	72,316	80,807	153,123	185,383	▲ 32,260
2,891	452	3,343	3,514	688	4,202	3,060	255	3,315	2,658	433	3,091	41,793	4,172	45,965	49,868	▲ 3,903
938	1,060	1,998	1,098	1,707	2,805	781	1,911	2,692	978	987	1,965	10,658	13,331	23,989	22,294	1,695
												5,190	0	5,190	35,747	▲ 30,557
												19,526	861	20,387	81,574	▲ 61,187
154,306	334,924	489,230	174,710	363,922	538,632	150,717	339,703	490,420	170,197	360,799	530,996	1,925,901	4,210,903	6,136,804	6,139,297	▲ 2,493
32%	68%	100%	32%	68%	100%	31%	69%	100%	32%	68%	100%	31%	69%	100%		

[医事G]

14 医療行為別医療収入

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月		
	外来	入院	計																					
初診料	5,003	252	5,255	4,765	249	5,014	5,005	183	5,188	5,009	227	5,236	4,826	259	5,085	5,366	238	5,604	5,079	200	5,279	4,676	242	4,918
再診料	9,685	0	9,685	9,738	0	9,738	10,092	0	10,092	9,960	0	9,960	9,768	0	9,768	9,920	0	9,920	10,595	0	10,595	9,730	0	9,730
指導料	13,019	3,959	16,978	11,884	4,590	16,474	13,110	4,111	17,221	12,383	4,272	16,655	13,201	4,715	17,916	12,372	4,610	16,982	13,112	4,855	17,967	12,664	4,404	17,068
投薬料	245	5,107	5,352	221	4,844	5,065	188	4,538	4,726	232	4,180	4,412	150	5,209	5,359	190	4,667	4,857	176	4,170	4,346	208	3,958	4,166
注射料	32,318	6,504	38,822	33,657	9,863	43,520	34,654	7,678	42,332	29,546	7,516	37,062	26,118	9,426	35,544	27,249	10,490	37,739	29,754	7,331	37,085	26,713	5,475	32,188
処置料	3,366	906	4,272	3,572	968	4,540	2,556	1,531	4,087	3,392	1,570	4,962	3,241	1,818	5,059	3,070	1,281	4,351	3,491	1,328	4,819	3,210	1,321	4,531
手術料	3,067	71,330	74,397	2,952	70,885	73,837	2,890	74,246	77,136	4,724	73,056	77,780	2,681	66,643	69,324	3,836	78,599	82,435	3,903	75,712	79,615	3,131	64,755	67,886
検査料	54,394	6,097	60,491	54,280	6,788	61,068	55,971	6,891	62,862	52,883	5,761	58,644	52,443	6,397	58,840	51,997	8,152	60,149	54,924	7,033	61,957	51,509	6,411	57,920
画像診断料	25,809	1,320	27,129	27,093	1,361	28,454	27,648	912	28,560	23,343	1,105	24,448	24,867	1,368	26,235	25,419	1,533	26,952	25,123	1,539	26,662	22,696	1,416	24,112
入院料	0	57,782	57,782	0	56,912	56,912	0	58,125	58,125	0	48,171	48,171	0	57,024	57,024	0	56,909	56,909	0	52,287	52,287	0	51,149	51,149
DPC入院料	0	159,388	159,388	0	146,500	146,500	0	152,688	152,688	0	157,655	157,655	0	155,673	155,673	0	156,893	156,893	0	165,305	165,305	0	158,679	158,679
理学療法料	440	2,444	2,884	547	2,713	3,260	501	2,445	2,946	335	2,219	2,554	299	2,196	2,495	408	2,761	3,169	366	3,085	3,451	332	2,581	2,913
処方箋	7,131	0	7,131	7,060	0	7,060	7,358	0	7,358	7,109	0	7,109	7,122	0	7,122	6,993	0	6,993	7,422	0	7,422	6,908	0	6,908
その他	8,055	43,731	51,786	8,026	33,669	41,695	8,315	38,591	46,906	7,562	36,969	44,531	7,930	38,435	46,365	9,320	42,441	51,761	10,971	41,009	51,980	9,399	36,771	46,170
計	162,532	358,820	521,352	163,795	339,342	503,137	168,288	351,939	520,227	156,478	342,701	499,179	152,646	349,163	501,809	156,140	368,574	524,714	164,916	363,854	528,770	151,176	337,162	488,338

(注)共観科の収入は主たる科の収入に含む場合もある。

[単位:千円]

9月			10月			11月			12月			累計			前年度累計	対前年差額
外来	入院	計	外来	入院	計											
4,636	158	4,794	5,160	198	5,358	4,320	175	4,495	4,594	159	4,753	58,439	2,540	60,979	67,827	▲ 6,848
9,729	0	9,729	10,967	0	10,967	9,196	0	9,196	10,766	0	10,766	120,146	0	120,146	122,016	▲ 1,870
12,616	4,201	16,817	12,925	4,458	17,383	11,802	4,247	16,049	13,405	4,414	17,819	152,493	52,836	205,329	209,190	▲ 3,861
183	4,425	4,608	232	4,567	4,799	241	5,024	5,265	259	5,032	5,291	2,525	55,721	58,246	62,812	▲ 4,566
30,336	7,000	37,336	34,933	8,051	42,984	33,959	8,560	42,519	40,531	10,813	51,344	379,768	98,707	478,475	470,250	8,225
3,437	1,288	4,725	4,451	1,568	6,019	3,284	2,075	5,359	3,789	2,055	5,844	40,859	17,709	58,568	58,097	471
3,693	68,604	72,297	3,878	79,378	83,256	2,002	67,574	69,576	4,125	67,280	71,405	40,882	858,062	898,944	841,227	57,717
51,860	5,751	57,611	57,764	7,088	64,852	49,197	7,363	56,560	51,790	7,399	59,189	639,012	81,131	720,143	703,843	16,300
22,847	1,402	24,249	26,442	1,614	28,056	22,084	1,695	23,779	24,150	1,502	25,652	297,521	16,767	314,288	342,308	▲ 28,020
0	49,411	49,411	0	53,511	53,511	0	54,992	54,992	0	55,992	55,992	0	652,265	652,265	618,470	33,795
0	154,016	154,016	0	165,319	165,319	0	152,312	152,312	0	164,936	164,936	0	1,889,364	1,889,364	1,927,606	▲ 38,242
366	2,359	2,725	431	2,751	3,182	274	2,287	2,561	311	2,788	3,099	4,610	30,629	35,239	35,135	104
6,850	0	6,850	7,758	0	7,758	6,558	0	6,558	7,638	0	7,638	85,907	0	85,907	87,619	▲ 1,712
7,753	36,309	44,062	9,769	35,419	45,188	7,800	33,399	41,199	8,839	38,429	47,268	103,739	455,172	558,911	592,897	▲ 33,986
154,306	334,924	489,230	174,710	363,922	538,632	150,717	339,703	490,420	170,197	360,799	530,996	1,925,901	4,210,903	6,136,804	6,139,297	▲ 2,493

[医事G]

15 病院従業員数（平成20年4月1日時点）

		職員	性別		専攻医	研修医	嘱託		パート
			男	女			常勤	非勤	
医 師	20年度	56	49	7	12	10	1	33	
	19年度	51	44	7	11	10	4	36	
薬剤師	20年度	12	8	4					2
	19年度	11	7	4					2
放射線技師	20年度	11	9	2					
	19年度	12	9	3					
検査技術員	20年度	24	9	15					
	19年度	25	11	14					
理学療法士	20年度	5	4	1					
	19年度	5	4	1					
栄養士	20年度	2		2					1
	19年度	3	1	2					
ケースワーカー	20年度	2		2					
	19年度	2		2					
歯科衛生士	20年度	0							
	19年度	1		1					
視能訓練士・眼鏡士	20年度	2		2					3
	19年度	1		1					5
臨床心理士	20年度	0						1	
	19年度	0						1	
臨床工学技士	20年度	1	1						
	19年度	1	1						
看護師	20年度	281	3	278					9
	19年度	286	1	285			1	2	7
准看護師	20年度	2		2					6
	19年度	2		2					8
看護助手	20年度	1		1					10
	19年度	3		3					11
事務員	20年度	31	21	10					7
	19年度	28	19	9					7
一般技能労務職	20年度	5	3	2			1	1	3
	19年度	5	3	2				1	2
総 計	20年度	435	107	328	12	10	2	35	41
	19年度	436	100	336	11	10	5	40	42

16 退院患者統計

1) 退院患者医療評価指標 (1)

	算定式	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)
病床数(床)		350	350	350	350	350
一日平均在院患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	269	269	273	272	269
病床稼働率(%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	76.9	76.9	78.0	77.7	76.9
平均在院日数(日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	15.4	15.3	14.7	14.6	14.1
実退院患者数(人)		5,934	5,900	6,359	6,350	6,486
転科数		263	176	249	158	140
総退院患者数		6,197	6,076	6,608	6,508	6,626
実退院患者平均在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	17.3	16.2	15.7	15.6	15.0
院内粗死亡率(%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.8	2.5	2.9	2.7	2.4
院内精死亡率(%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.7	2.2	2.6	2.4	2.2
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	15.9	5.5	11.4	8.9	7.2
術後死亡率(%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	0.04	0.04	0.03	-	-
帝王切開率(%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	21.9	18.9	20.6	23.4	19.1
分娩死亡率(%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-
新生児死亡率(%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	0.3	-	-	-	-
紹介入院率(%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	32.2	32.4	34.9	35.9	38.0
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	42.0	36.1	38.1	43.1	43.6
診療情報の利用						
診療録利用件数(冊)		11,983	5,808	1,204	1,022	506
コンピュータ情報利用件数(依頼件数)		74	65	58	85	98

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。

平成18年退院患者から厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10(2003年版)準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。

平成18年退院患者から日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計をした。

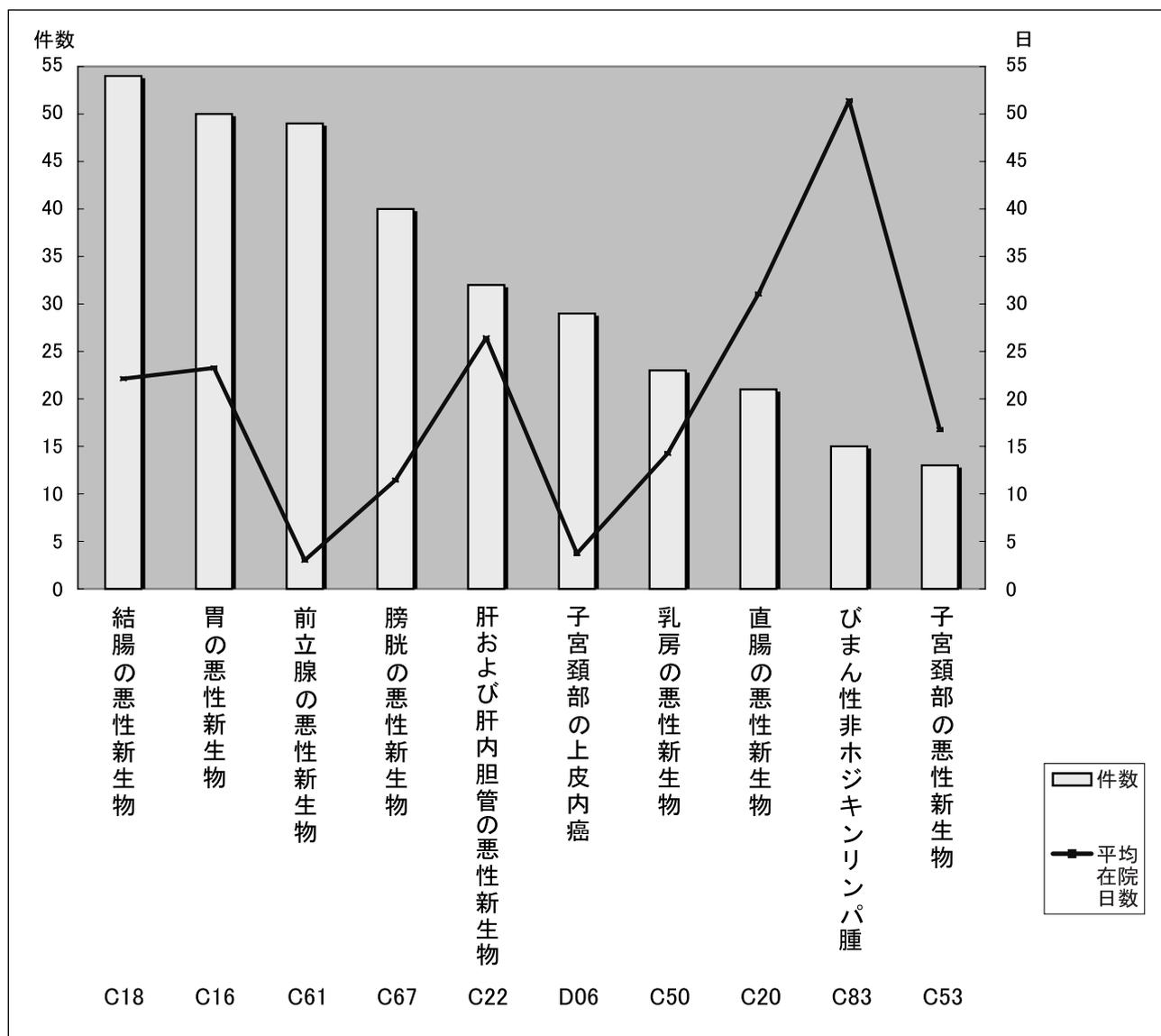
注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計をした。

1) 退院患者医療評価指標(2. 悪性新生物)

	算定式	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)
悪性新生物:比率(%)	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	15.5	17.2	15.7	15.3	19.3
悪性新生物:新発患者数		352	413	432	445	454

○2008年1月～12月—初発がん統計トップ10(件数・平均在院日数)

ICD-10 疾患名	件数	在院日数計	平均在院日数
C18 結腸の悪性新生物	54	1195	22
C16 胃の悪性新生物	50	1163	23
C61 前立腺の悪性新生物	49	148	3
C67 膀胱の悪性新生物	40	458	11
C22 肝および肝内胆管の悪性新生物	32	846	26
D06 子宮頸部の上皮内癌	29	108	4
C50 乳房の悪性新生物	23	328	14
C20 直腸の悪性新生物	21	652	31
C83 びまん性非ホジキンリンパ腫	15	771	51
C53 子宮頸部の悪性新生物	13	218	17



診療科別・月別・患者数 (2008)

日本生命済生会付属 日生病院

診療科	総数	患者数												死亡	剖検
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
総数	6,486	494	511	580	545	579	575	545	534	482	535	525	581	153	11
計男	2,853	234	221	252	244	262	251	219	243	209	240	229	249	87	5
計女	3,633	260	290	328	301	317	324	326	291	273	295	296	332	66	6
循環内科		71	66	78	73	91	68	70	65	62	68	77	72	24	2
計男	474	41	36	43	46	50	37	30	39	34	43	38	37	10	37
計女	387	30	30	35	27	41	31	40	26	28	25	39	35	14	2
消化器内科	1,127	75	67	102	101	90	113	97	91	91	108	97	95	30	4
計男	683	44	38	68	62	60	67	54	58	56	62	57	57	22	4
計女	444	31	29	34	39	30	46	43	33	35	46	40	38	8	2
総合内科	451	34	41	50	39	40	36	42	39	37	29	31	33	22	3
計男	202	17	20	18	15	15	15	15	19	16	10	18	10	14	14
計女	249	17	21	25	21	21	21	27	20	21	19	13	23	8	1
血液治療内	222	20	23	12	20	22	13	19	22	23	19	17	12	29	2
計男	108	6	12	6	10	12	7	12	11	9	8	7	8	14	1
計女	114	14	11	6	10	10	6	7	11	14	11	10	4	15	1
神経科精神科	77	1	1	5	5	8	7	5	11	8	7	5	9	-	-
計男	22	-	1	1	1	2	1	1	5	3	2	2	4	-	-
計女	55	1	4	4	4	6	6	4	6	7	4	3	5	-	-
小児科	295	29	23	29	28	30	21	21	23	18	16	21	36	-	-
計男	164	17	13	16	16	21	14	15	15	7	10	13	20	-	-
計女	131	12	13	16	12	9	7	13	8	11	6	8	16	-	-
外科	478	48	45	41	43	37	38	31	31	32	40	43	49	30	-
計男	260	28	25	23	28	21	22	15	15	19	21	22	21	15	-
計女	218	20	20	18	15	16	16	16	16	13	19	21	28	15	-
乳腺外科	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-
計男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計女	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-
整形外科	259	18	24	19	18	22	23	27	21	24	21	14	28	-	-
計男	93	9	7	4	7	8	14	12	7	4	7	5	9	-	-
計女	166	9	17	15	11	14	9	15	14	20	14	9	19	-	-
皮膚科	236	18	17	25	19	22	23	18	17	20	21	16	20	1	-
計男	139	11	10	15	5	16	12	9	12	11	15	10	13	1	-
計女	97	7	7	10	14	6	11	9	5	9	6	6	7	-	-
泌尿器科	438	40	45	32	27	39	38	37	38	29	35	34	44	7	-
計男	374	37	37	24	33	34	29	33	33	25	31	31	41	7	-
計女	64	3	8	8	9	5	9	4	5	4	3	3	3	-	-
産婦人科	1,244	93	98	115	93	120	118	105	111	86	96	103	106	6	-
計男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計女	1,244	93	98	115	93	120	118	105	111	86	96	103	106	6	-
眼科	550	28	42	57	51	42	52	47	41	39	60	45	46	-	-
計男	206	15	17	23	16	20	20	17	16	19	23	13	18	-	-
計女	344	13	25	34	35	33	32	30	25	20	37	32	28	-	-
耳鼻咽喉科	238	14	18	15	28	15	25	26	24	13	15	20	25	4	-
計男	126	8	8	7	17	10	13	13	13	8	6	12	11	4	-
計女	112	6	10	8	11	5	12	13	11	5	9	8	14	-	-
麻酔科	3	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
計男	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
計女	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

3) 診療科別・月別・死亡剖検数

診療科別・月別・死亡（剖検）患者数（2008）

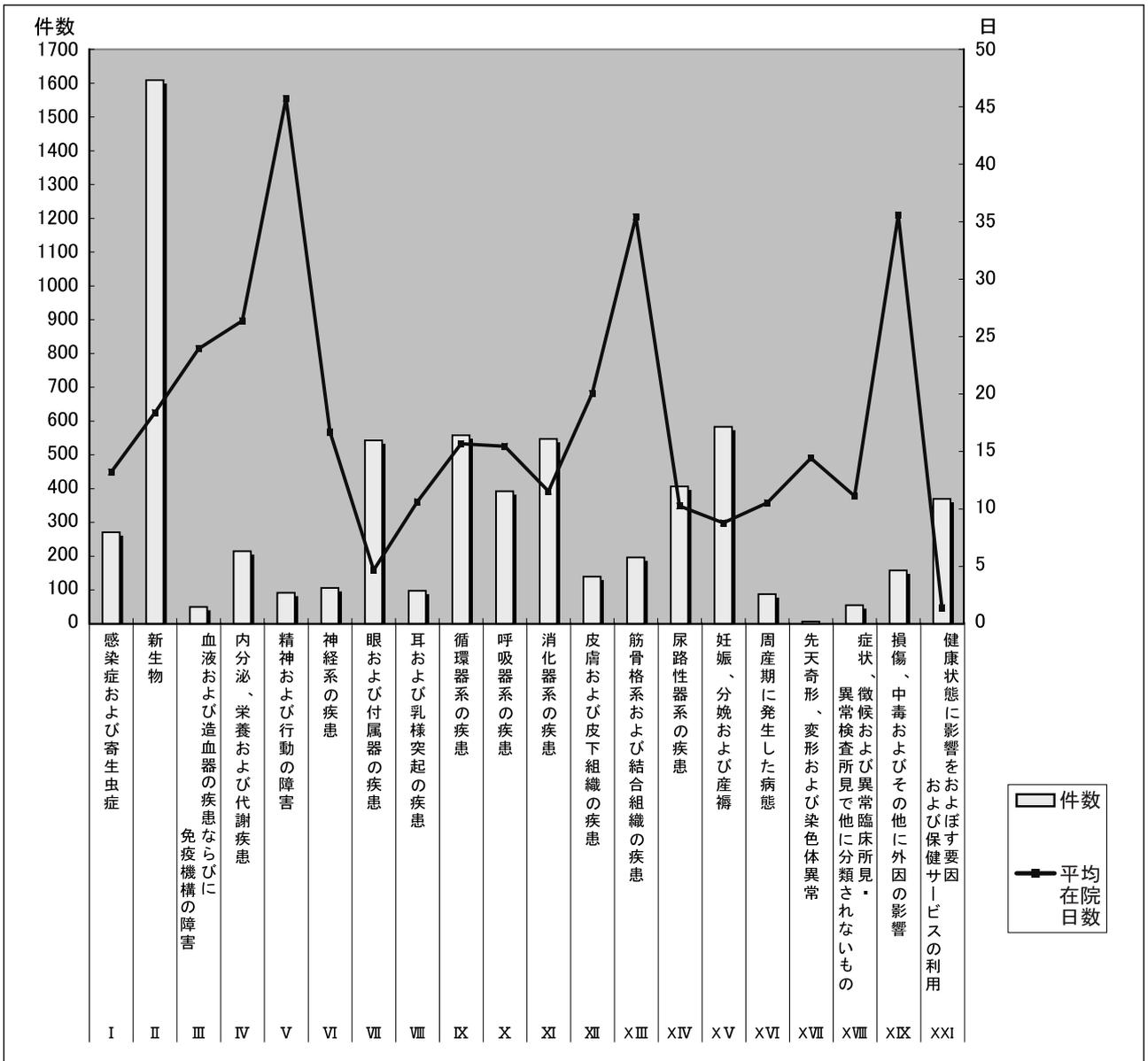
日本生命済生会付属 日生病院

診療科	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	兼科患者数	退院患者数	粗死亡率	精死亡率	剖検率
総数	153 (11)	9 (-)	16 (4)	10 (-)	19 (1)	11 (-)	11 (-)	12 (-)	11 (-)	9 (1)	11 (1)	15 (-)	16 (2)	31 (3)	6,486	153 (2.4)	140 (2.2)	11 (7.2)
循環内科	24 (2)	2 (-)	5 (-)	2 (1)	6 (1)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	3 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	4 (-)	861	24 (2.8)	20 (2.3)	2 (8.3)
消化器内科	30 (4)	2 (-)	3 (2)	4 (-)	5 (-)	4 (-)	4 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (1)	3 (-)	5 (1)	- (-)	1,127	30 (2.7)	29 (2.6)	4 (13.3)
総合内科	22 (3)	1 (-)	3 (2)	- (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	4 (-)	1 (-)	3 (-)	1 (-)	2 (1)	2 (-)	451	22 (4.9)	18 (4.0)	3 (13.6)
血液治療内	29 (2)	- (-)	- (-)	2 (-)	4 (-)	2 (-)	2 (-)	6 (-)	1 (-)	1 (1)	4 (-)	4 (-)	2 (-)	- (-)	222	29 (13.1)	29 (13.1)	2 (6.9)
神経科精神科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (1)	77	- (-)	- (-)	- (-)
小児科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	295	- (-)	- (-)	- (-)
外科	30 (-)	4 (-)	3 (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	3 (-)	2 (-)	1 (-)	5 (-)	3 (-)	2 (-)	478	30 (6.3)	27 (5.6)	- (-)
乳腺外科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	7	- (-)	- (-)	- (-)
整形外科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	259	- (-)	- (-)	- (-)
皮膚科	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	236	1 (0.4)	1 (0.4)	- (-)
泌尿器科	7 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	438	7 (1.6)	7 (1.6)	- (-)
産婦人科	6 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1,244	6 (0.5)	6 (0.5)	- (-)
眼科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	550	- (-)	- (-)	- (-)
耳鼻咽喉科	4 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	238	4 (1.7)	3 (1.3)	- (-)
麻酔科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	18 (2)	3	- (-)	- (-)	- (-)
菌科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	- (-)	- (-)	- (-)
健康管理科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	- (-)	- (-)	- (-)
放射線科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	- (-)	- (-)	- (-)

4) 疾病統計

○2008年1月～12月 国際疾病分類大分類別件数・平均在院日数

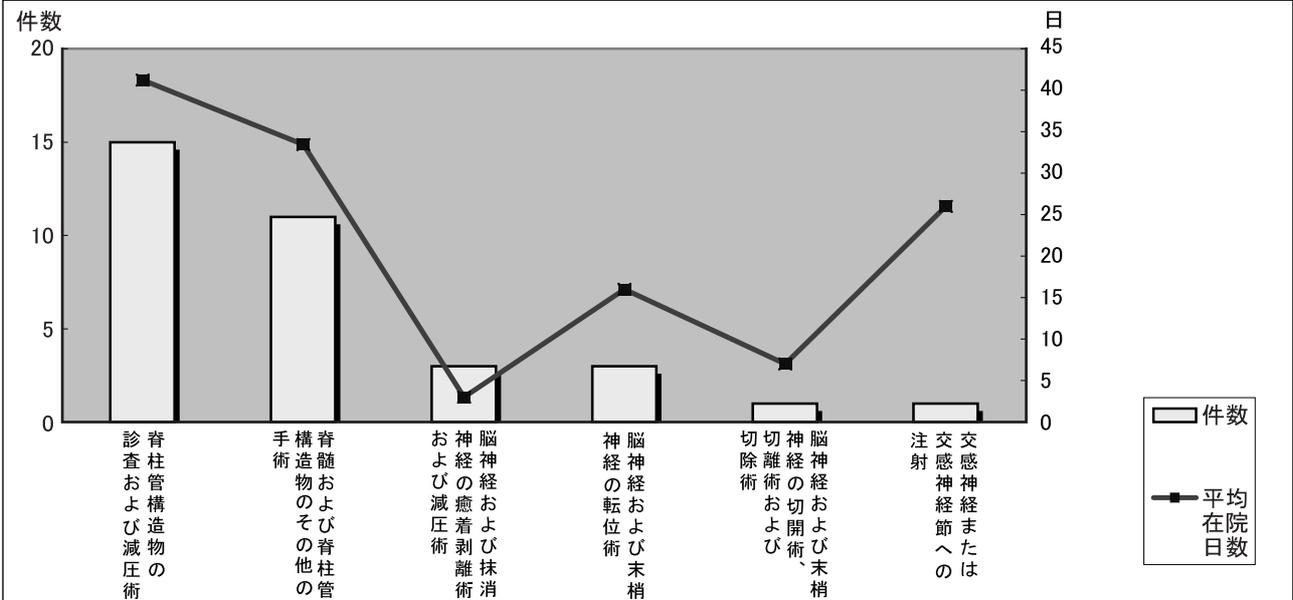
コード	国際分類大項目分類	件数	平均在院日数
I	感染症および寄生虫症	271	13
II	新生物	1609	18
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	50	24
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	215	26
V	精神および行動の障害	92	46
VI	神経系の疾患	106	17
VII	眼および付属器の疾患	543	5
VIII	耳および乳様突起の疾患	98	11
IX	循環器系の疾患	558	16
X	呼吸器系の疾患	392	15
XI	消化器系の疾患	547	12
XII	皮膚および皮下組織の疾患	140	20
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	197	35
XIV	泌尿器系の疾患	407	10
XV	妊娠、分娩および産褥	583	9
XVI	周産期に発生した病態	88	11
XVII	先天奇形、変形および染色体異常	7	14
XVIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	55	11
XIX	損傷、中毒およびその他に外因の影響	158	36
XXI	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	370	1
総計		6486	15



5)手術統計

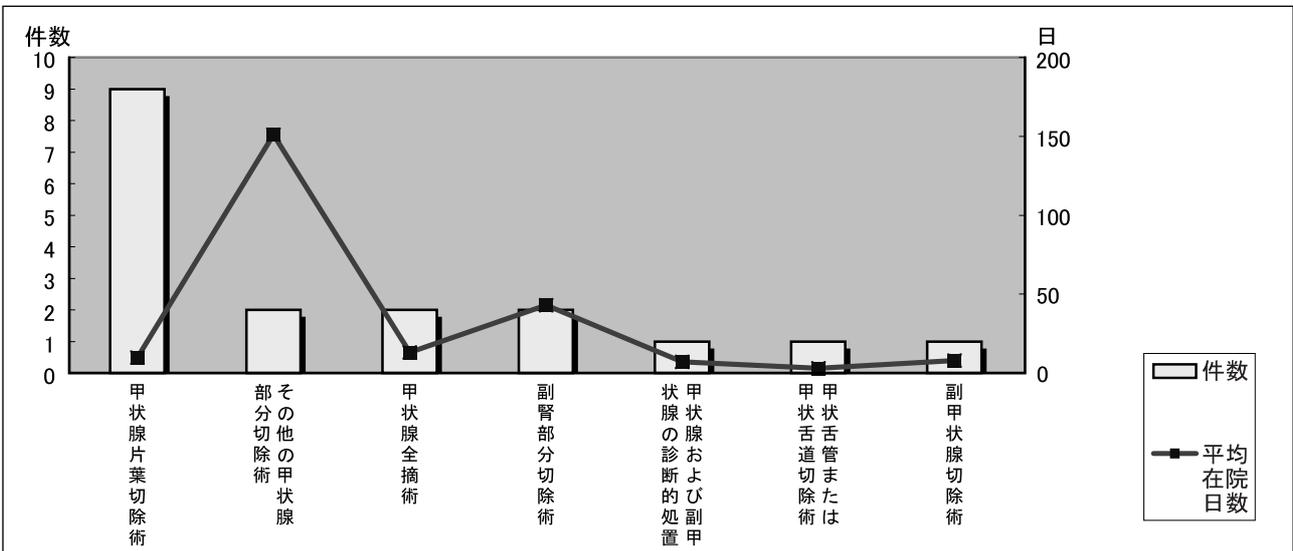
2008年1月～12月－1.神経系の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
脊柱管構造物の診査および減圧術	15	41
脊髄および脊柱管構造物のその他の手術	11	33
脳神経および抹消神経の癒着剥離術および減圧術	3	3
脳神経および末梢神経の転位術	3	16
脳神経および末梢神経の切開術、切離術および切除術	1	7
交感神経または交感神経節への注射	1	26



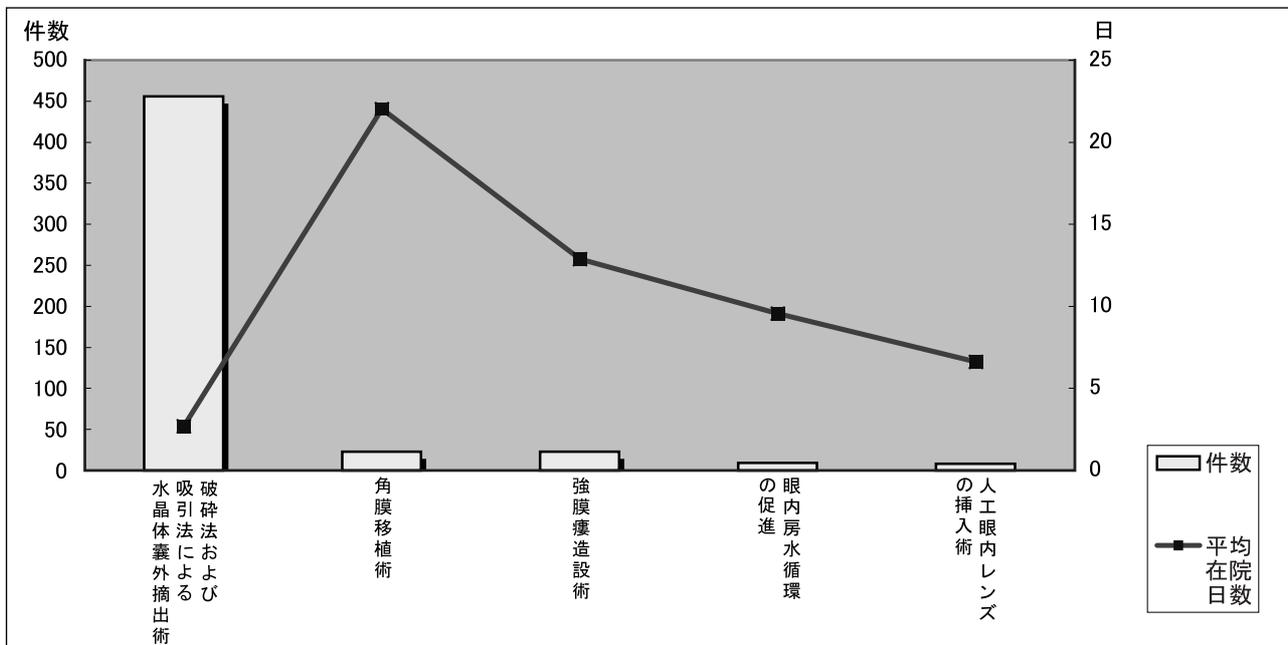
2008年1月～12月－2.内分泌系の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
甲状腺片葉切除術	9	10
その他の甲状腺部分切除術	2	151
甲状腺全摘術	2	13
副腎部分切除術	2	43
甲状腺および副甲状腺の診断的処置	1	7
甲状舌管または甲状舌道切除術	1	3
副甲状腺切除術	1	8



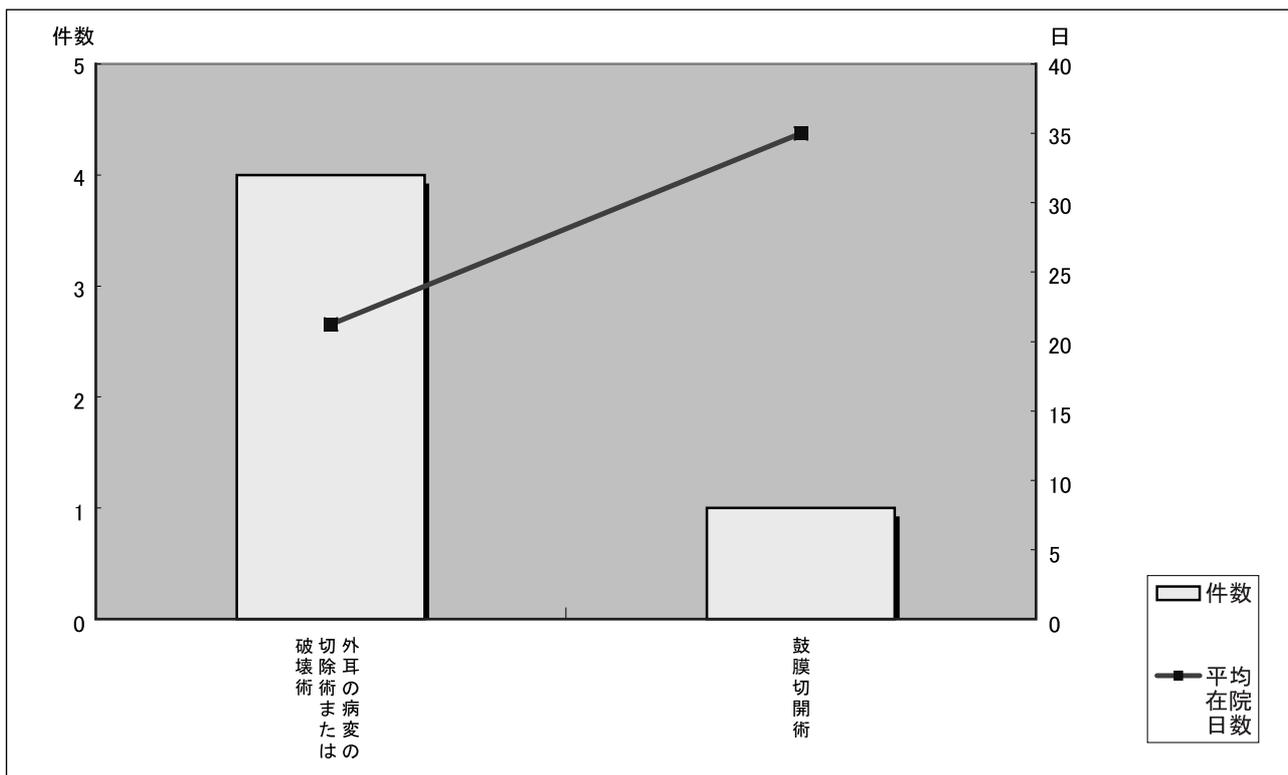
2008年1月～12月－3.目の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
破砕法および吸引法による水晶体囊外摘出術	456	3
角膜移植術	23	22
強膜瘻造設術	23	13
眼内房水循環の促進	9	10
人工眼内レンズの挿入術	8	7



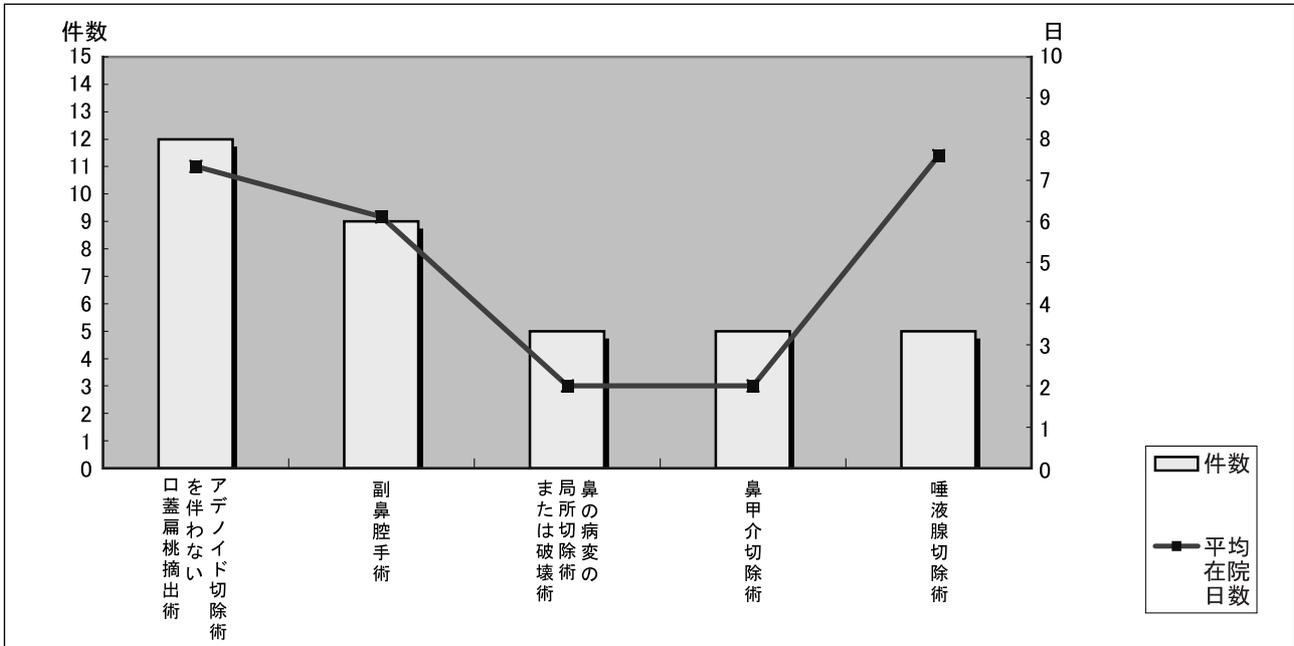
2008年1月～12月－4.耳の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
外耳の病変の切除術または破壊術	4	21
鼓膜切開術	1	35



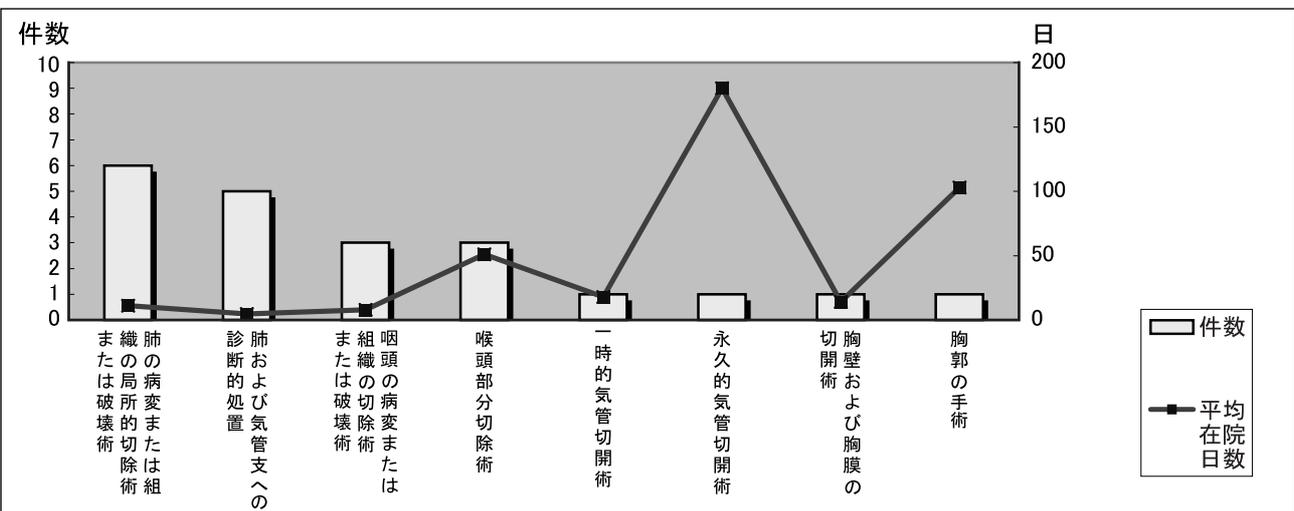
2008年1月～12月－5.鼻、口、及び咽頭の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	在院日数計	平均在院日数
アデノイド切除術を伴わない口蓋扁桃摘出術	12	88	7
副鼻腔手術	9	55	6
鼻の病変の局所切除術または破壊術	5	10	2
鼻甲介切除術	5	10	2
唾液腺切除術	5	38	8



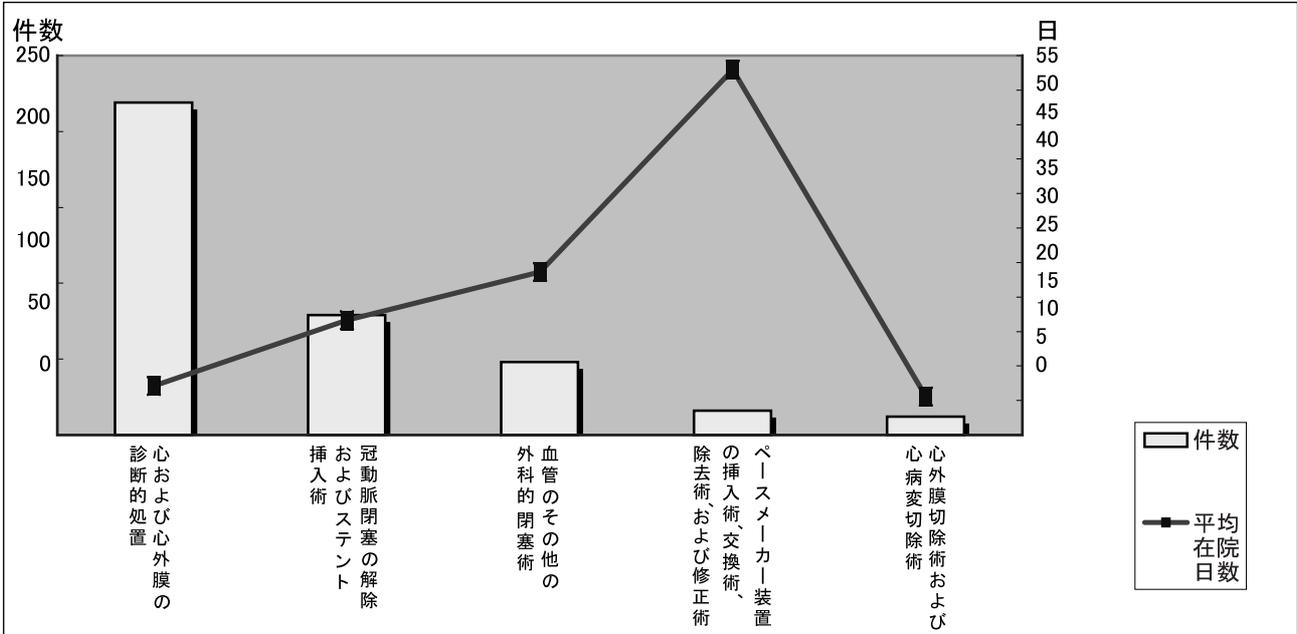
2008年1月～12月－6.呼吸器系の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	在院日数計	平均在院日数
肺の病変または組織の局所的切除術または破壊術	6	67	11
肺および気管支への診断的処置	5	24	5
咽頭の病変または組織の切除術または破壊術	3	24	8
喉頭部分切除術	3	153	51
一時的気管切開術	1	18	18
永久的気管切開術	1	180	180
胸壁および胸膜の切開術	1	14	14
胸郭の手術	1	103	103



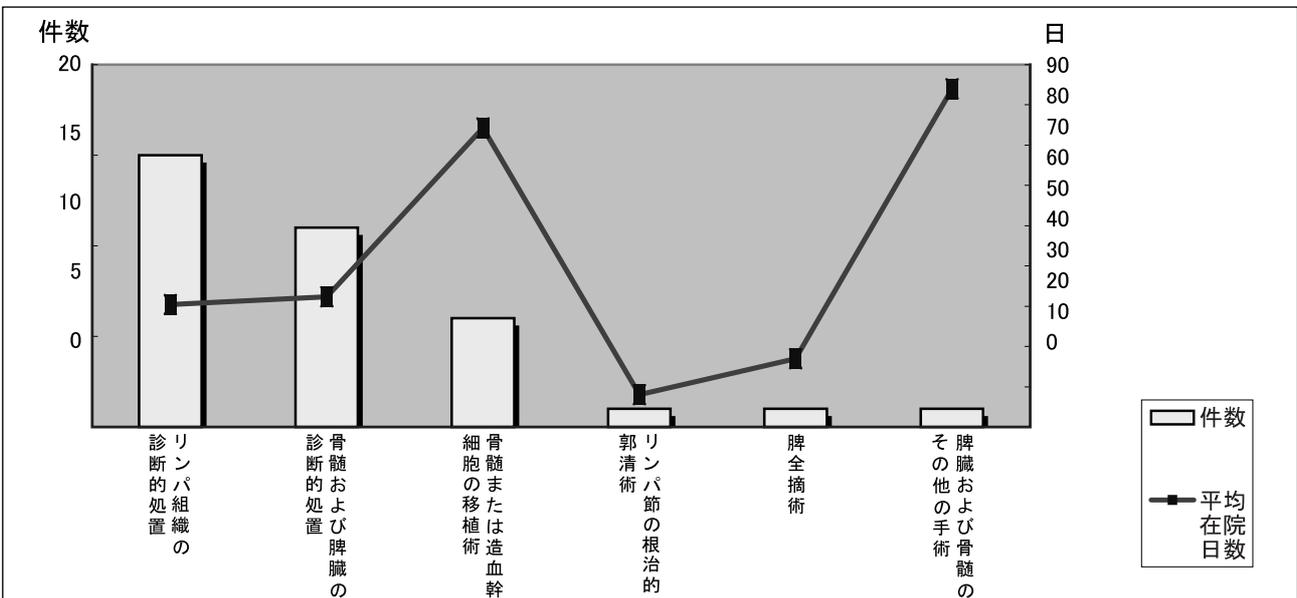
2008年1月～12月－7.循環器系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	在院日数計	平均在院日数
心および心外膜の診断的処置	219	1563	7
冠動脈閉塞の解除およびステント挿入術	79	1317	17
血管のその他の外科的閉塞術	48	1134	24
ペースメーカー装置の挿入術、交換術、除去術、および修正術	16	847	53
心外膜切除術および心病変切除術	12	67	6



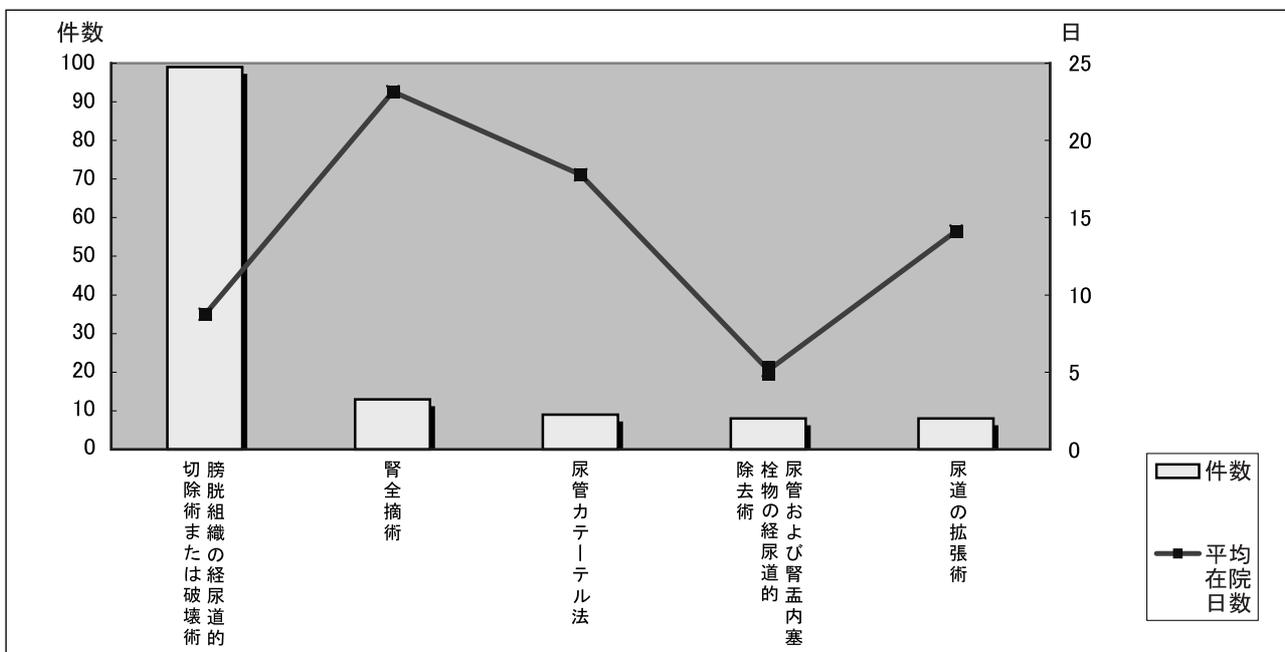
2008年1月～12月－8.血液系及びリンパ系の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	在院日数計	平均在院日数
リンパ組織の診断的処置	15	456	30
骨髄および脾臓の診断的処置	11	356	32
骨髄または造血幹細胞の移植術	6	446	74
リンパ節の根治的郭清術	1	8	8
脾全摘術	1	17	17
脾臓および骨髄のその他の手術	1	84	84



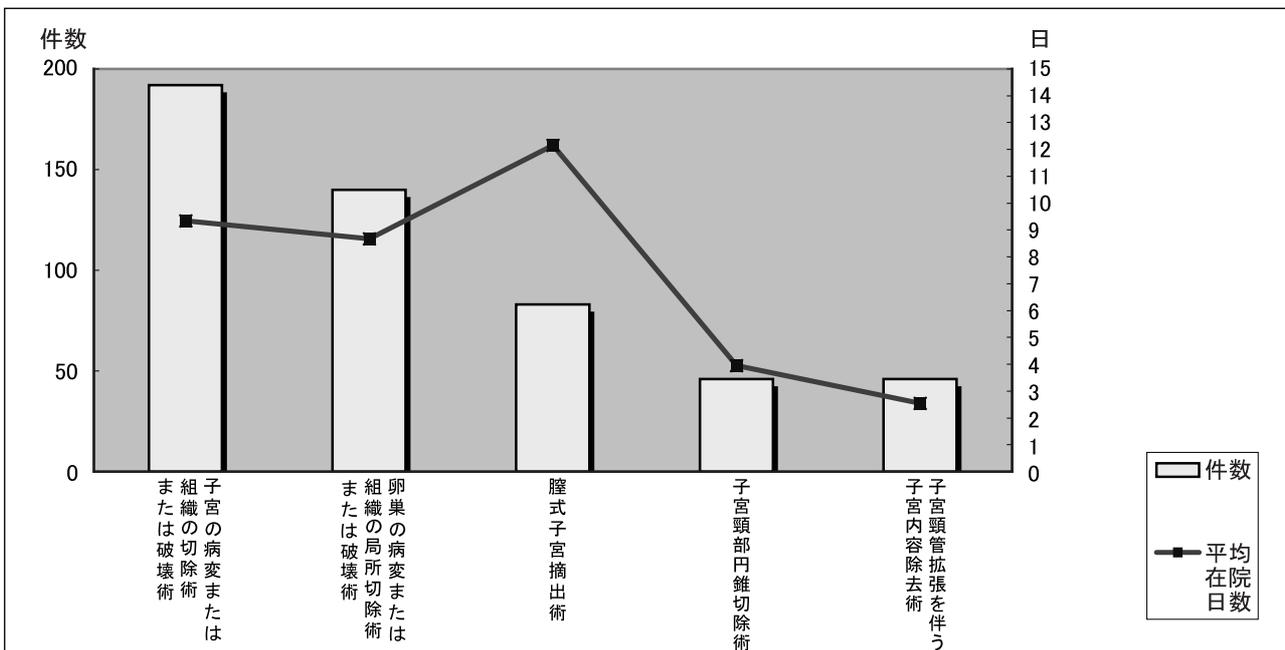
2008年1月～12月－10 尿路系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
膀胱組織の経尿道的切除術または破壊術	99	9
腎全摘術	13	23
尿管カテーテル法	9	18
尿管および腎盂内塞栓物の経尿道的除去術	8	5
尿道の拡張術	8	14



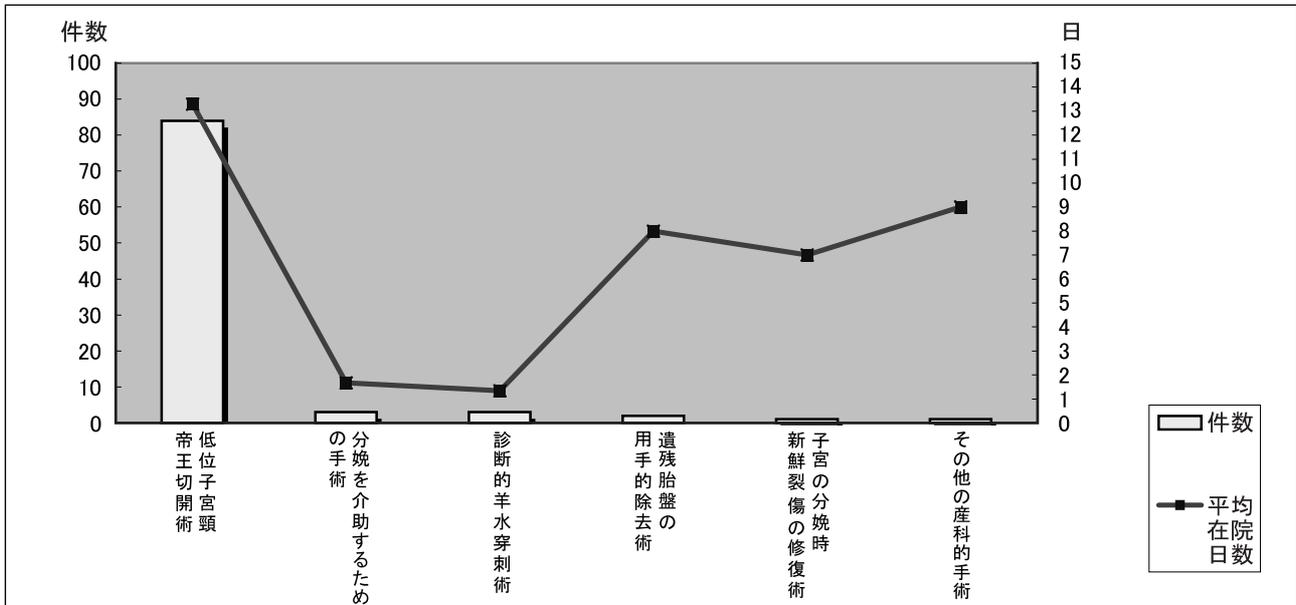
2008年1月～12月－12.女性生殖器の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
子宮の病変または組織の切除術または破壊術	192	9
卵巣の病変または組織の局所切除術または破壊術	140	9
腔式子宮摘出術	83	12
子宮頸部円錐切除術	46	4
子宮頸管拡張を伴う子宮内容除去術	46	3



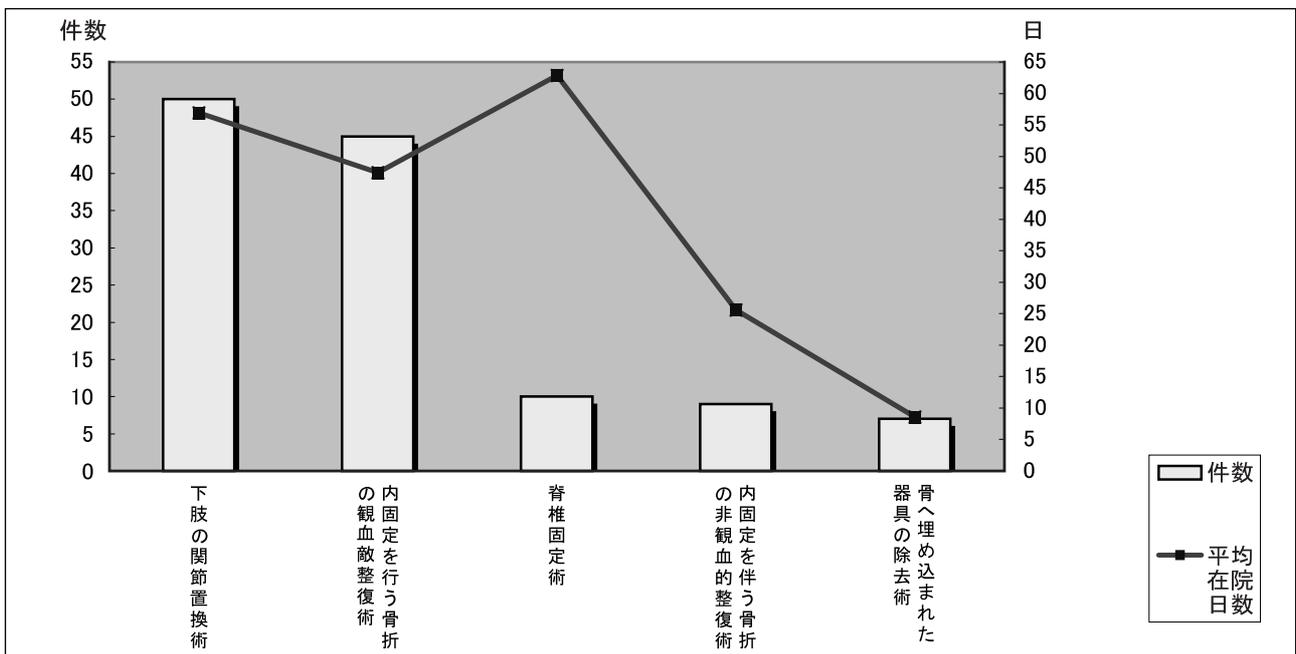
2008年1月～12月－13.産科的処置(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	在院日数計	平均在院日数
低位子宮頸帝王切開術	84	1,116	13
分娩を介助するための手術	3	5	2
診断的羊水穿刺術	3	4	1
遺残胎盤の用手的除去術	2	16	8
子宮の分娩時新鮮裂傷の修復術	1	7	7
その他の産科的手術	1	9	9



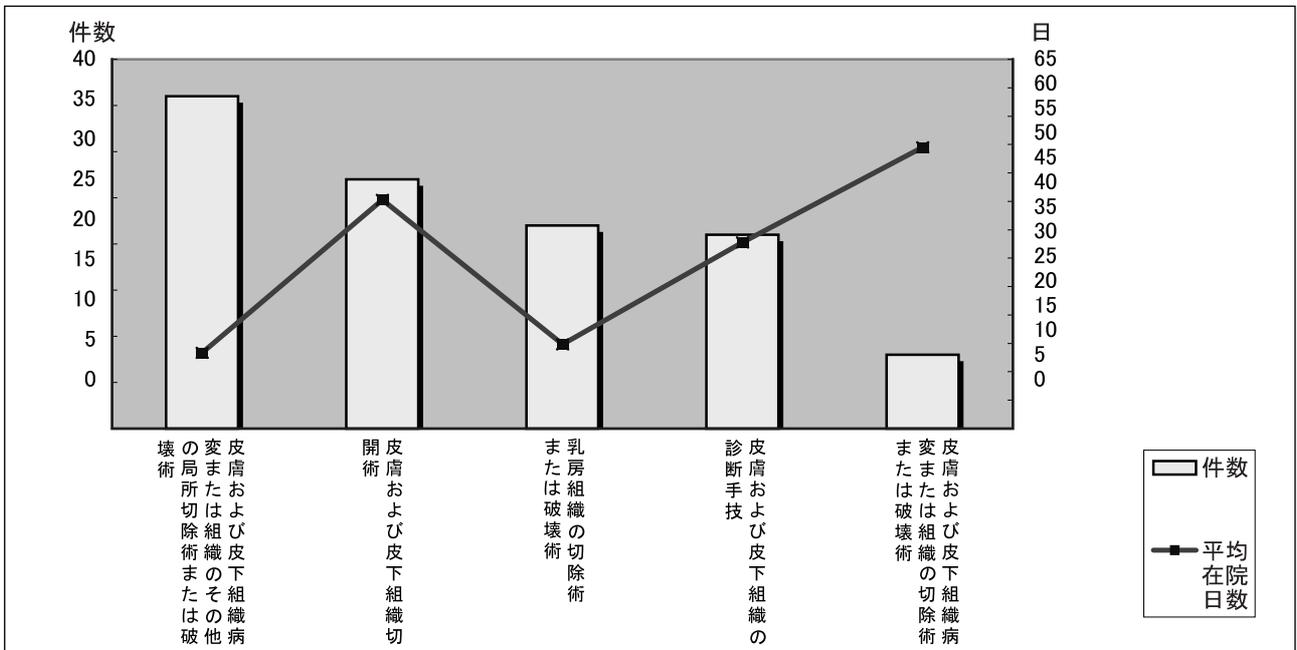
2008年1月～12月－14.筋骨格系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	在院日数計	平均在院日数
下肢の関節置換術	50	2,846	57
内固定を行う骨折の観血敵整復術	45	2,133	47
脊椎固定術	10	629	63
内固定を伴う骨折の非観血的整復術	9	230	26
骨へ埋め込まれた器具の除去術	7	60	9



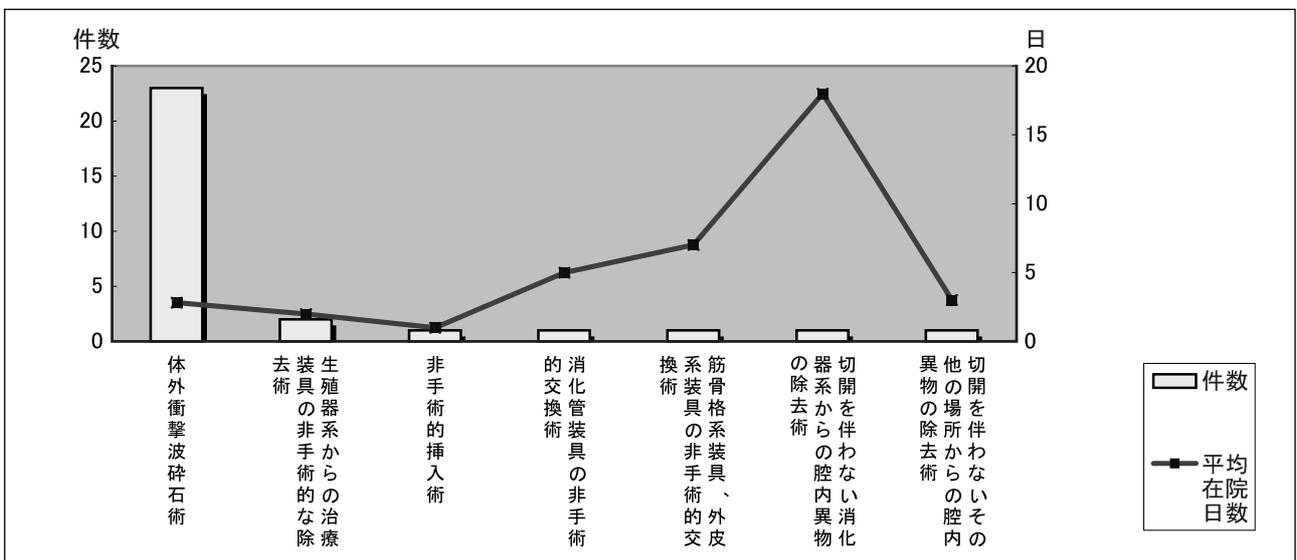
2008年1月～12月－15.表皮組織の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	在院日数計	平均在院日数
皮膚および皮下組織病変または組織のその他の局所切除術または破壊術	36	480	13
皮膚および皮下組織切開術	27	1,087	40
乳房組織の切除術または破壊術	22	327	15
皮膚および皮下組織の診断手技	21	688	33
皮膚および皮下組織病変または組織の切除術または破壊術	8	396	50



2008年1月～12月－16.多種の診断および治療(件数・平均在院日数)

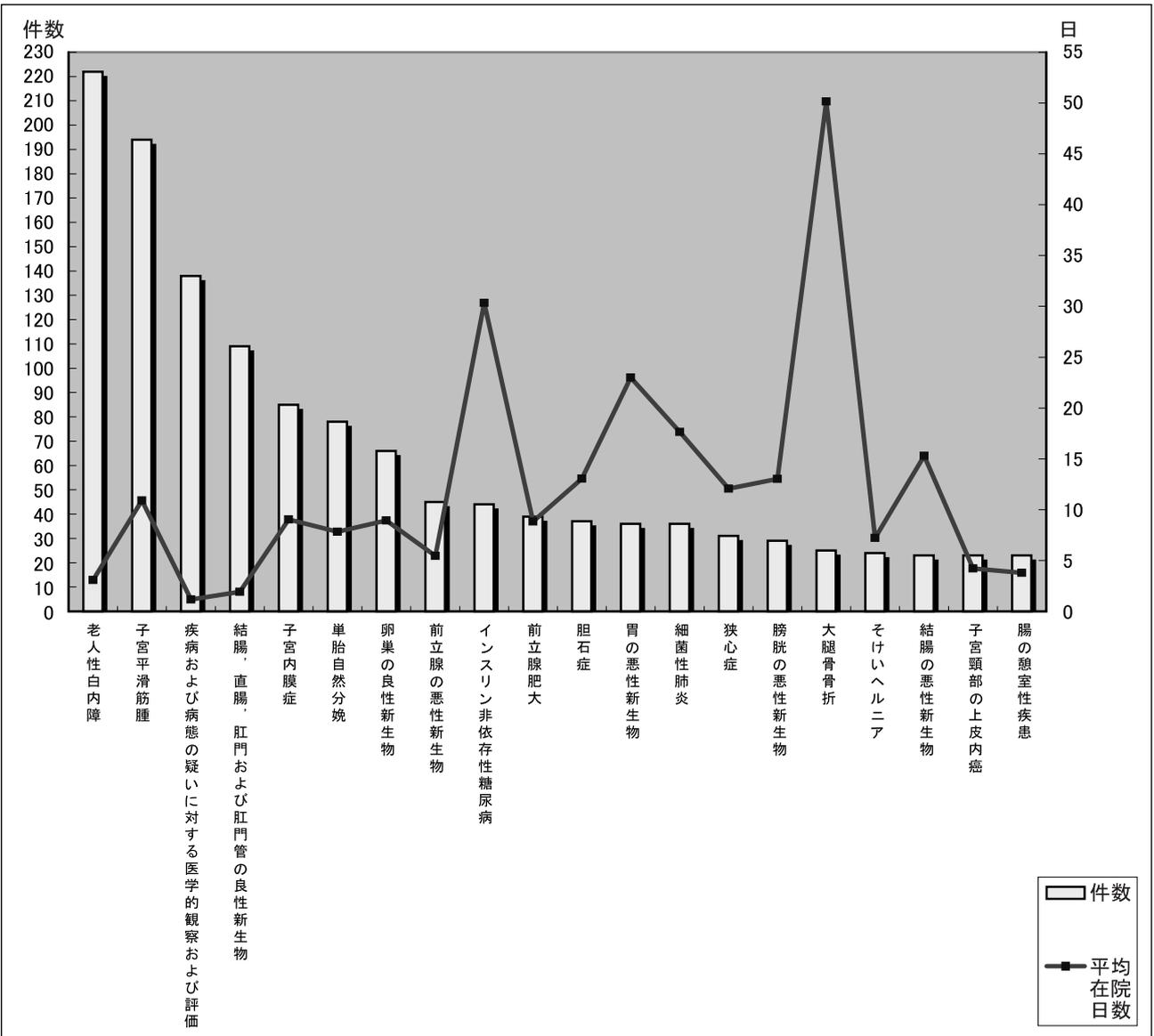
主手術名	件数	在院日数計	平均在院日数
体外衝撃波碎石術	23	65	3
生殖器系からの治療装具の非手術的な除去術	2	4	2
非手術的挿入術	1	1	1
消化管装具の非手術的交換術	1	5	5
筋骨格系装具、外皮系装具の非手術的交換術	1	7	7
切開を伴わない消化器系からの腔内異物の除去術	1	18	18
切開を伴わないその他の場所からの腔内異物の除去術	1	3	3



6) 紹介入院患者 疾患トップ20

◆ 2008年1月～12月紹介入院患者－疾患トップ20(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
老人性白内障	222	3
子宮平滑筋腫	194	11
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	138	1
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	109	2
子宮内膜症	85	9
単胎自然分娩	78	8
卵巣の良性新生物	66	9
前立腺の悪性新生物	45	5
インスリン非依存性糖尿病	44	30
前立腺肥大	39	9
胆石症	37	13
胃の悪性新生物	36	23
細菌性肺炎	36	18
狭心症	31	12
膀胱の悪性新生物	29	13
大腿骨骨折	25	50
そけいヘルニア	24	7
結腸の悪性新生物	23	15
子宮頸部の上皮内癌	23	4
腸の憩室性疾患	23	4



◆ 2008年1月～12月紹介入院患者一科別疾患トップ3(件数・平均在院日数)

○ 循環器科

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症	31	12
慢性虚血性心疾患	15	10
細菌性肺炎	15	27

○ 消化器科

疾患名	件数	平均在院日数
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	130	1
結腸, 直腸, 肛門および肛門管の良性新生物	108	2
腸の憩室性疾患	20	1

○ 総合内科

疾患名	件数	平均在院日数
インスリン非依存性糖尿病	37	23
下垂体機能低下症およびその他の下垂体障害	9	4
細菌性肺炎	9	16

○ 血液化学療法内科

疾患名	件数	平均在院日数
骨髄性白血病	10	67
多発性骨髄腫および悪性形質細胞腫瘍	9	30
びまん性非ホジキンリンパ腫	8	83

○ 精神・神経科

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	8	89
不安障害	3	24
詳細不明の痴呆	2	115
身体表現性障害	2	45
神経症性障害	2	62

○ 小児科

疾患名	件数	平均在院日数
部位不明のウイルス感染症	12	6
急性気管支炎	10	6
急性咽頭炎	8	6
細菌性肺炎	8	6

○ 外科

疾患名	件数	平均在院日数
胆石症	32	13
そけいヘルニア	24	7
胃の悪性新生物	20	31

○ 乳腺外科

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	4	15

◆ 2008年1月～12月紹介入院患者－科別疾患トップ3(件数・平均在院日数)

○ 整形外科

疾患名	件数	平均在院日数
大腿骨骨折	25	50
膝関節症	10	44
脊椎障害	9	44

○ 皮膚科

疾患名	件数	平均在院日数
带状疱疹	17	10
乾癬	11	26
蜂巣炎	10	15

○ 泌尿器科

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	45	5
前立腺肥大	39	9
膀胱の悪性新生物	29	13

○ 産婦人科

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	194	11
子宮内膜症	84	9
単胎自然分娩	78	8

○ 眼科

疾患名	件数	平均在院日数
老人性白内障	222	3
角膜の障害	16	21
緑内障	16	7

○ 耳鼻科

疾患名	件数	平均在院日数
難聴	12	11
急性扁桃炎	9	7
前庭機能障害	8	11
慢性副鼻腔炎	8	8
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	8	7

○ 麻酔科

疾患名	件数	平均在院日数
悪性新生物の疼痛管理	1	12
末梢血管疾患の疼痛管理	1	2

第3章 診療業務

循環器内科・神経内科

1. スタッフ

副院長兼部長 濱田偉文 : 浅野彰彦 (神経) 仁科拓也 (神経) 中川 厚 (循環器)
 宮崎憲彦 (循環器) 長谷川浩司 (循環器)
 専攻医: 永田大樹

2. 診療活動

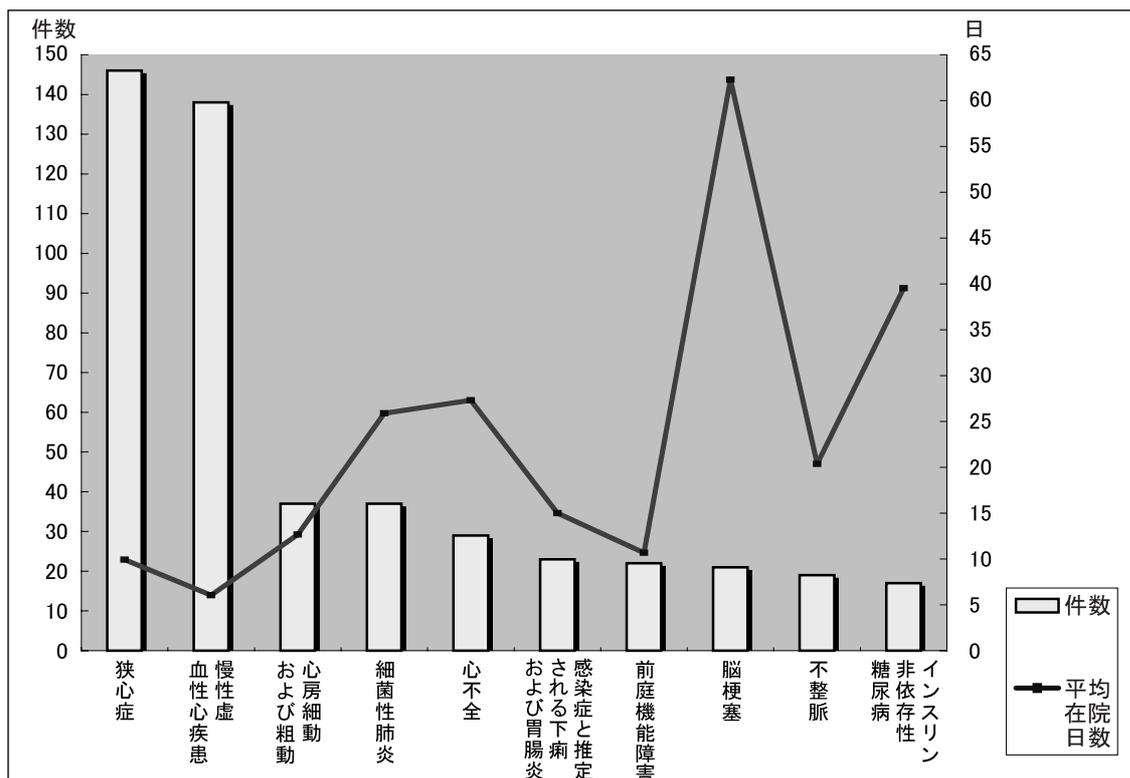
循環器内科では虚血性心疾患、高血圧、高脂血症、心不全、各種不整脈等の疾患の診療を行っております。その中心となる疾患は虚血性心疾患でありまして、循環器救急対応を含め中川・長谷川を中心に冠動脈造影検査を400件前後/年、PCI(経皮的冠動脈形成術)を100件前後/年施行し良好な成績をあげております。また閉塞性動脈硬化症に対するPTA(経皮経管の血管形成術)や深部静脈血栓症に対する肺塞栓症予防のための下大静脈フィルター挿入術等も積極的に行っており、徐脈性不整脈に対しては一時的及び永久的ペースメーカー植え込み術も行っております。また、失神の原因で一番多い神経調節性失神の診断のための斜面台テスト(Head Up Tilt Test)や経頭蓋ドプラー検査等も行っております。その他、一般内科的な疾患の入院治療、虚血性心疾患を合併した糖尿病のコントロール等も当科で行っております。

神経内科では浅野・仁科を中心に、めまいや痺れといった身近な症例から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断治療に対応し、難病疾患の患者様の在宅療養におきましても、地域の先生方や訪問看護スタッフとの協力体制を組んで、病状の変化に柔軟に対応するように努力しています。

文責 濱田 偉文

2008年1月～12月—循環器科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症	146	10
慢性虚血性心疾患	138	6
心房細動および粗動	37	13
細菌性肺炎	37	26
心不全	29	27
感染症と推定される下痢および胃腸炎	23	15
前庭機能障害	22	11
脳梗塞	21	62
不整脈	19	20
インスリン非依存性糖尿病	17	40



消化器内科

1. スタッフ

部長 湯川雅彦：村本理 福田昌輝 関保道

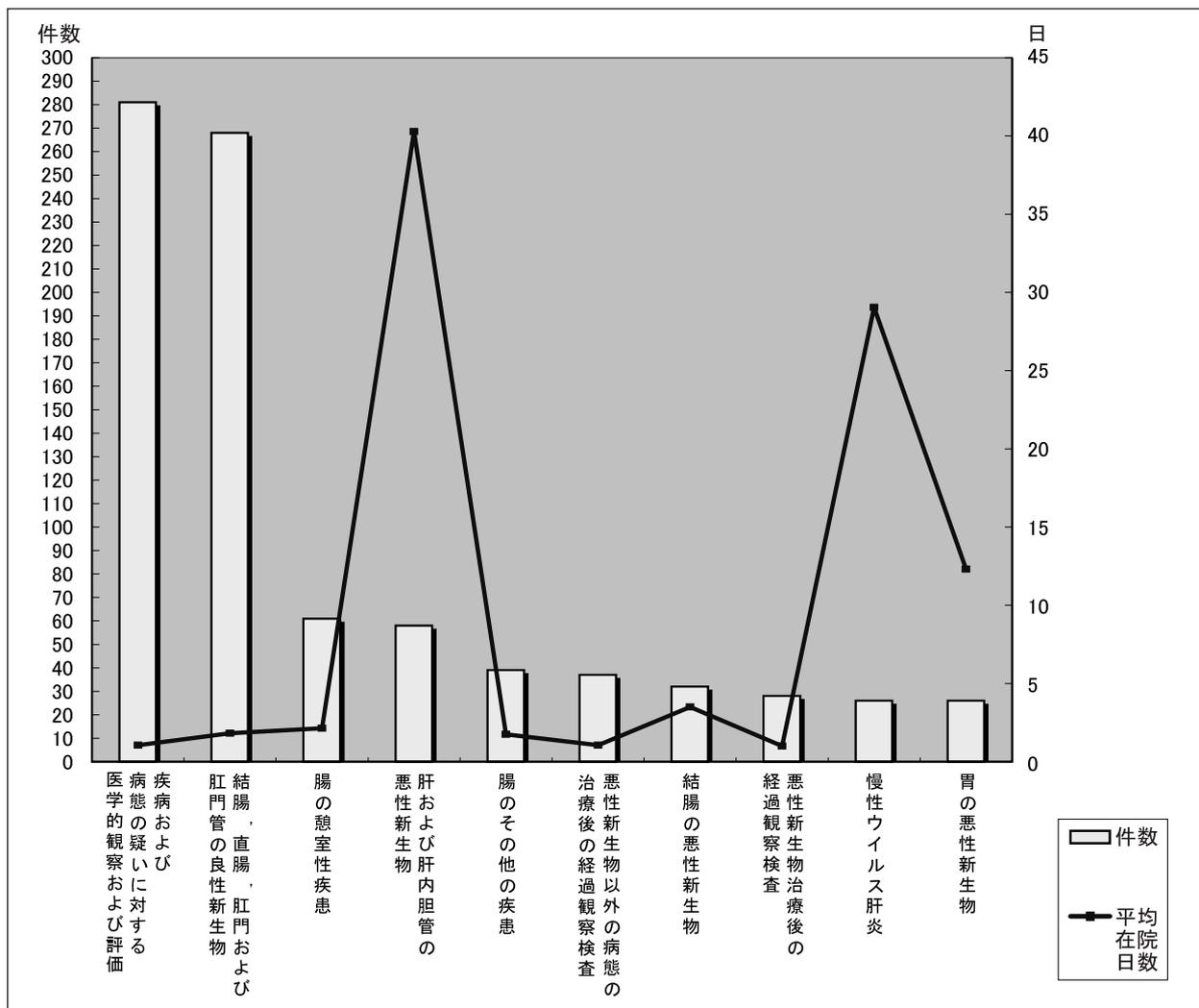
2. 診療活動

当科では4名の常勤スタッフで、消化器疾患を主とした診療をおこなっている。消化器癌の早期発見に主眼を置き、当院外科の協力のもと早期治療にあたっている。大腸内視鏡においては挿入法としての軸保持短縮法、診断法としてのピットパターン診断を取り入れ、痛みのない、正確な診断を目指している。大腸内視鏡の件数は増加傾向にある。また、早期胃癌に対しITナイフを用いた内視鏡的粘膜下層剥離術を行っている。その他内視鏡的大腸ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤治療、膵・胆管疾患の内視鏡的診断治療、肝癌の治療、C型慢性肝炎に対しペグイントロン、リバビリン併用療法などを行っており、手術不能の消化器癌に対する化学療法も行っている。

文責 湯川雅彦

2008年1月～12月－消化器科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	281	1
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	268	2
腸の憩室性疾患	61	2
肝および肝内胆管の悪性新生物	58	40
腸のその他の疾患	39	2
悪性新生物以外の病態の治療後の経過観察検査	37	1
結腸の悪性新生物	32	4
悪性新生物治療後の経過観察検査	28	1
慢性ウイルス肝炎	26	29
胃の悪性新生物	26	12



総合内科（内分泌・代謝・糖尿病内科、リウマチ科、アレルギー疾患内科）

1. スタッフ

副院長兼部長 笠山宗正： 三木俊治(兼任)、藤原弘士、浅沼伸行(8月まで)、佐藤文三(名誉院長)
専攻医：濱野芳匡、田淵優希子

2. 診療活動

内分泌疾患・糖尿病・リウマチ・膠原病の診療に関して専門性の高い診療を行うよう心がけており、大阪市外からの受診患者も年々増加している。

a. 内分泌・代謝・糖尿病内科

糖尿病に対する治療法も時代とともに変遷している。看護師・管理栄養士・薬剤師・理学療法士の協力の下に週4日開催してきた糖尿病教室も生活習慣病センター内で実施できるようになった。外来インスリン導入も積極的に実施している。糖尿病の血糖管理や糖尿病合併症の治療を目的とした入院件数が106件に増加した。内分泌疾患では、下垂体機能低下症・下垂体腫瘍の入院が21件、クッシング症候群・アルドステロン症・原発性副甲状腺機能亢進症などの入院が10件あった。

b. リウマチ科

生物学的製剤の登場により関節リウマチの治療法も進歩している。抗IL-6受容体抗体の臨床治験を含む生物学的製剤による治療をはじめとした関節リウマチ患者の入院が32件あった。その他、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎などの膠原病の入院も23件あった。

c. アレルギー疾患内科

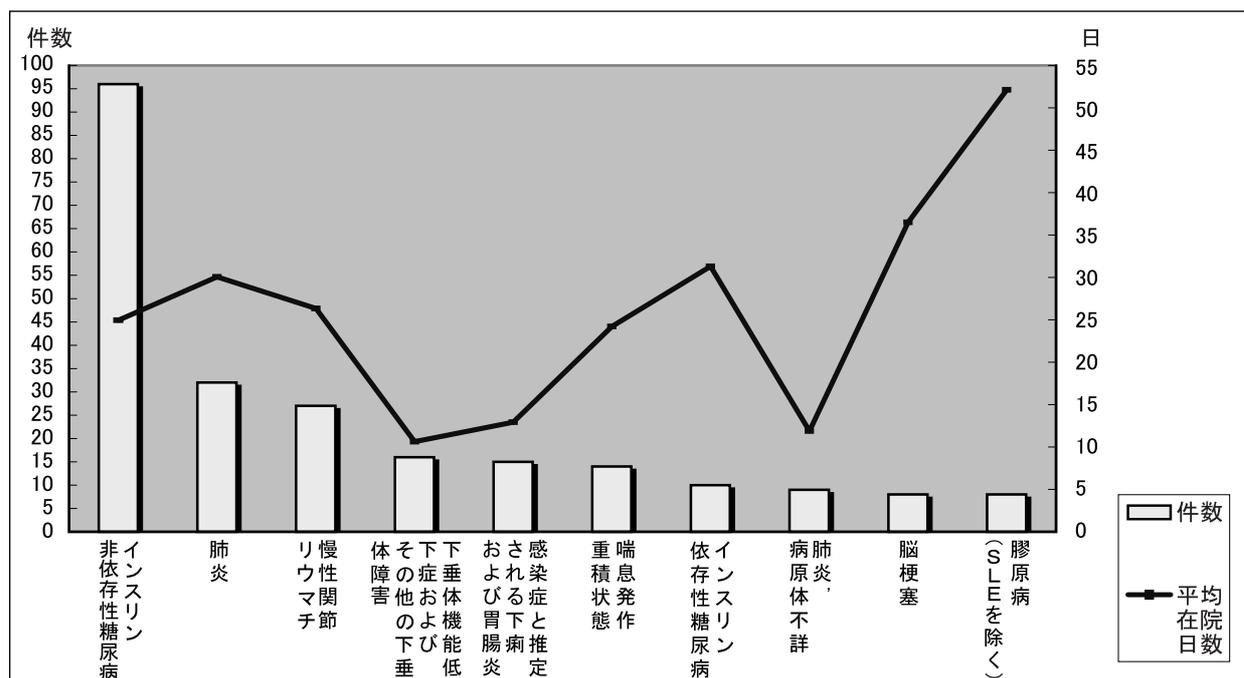
吸入ステロイド治療の普及に伴い喘息の重積発作による入院は減少しているが、呼吸器感染症による喘息の増悪や難治性喘息患者の入院が14件あった。

d. その他の疾患として、呼吸器感染症51件、脳梗塞8件、感染性胃腸炎17件、間質性肺炎7件などの入院があった。

文責 笠山宗正

2008年1月～12月－総合内科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
インスリン非依存性糖尿病	96	25
肺炎	32	30
慢性関節リウマチ	27	26
下垂体機能低下症およびその他の下垂体障害	16	11
感染症と推定される下痢および胃腸炎	15	13
喘息発作重積状態	14	24
インスリン依存性糖尿病	10	31
肺炎、病原体不詳	9	12
脳梗塞	8	37
膠原病（SLEを除く）	8	52



血液・化学療法内科

1. スタッフ

部長 中川雅史：立川豊吏 長谷井仁美
専攻医：馬場希一郎

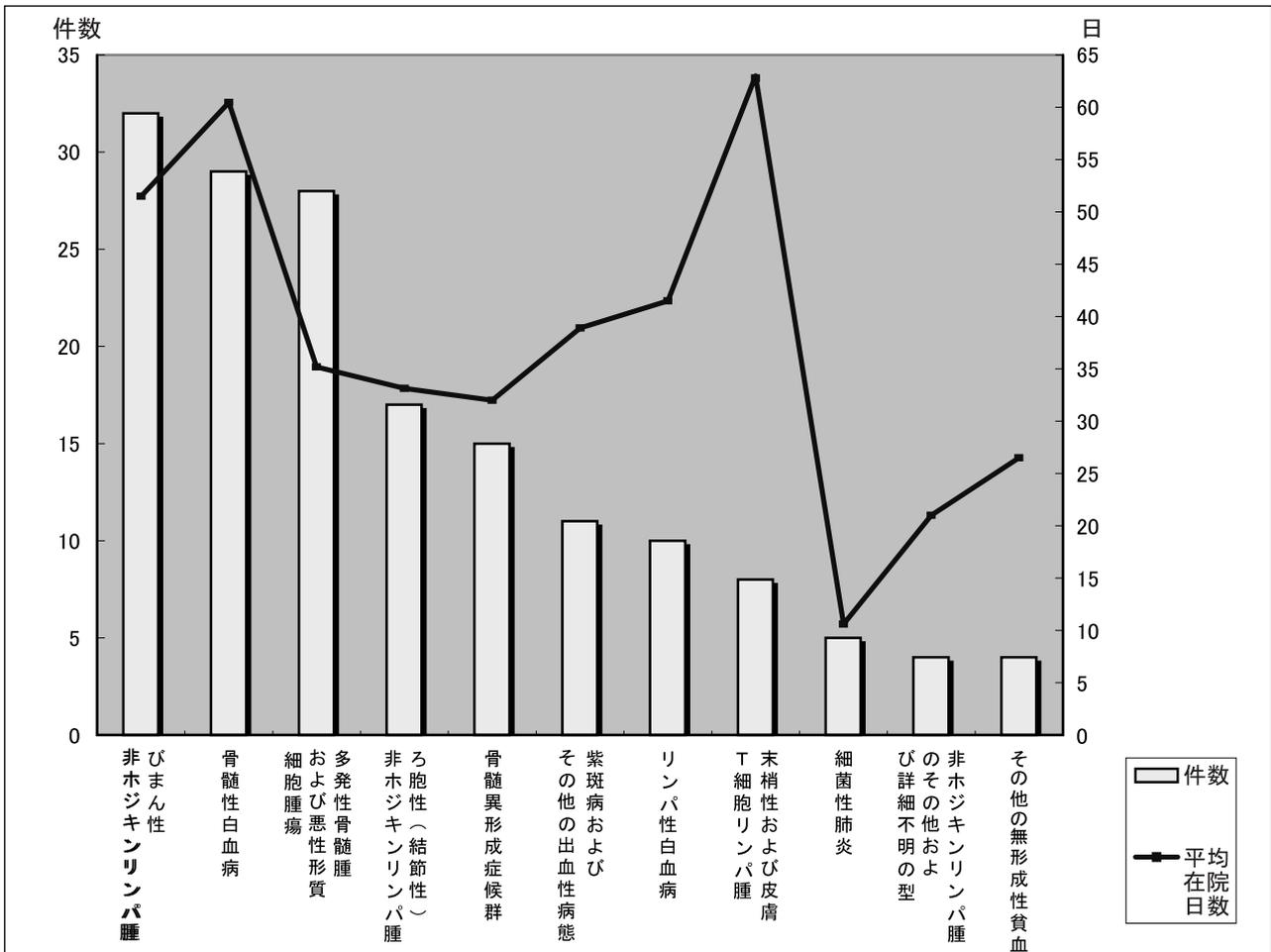
2. 診療活動

急性白血病・慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの血液悪性疾患のみならず、溶血性貧血・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病など、血液疾患の全般的に診察にあたっている。特に、再発・難治性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植併用大量化学療法に積極的に取り組んでいる。また、同種骨髄移植に関しても、スタッフ全員が十分な経験を有しており、移植前の管理・移植病院へのスムーズな引き継ぎ・移植後ケアなどすべての面で診療を行なっている。一方、抗ガン剤が有効な縦隔腫瘍や乳癌などの固形癌の治療に関しても治療実績を持っており、臨床腫瘍学会の暫定指導医資格を有する医師2名を中心に、最近とみに必要性が言われている腫瘍内科医としての診療も行っている。診療実績として代表的な疾患は、骨髄性白血病：29例、リンパ性白血病：10例、悪性リンパ腫（非ホジキンリンパ腫、ホジキン病、成人 T 細胞リンパ腫/白血病）：61例、多発性骨髄腫：28例、骨髄異形成症候群15例、特発性血小板減少症：11例（入院実績・延べ） などである。

文責 中川雅史

2008年1月～12月－血液化学療法内科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
びまん性非ホジキンリンパ腫	32	52
骨髄性白血病	29	60
多発性骨髄腫および悪性形質細胞腫瘍	28	35
ろ胞性（結節性）非ホジキンリンパ腫	17	33
骨髄異形成症候群	15	32
紫斑病およびその他の出血性病態	11	39
リンパ性白血病	10	42
末梢性および皮膚 T 細胞リンパ腫	8	63
細菌性肺炎	5	11
非ホジキンリンパ腫のその他および詳細不明の型	4	21
その他の無形成性貧血	4	27



神経科・精神科

1. スタッフ

部長 江川 功 : 高橋 励

2. 診療活動:

当科の診療活動は外来（専門外来を含む）、自科入院、他科入院患者の診療の3つである。

一般外来では、うつ病、パニック障害、適応障害などの一般的な加療のほか、身体表現性障害、強迫性障害、全般性不安障害などの神経症圏のものが多い。専門外来は一般診療の時間枠内で行われており慢性疲労症候群、てんかん、睡眠障害等に対応している。また木藤友美子（非常勤）らが認知症の早期診断を行っており、症例数は少ないものの地域からの紹介も増加傾向にある。外来での心理分野では、認知症スクリーニング、ストレス測定バッテリー、人格障害スクリーニング、うつ病の重症度評価などを行っている。また患者の希望に応じ一部症例ではカウンセリングも施行している。

自科入院は精神科を標榜する一般病棟での診療であり、入院患者の内訳は図に示す通りうつ病が中心となっているが、神経症圏、てんかん及び一部軽症の統合失調症の患者の入院も受け入れている。これは当科を受診する患者の傾向を一部反映していると考えられるが、一方で、精神病圏、認知症を含む症状性・器質性精神障害は入院よりも外来における診療が中心となっている。

近年入院加療を行っている総合病院精神科の減少が続いており、診療所からの紹介患者の受け入れが従来よりも高まっている。社会的要因や疾患の特徴などから単科での入院が困難なケースにはできる限り対応するように心がけている。

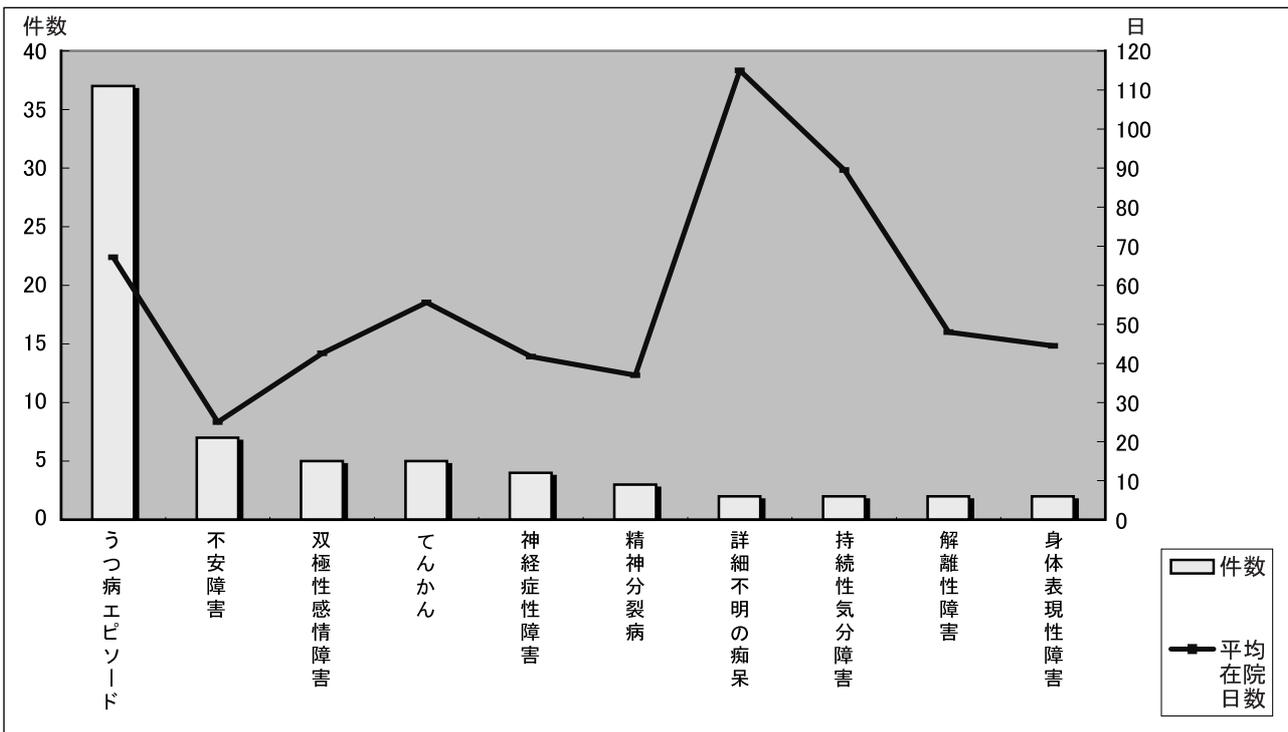
院内の他科入院患者の診察依頼は共観および往診の形態で行われており、適応障害、せん妄、身体化病態などへの対応が中心となっている。またがん治療センターの設立に伴い緩和ケアへの取り組みも高橋、丸山（臨床心理士）を中心に積極的に行っている。

今後は企業のメンタルヘルス等にも予防センターとともに取り組んでいきたい。

文責 江川 功

2008年1月～12月－精神・神経科の疾患（件数・平均在院日数）

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	37	67
不安障害	7	25
双極性感情障害	5	43
てんかん	5	56
神経症性障害	4	42
精神分裂病	3	37
詳細不明の痴呆	2	115
持続性気分障害	2	90
解離性障害	2	48
身体表現性障害	2	45



小児科

1. スタッフ

部長 杉本久和 : 山根秀一
専攻医: 林田雅子

2. 診療活動

- 本年度の総入院患者数は295件でそのうち小児科入院した新生児は82件であった。
- 一般小児科入院の大半は例年通りほとんどが感染症によるものであった。
- ギランバレー症候群が1人入院した。呼吸障害はあったが呼吸管理を必要とするところまでは行かなかった。グロブリン治療で軽快し退院した。外来のリハビリテーションで後遺症なく回復している。
- 川崎病は4件のうち1例は2度目の超大量ガンマグロブリン療法を必要とした。
- 心臓カテーテル検査は1件でフォロー四徴心内修復術後の左肺動脈狭窄に対してカテーテル治療を行ったものである。
- 総出生数は428件でそのうち約19%に当たる82件が小児科入院となった。仮死および呼吸障害による入院が39件(47.5%)、在胎週数短縮もしくは低体重によるものが12件(15%)を占めた。
- 出生直後に気管内挿管を必要としたベビーもいたが新生児搬送になったのは消化管の問題があった2件(腸回転異常、非器質性の通過障害)と児心音低下で緊急帝王切開となった在胎31週(RDS+ブロックを伴う上室性期外収縮)の1件の計3件であった。

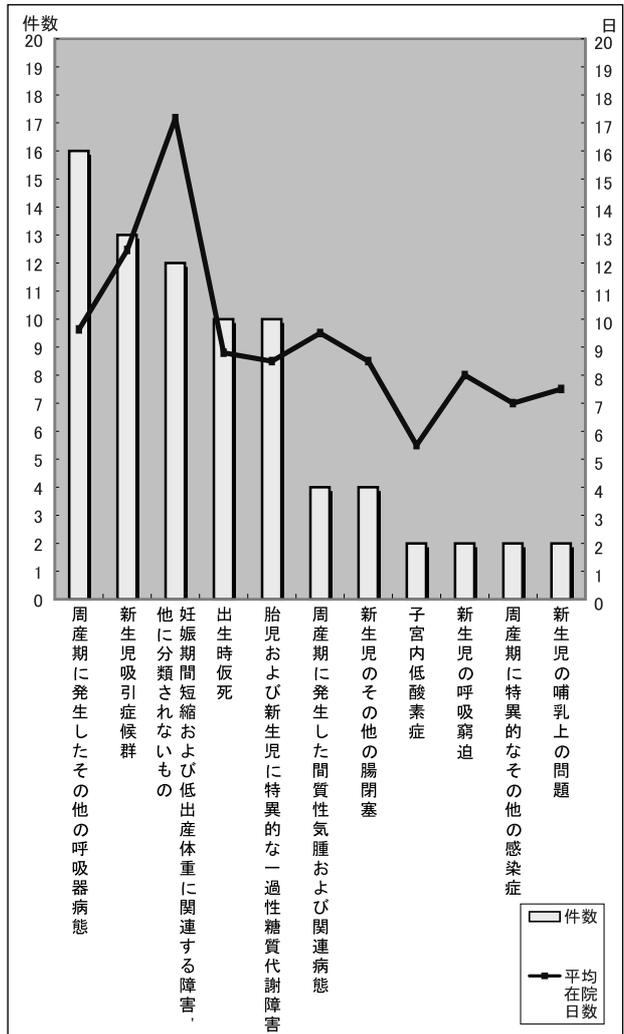
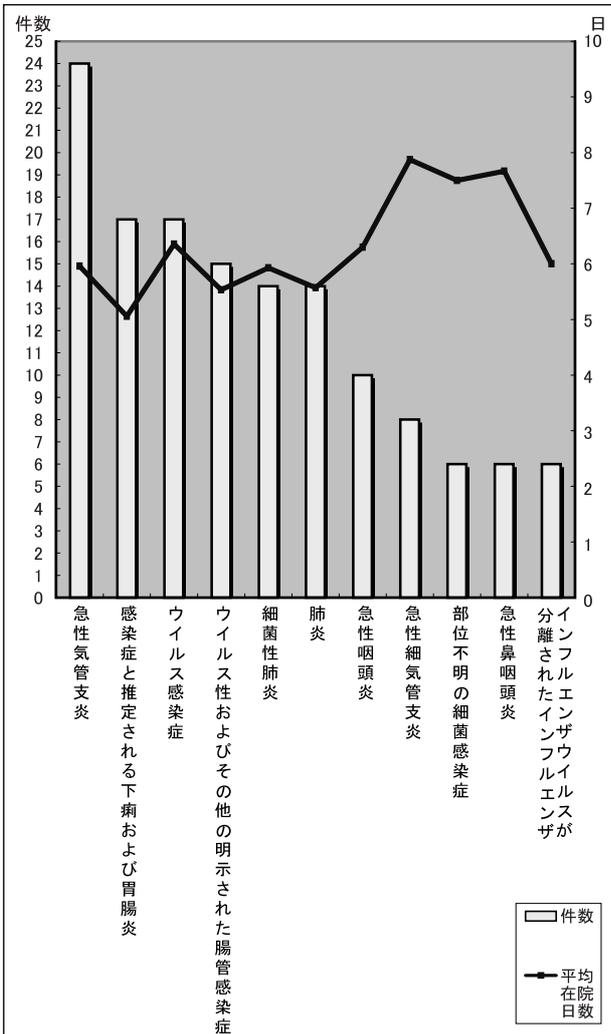
文責 杉本 久和

2008年1月～12月－小児科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
急性気管支炎	24	6
感染症と推定される下痢および胃腸炎	17	5
部位不明のウイルス感染症	17	6
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	15	6
細菌性肺炎	14	6
肺炎	14	6
急性咽頭炎	10	6
急性細気管支炎	8	8
細菌感染症	6	8
急性鼻咽喉炎	6	8
インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	6	6

2008年1月～12月－新生児の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
周産期に発生したその他の呼吸器病態	16	10
新生児吸引症候群	13	12
妊娠期間短縮および低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの	12	17
出生時仮死	10	9
胎児および新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	10	9
周産期に発生した間質性気腫および関連病態	4	10
新生児のその他の腸閉塞	4	9
子宮内低酸素症	2	6
新生児の呼吸窮迫	2	8
周産期に特異的なその他の感染症	2	7
新生児の哺乳上の問題	2	8



消化器・一般外科

1. スタッフ

部長 吉川幸伸（1-6月）、藤川正博（7-12月）

：黄 泰平、濱中雄幸（1-3月）、安政啓吾、宮田俊男（4-11月）、

専攻医：田中恒行

2. 診療活動

平成20年の治療実績および在院日数を表とグラフで示す。平成20年7月に部長交代があったが、手術件数は全身麻酔269例、腰椎・硬膜外麻酔83例、局所麻酔80例であり、ほぼ昨年と同数を維持できた。また、10月から乳腺外科が開設されたため、以後の乳癌症例は西田部長のもとで診察治療されている。

手術症例数の内訳では、胆石症、胆嚢腺筋症などに対する胆嚢摘出術が81例（腹腔鏡下70例、開腹11例）、ソケイ部のヘルニア修復術69例で、昨年よりやや増加した。胆石症では炎症が高度な症例に対しても積極的に腹腔鏡下手術を施行している。また、通常の胆石症に対する場合でも、より合併症の少ない、クリップなどの異物を遺残させない“上質の腹腔鏡下胆嚢摘出術”をこころがけている。

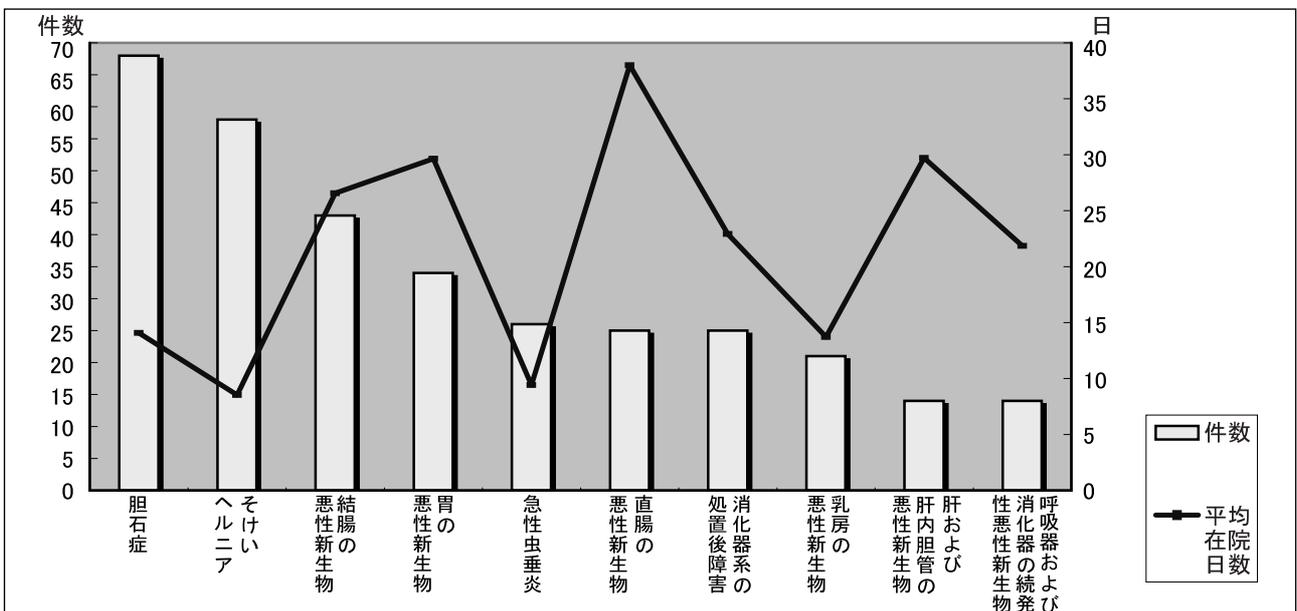
悪性疾患では、五大悪性腫瘍に含まれる大腸癌、胃癌、肝癌（転移性含む）、乳癌が中心となった。手術件数としては、悪性腫瘍手術126例のうち大腸癌56例、胃癌25例、肝癌9例、乳癌27例が占めた。また、胆道、膵悪性腫瘍に対する手術を5例に行い、肝胆膵領域の手術は増加傾向にある。今後も積極的に実施していきたいと考えている。早期癌に対する内視鏡手術として腹腔鏡補助下結腸切除10例、胃切除術2例を施行した。これらの疾患に対する内視鏡手術は、その利点が明確に証明されているとは考えていないが、今後も適応のある症例については考慮していきたいと考えている。

在宅医療の推進とDPCの観点から、術後症例に対しての補助化学療法のみならず、進行再発癌に対する化学療法は、ほとんどの症例を外来通院で行っている。大腸癌進行再発症例に対するFOLFOX、FOLFILI療法などの化学療法や在宅経静脈栄養のためのCVポート留置術を33例に行った。

文責 藤川正博

2008年1月～12月－外科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
胆石症	68	14
そけいヘルニア	58	9
結腸の悪性新生物	43	27
胃の悪性新生物	34	30
急性虫垂炎	26	9
直腸の悪性新生物	25	38
消化器系の処置後障害	25	23
乳房の悪性新生物	21	14
肝および肝内胆管の悪性新生物	14	30
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	14	22



乳腺外科

1. スタッフ

部長 西田幸弘

2. 診療活動

a. 紹介

平成 20 年 10 月より開設致しました。基本的には当院外科藤川部長以下 5 名のスタッフと共に運営していき、将来的には医局員を増やしていく予定です。

b. 診療方針

乳癌検診に関しては、マンモグラフィーと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は 1 日で診察終了となります。腫瘍のある方は当日中に細胞診等を施行し 1 週間後には結果を出すシステムです。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の外来化学療法センターにて、術前・術後ともに通院での外来化学療法を行います。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応します。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し、必要に応じて再建術にも対応いたします。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検でより確実な診断を目指します。

c. 統計

10 月新設の科であり 3 ヶ月間の実績ですが、外来化学・分子標的療法は 80 例/月、超音波・マンモグラフィは約 150 例/月、手術数は実質 2 ヶ月で 9 例でした。今年度もすべてにおいて同等数を維持していきたいと思えます。

3. 学会発表

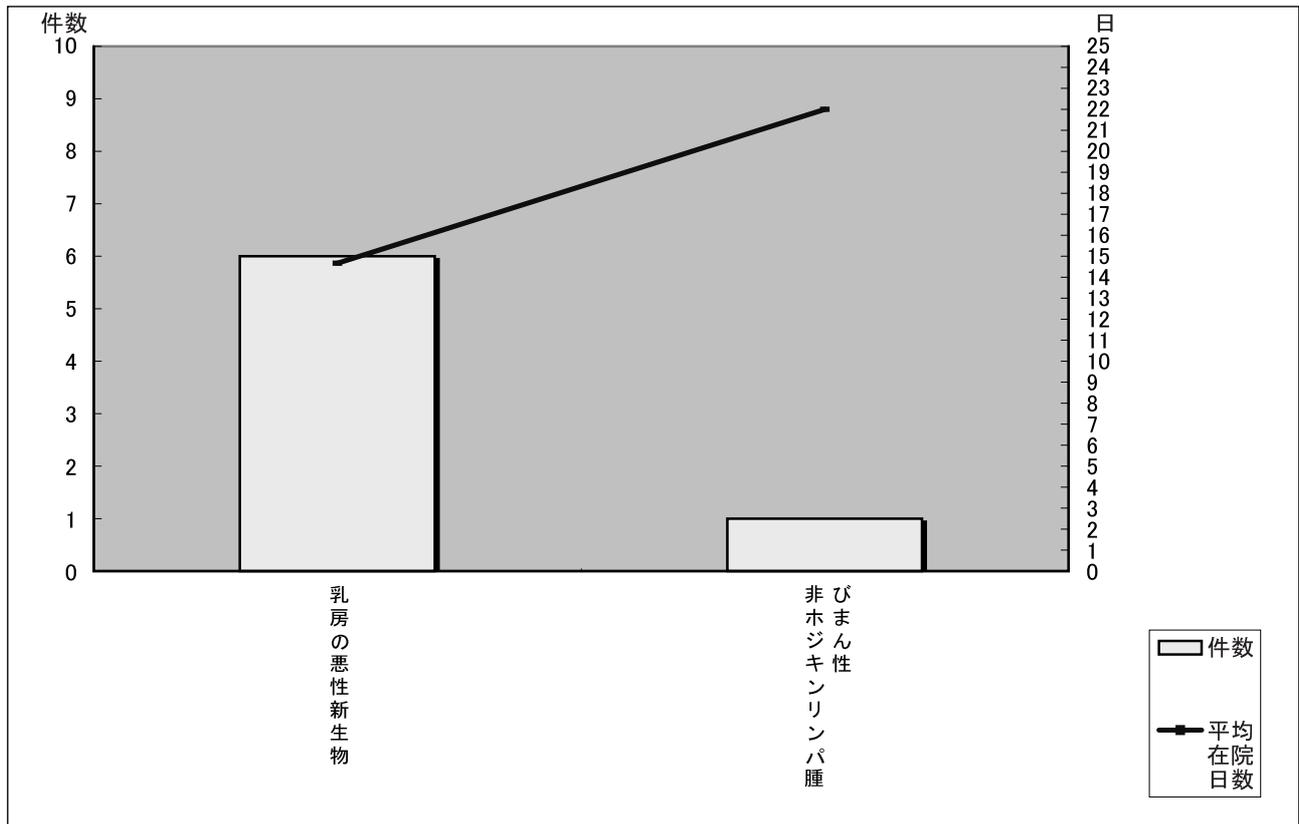
第 46 回癌治療学会学術集会

西田幸弘：地域連携がん診療拠点病院におけるブレストケアチームの役割，第 46 回癌治療学会学術集会，11 月，2008，名古屋

文責 西田 幸弘

2008年10月～12月－乳腺外科の疾患(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	6	15
びまん性非ホジキンリンパ腫	1	22



整形外科

1. スタッフ

部長：稲岡 正裕、三木 宏真、宮崎 忠勝、和倉 隆造、李 大相
 (平成 20 年 1 月 1 日付で、表 一岐副医長が転出し、三木 宏真医長が着任、
 平成 20 年 4 月 1 日付で、和倉 隆造 専攻医が転出し、李 大相専攻医が着任した。)

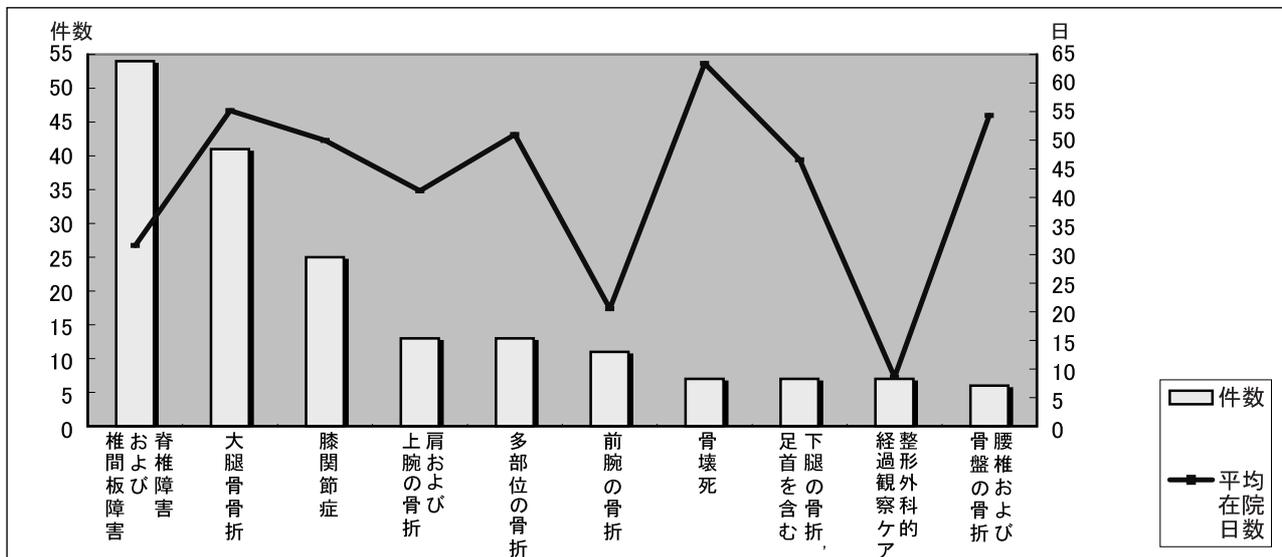
2. 診療活動

- 外来診療は、初診担当医 1 名、再診担当医 1 名の 2 名体制とした。平均外来患者数は 1 日約 70 名であった。変形性関節症や腰痛症、頸肩腕痛などに対して、薬物療法、理学療法、物理療法、装具療法、ブロック療法などの保存的治療を行った。義肢装具は火、木、金曜日の午前を作製日とした。
- 専門外来は、金曜日の午後に脊椎外来(担当：稲岡)火曜日の午後に関節外来(担当：三木、宮崎)を継続し、特に専門的な対応を要する患者の診療や術後経過観察などを行った。木曜日の午後に身障診断等に関する診察を行った。
- 入院診療において、手術件数は、平成 20 年は総手術件数は 213 件と総数は前年度に比べて若干減少しているが、内容的にはほぼ同様であった。内訳は、脊椎疾患、関節疾患、外傷、及びその他に分類すると、脊椎疾患は 36 件、内訳は椎弓形成術などの頸胸椎疾患が 10 件、椎弓切除術や後方進入椎体間固定術、脊椎短縮固定術など腰椎疾患が 26 件であった。関節疾患においては、人工膝関節置換術 24 件、半月板処置や靭帯再建術、Lavage など膝関節鏡視下手術 5 件、人工股関節置換術 7 件、人工骨頭置換術 17 件、ガンマーネイルなどの大腿骨近位部の骨接合術は 19 件であった。四肢の骨折に対する骨接合術や鋼線固定術 46 件、靭帯、腱の縫合など 4 件、手根管症候群や肘部管症候群など末梢神経に対する手術や腱鞘炎に対する腱鞘切開など 23 件、腫瘍性疾患に対する切除術や生検術 10 件であった。
- リハビリテーション室では、中央化したのちも、リハビリ診療を整形外科がバックアップし、理学療法士など人員と機器の整備を行った。一般的な理学療法、運動療法を中心に行った。脳血管障害や呼吸器循環器疾患などによる機能障害に対しても、より快適で充実した日常生活の再獲得を目指して診療を行った。
- 整形外科における診療及び学術に関する定期的会議としては、抄読会は毎週金曜日早朝、術前検討会議は毎週金曜日午後、病棟会議、リハビリ連絡会議は毎月 1 回行った。

文責 稲岡正裕

2008年1月～12月－整形外科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
脊椎障害および椎間板障害	54	32
大腿骨骨折	41	55
膝関節症	25	50
肩および上腕の骨折	13	41
多部位の骨折	13	51
前腕の骨折	11	21
骨壊死	7	63
下腿の骨折、足首を含む	7	47
整形外科的経過観察ケア	7	9
腰椎および骨盤の骨折	6	54



皮膚科

1.スタッフ 部長 東山真里：佐藤彩子、横見明典（全員、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医）。
専攻医：糸井沙織

2.診療活動

a.特色 西区では唯一の重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。QOL を尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。

b.症例数・治療・成績

(外来) 2008年の外来患者数は1日平均116名。うち初診患者数 2884名/年。紹介患者数 480名。紹介率16% 専門外来：【乾癬外来】月平均新患数は10名で再診は延べ250名余り。1.外用療法 2.光線療法 3.内服療法（レチノイド、シクロスポリンA）などから重症度、年齢を考慮し個々の患者に最適な治療を選択し副作用を最少に効果を最大限に。(2.)扁桃炎など乾癬を悪化させる要因について精査。(3.)重症、難治例には入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射（全身型設置）を行う。効果が良く、副作用も少ない。入院、外来とも可能。(4.)療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める【アトピー外来】重症例では光線療法、ネオール療法も併用。悪化原因の精査、小児では食物アレルギーの精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的に診療を行う。【皮膚外科外来】良性悪性腫瘍、ケロイド、毛巣洞、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。年間手術件数298件（全身、腰椎、麻酔手術3件含む）皮膚生検数 350件/年

*医療設備 薬浴室（外来、病棟とも）全身型紫外線照射装置（UVA,UVB,ナローバンドUVB）*外来診療主治医制で再診は予約制。原則3診体制で診察。初診外来あり（月、水曜は東山担当）。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火、木（午後）、予約制。アトピー外来は水、金曜（午前）、皮膚腫瘍外来は月（午前）、皮膚外科外来は金曜（午後）。

*入院 入院患者数は年間236、共観も含めると267名、1日平均12名で、帯状疱疹（51名）、蜂か織炎（33名）、重症乾癬（30名）、皮膚良性腫瘍（15名）、皮膚悪性腫瘍（13名）、下腿潰瘍（8名）、薬疹（8名）、アトピー性皮膚炎（6名）など

c.学術活動

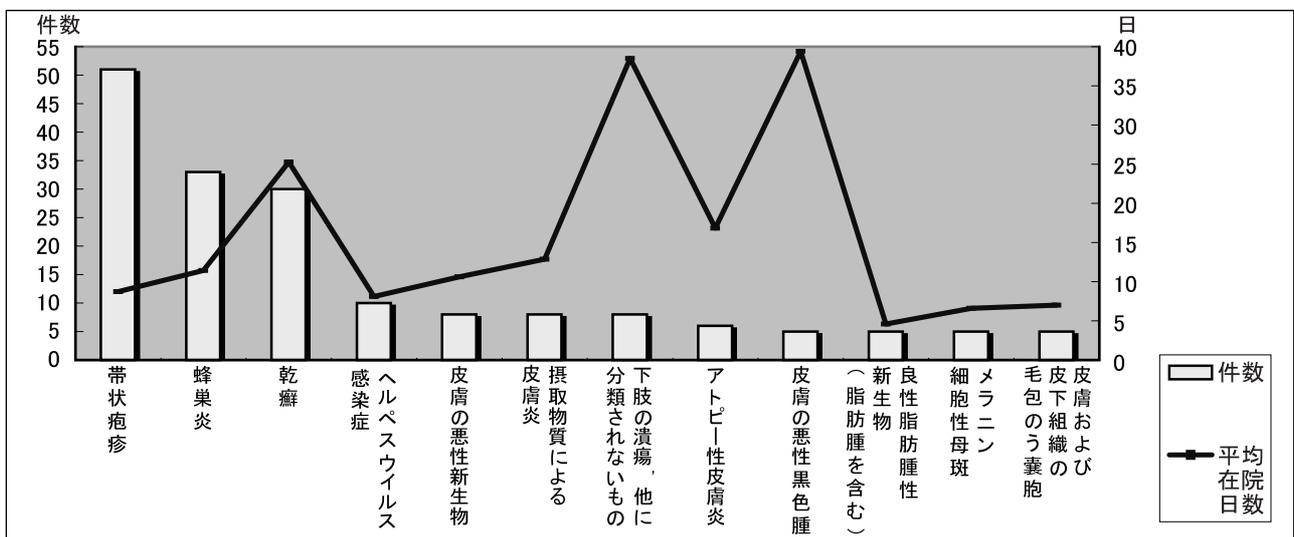
論文：2編 学会発表：8演題

日本皮膚科学会総会、日本皮膚科学会中部支部総会大阪地方会、日本乾癬学会などに発表。

文責 東山真里

2008年1月～12月－皮膚科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹	51	9
蜂巣炎	33	11
乾癬	30	25
ヘルペスウイルス感染症	10	8
皮膚の悪性新生物	8	11
摂取物質による皮膚炎	8	13
下肢の潰瘍、他に分類されないもの	8	39
アトピー性皮膚炎	6	17
皮膚の悪性黒色腫	5	39
良性脂肪腫性新生物（脂肪腫を含む）	5	5
メラニン細胞性母斑	5	7
皮膚および皮下組織の毛包のう嚢胞	5	7



泌尿器科

1. スタッフ 部長 黒田 昌男 : 福井 辰成 花房 隆範 専攻医: 中田 渡

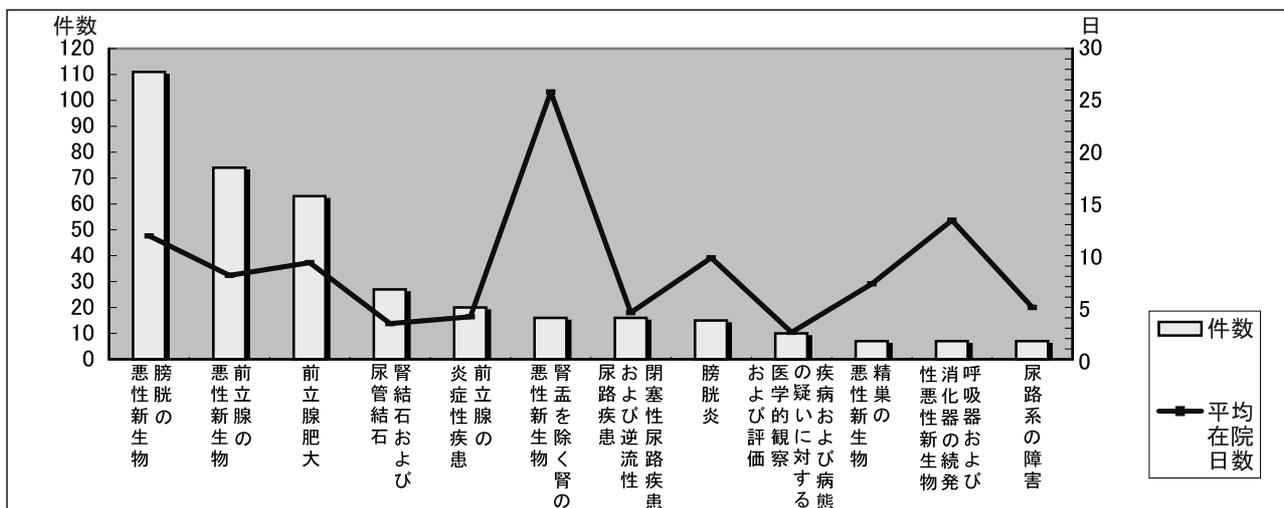
2. 診療活動

- a. **膀胱癌**に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術 104 例、根治的膀胱全摘除術 7 例(自排尿型代用膀胱形成術 3 例・回腸導管造設術 3 例)、膀胱部分切除術 1 例に対して行いました。5 例に多剤併用全身化学療法を施行しました。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防として BCG 膀胱内注入療法を 35 例に施行しました。膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向として QOL の良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしています。
- b. 前立腺生検を 106 例に行い、新たに**前立腺癌**と診断された 50 症例に対して、抗男性ホルモン療法 31 例(15 例は他院に依頼)、前立腺全摘除術 10 例、放射線治療 3 例を行いました(診断が平成 20 年で翌年に治療を行った症例を含む)。5 例は悪性度が低く、余命に影響を与えない小さい癌として待機療法(治療せず経過観察のみ)としました。(1 例は経過観察できていません。) 70 歳以上の症例に前立腺全摘除術を行うと、尿失禁を生じやすいことから、全摘は原則として 70 歳未満の症例に対して行うことにしています。前立腺外に浸潤する癌に対しても、本邦では抗男性ホルモン療法を行った後に前立腺全摘除術がよく行われていますが、再発率が高く、癌が残るのみならず尿失禁も残るため、前立腺全摘除術は癌が前立腺内にとどまっている病期のみに限るようにしています。抗男性ホルモン療法の副作用を軽減し医療費も節約できる間歇的抗男性ホルモン療法を取り入れています。
- c. **悪性精巣腫瘍**に対する高位精巣摘除術を 2 例に行いました。2 例に抗癌化学療法を行いました。
- d. **前立腺肥大症**に対する外科的治療として、経尿道的前立腺切除術 21 例、前立腺被膜下摘除術 13 例を行いました。高齢者の前立腺肥大症に対しては、侵襲の少ない尿道ステント留置術(3 例)も行っています。
- e. **尿路結石**(腎結石、尿管結石)に対して、入院して体外衝撃波碎石術(ESWL)を行ったのが 30 例、外来通院で 37 例に行っています。経尿道的膀胱碎石術を 4 例に、経尿道的尿管碎石術を 9 例に行いました。尿路結石の原因となる副甲状腺腫瘍に対して摘除術を 1 例に行いました。
- f. 経尿道的手術以外の**内視鏡手術**を 8 例に行いました。腎癌に対する腎摘除術 2 例、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘除術 5 例、副腎腫瘍に対する副腎摘除術が 1 例です。手術時間はやや延長しますが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様の QOL が良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できます。現在、対象としているのは、腎悪性腫瘍、腎盂尿管悪性腫瘍、水腎症、尿管狭窄、副腎腫瘍などです。腎悪性腫瘍、副腎腫瘍、後腹膜腫瘍で、開腹手術を行った症例は、各々 6 例、1 例、1 例で、大きな悪性腫瘍以外は内視鏡手術を行うことにしています。
- g. 女性の尿失禁は中年以降の女性の 3分の1に認められる疾患ですが、今までは手術成績が満足できるものではありませんでした。新しく開発された TVT 手術は、治療成績も良く手術侵襲も小さいことから広く行われるようになってきました。当科では薬物療法、運動療法で十分な効果が得られなかった 6 例に行い、尿失禁は改善しています。
- h. 慢性腎不全症例に対して血液透析を行っています。11 例に内シャントを造設し、血液透析療法の導入を行いました。

文責 黒田 昌男

2008年1月～12月－泌尿器科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
膀胱の悪性新生物	111	12
前立腺の悪性新生物	74	8
前立腺肥大	63	9
腎結石および尿管結石	27	3
前立腺の炎症性疾患	20	4
腎盂を除く腎の悪性新生物	16	26
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	16	5
膀胱炎	15	10
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	10	3
精巣の悪性新生物	7	7
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	7	13
尿路系の障害	7	5



産婦人科

1. スタッフ 部長 船渡 孝郎：佐伯 典厚 横井 猛（～6月）橋本（矢田）奈美子（7月～）
大塚 博文（4月～）久 毅 松岡 左希子（～8月）廣田 憲二
専攻医 松岡 智史（2年次）久 裕（1年次）

2. 診療活動

平成20年度は専攻医であった久 毅先生と松岡 左希子先生が専門医を取得されました。また本年度は、先生方の異動の多い年度でもあり、4月に大塚先生が府立急性期病院から入会され、7月に横井先生が大学病院に戻られ、代わりに橋本（矢田）先生が箕面市民病院から常勤嘱託医として入会され、松岡（左）先生が吹田市民病院に移られました。

診療の面では新技術である MESH を用いた骨盤臓器脱（TVM）手術を多く経験しました。また前年度以上に内視鏡関連手術の症例も経験しました。学術活動におきましても前年度より多く、特に内視鏡関係などを中心に投稿・公演・学術発表を行ってまいりました。

a 産科

428 症例の分娩を取扱いさせていただきました。今年度は大塚先生が入会され専門外来として新しく胎児外来を開設していただきました。例年同様産科オープンシステムも継続していきました。

b. 婦人科

手術総数は711症例（流産手術など産科処置室での手術40症例および 帝王切開術78症例を含む）
内視鏡手術432症例：腹腔鏡下手術372症例

（TLH 89、LAM&TLM115、卵巣嚢腫97、内膜症77、子宮外妊娠4、その他3）
子宮鏡下手術（TCR）58症例

開腹手術134症例：ATH17症例、広範子宮全摘出（子宮頸癌4症例）、
卵巣癌9症例、卵巣（LPM 含）8症例、

子宮体癌9症例、子宮筋腫核出6症例、帝王切開78症例、その他4症例

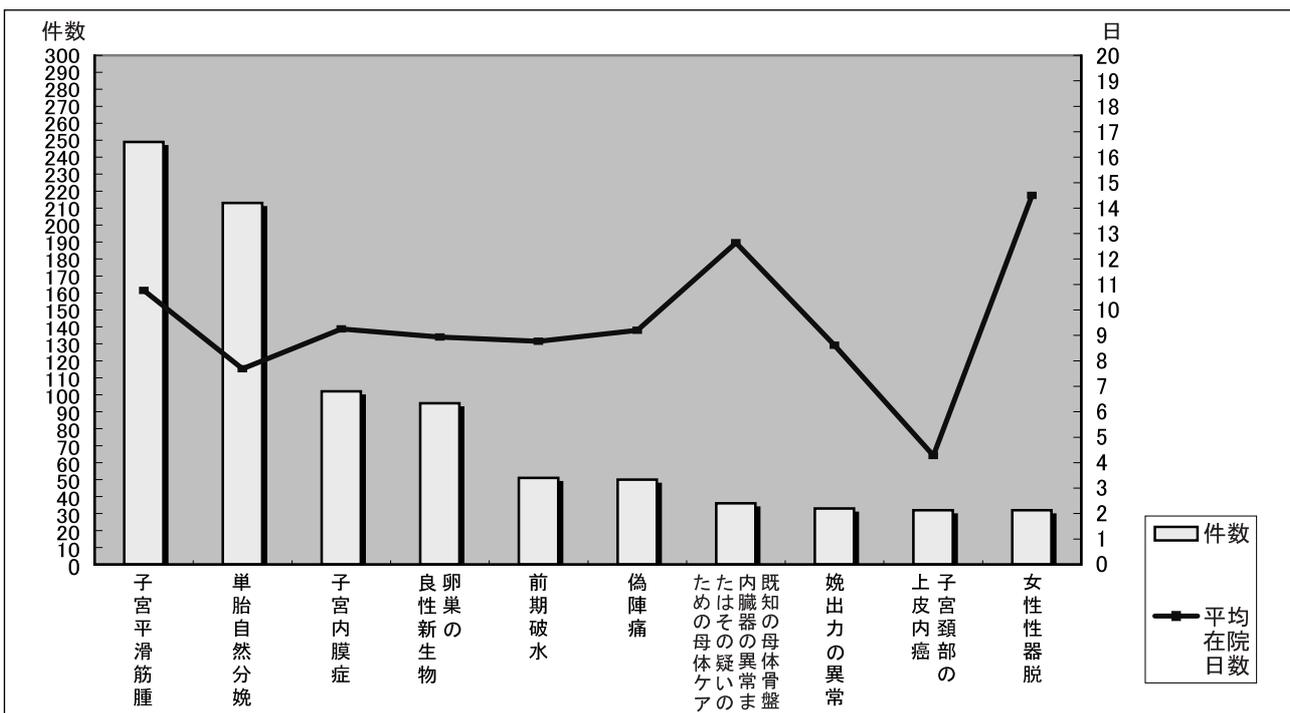
経膈手術94症例：円錐切除術（初期癌&高度異型上皮）47症例、

その他17症例、TVM手術28症例、その他の子宮脱2症例

文責：船渡 孝郎

2008年1月～12月ー産婦人科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	249	11
単胎自然分娩	213	8
子宮内膜症	102	9
卵巣の良性新生物	95	9
前期破水	51	9
偽陣痛	50	9
既知の母体骨盤内臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	36	13
娩出力の異常	33	9
子宮頸部の上皮内癌	32	4
女性性器脱	32	15



眼科

1. スタッフ

部長 杉本 麗子 : 瀬口 道秀

当院眼科は大阪大学眼科の関連病院で、医師：常勤2名、非常勤3名、看護師：3名、視能訓練士：4名（うち非常勤1名）、眼鏡士0.5人の体制で、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めております。質の高い医療の提供と患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げています。また病診連携を積極的に進めており、オープンシステムも推進し、かかりつけ医との連絡を密に取りながら、診療を行っております。

2. 診療活動

a. 全般

一般的な眼科疾患の診断・治療、特に白内障手術、緑内障手術、網膜硝子体手術、角膜移植手術など幅広く行っています。2008年はオープン医システムの推進の影響もあり手術件数が大幅に増加し、のべ手術件数は白内障533件・緑内障36件・網膜硝子体3件・角膜移植術29件、など観血的内眼手術603件でした。

b. 白内障手術は主として日帰り、あるいは一泊入院体制を中心に、患者様の希望に沿った入院期間を設定しています。術式は99%以上が角膜小切開超音波白内障手術+foldable 眼内レンズ挿入術（切開創3.1mm）で、重篤な術後合併症も認めませんでした。

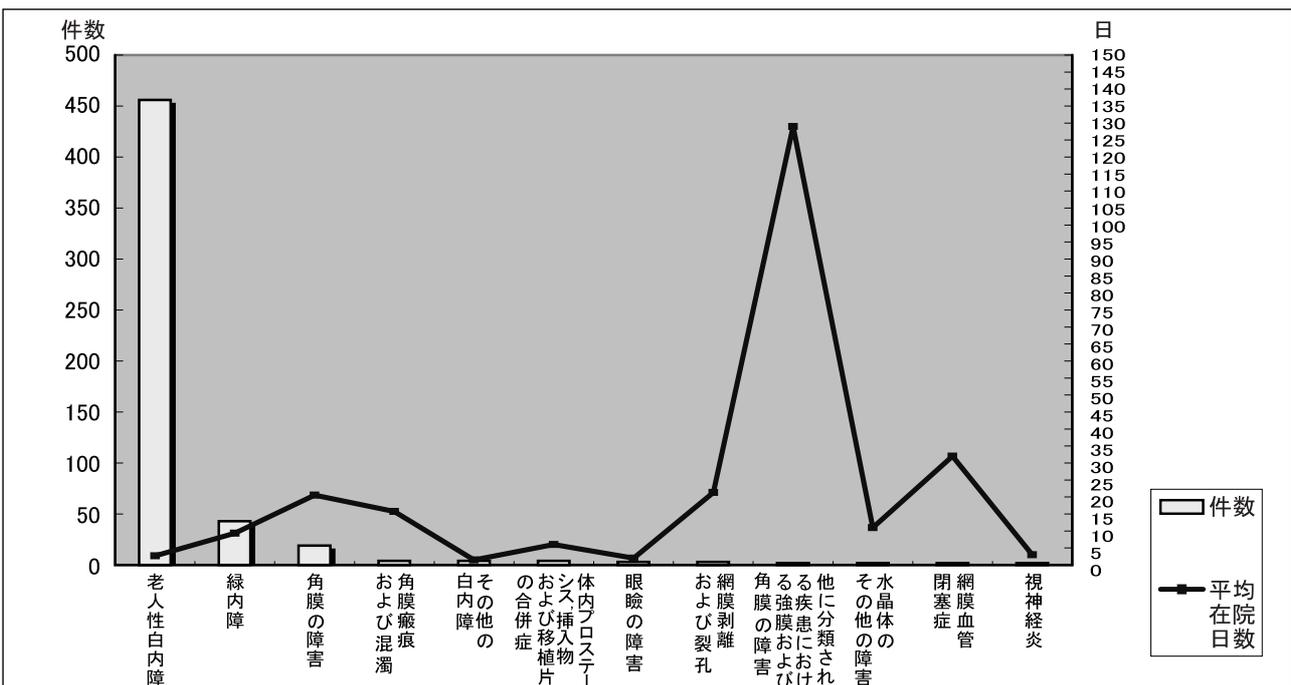
c. 緑内障では、眼圧日内変動測定入院を適宜施行し、眼圧日内変動パターンに応じて個々の患者様に最適な24時間単位の眼圧コントロールを心がけています。手術治療が必要な症例には主にトラベクトミーを選択し、術後合併症も重篤なものを認めていません。

d. 角膜移植術については、米国アイバンクから角膜を輸入するシステムを採用し、ある程度ご希望に合わせた日程での手術が可能です。角膜白斑、水疱性角膜症、角膜変性症などを主な適応とし、一般的には2週間程度の入院で、全層角膜移植、表層角膜移植、上皮形成術、内皮移植などのパーツ移植を症例に応じて施行しています。

文責 杉本麗子

2008年1月～12月－眼科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
老人性白内障	456	3
緑内障	43	9
角膜の障害	19	21
角膜瘢痕および混濁	4	16
その他の白内障	4	2
体内プロステシス、挿入物および移植片の合併症	4	6
眼瞼の障害	3	2
網膜剥離および裂孔	3	21
他に分類される疾患における強膜および角膜の障害	2	129
水晶体のその他の障害	2	11
網膜血管閉塞症	2	32
視神経炎	2	3



耳鼻咽喉科

1. スタッフ 部長 金田宏和：田邊修一（7月まで）、岡本倫朋（8月から）、谷口由希子
2. 診療活動

- a. 耳鼻咽喉科一般

鼻アレルギー、慢性副鼻腔炎、扁桃腺炎、中耳炎、難聴などに代表される耳鼻咽喉科疾患の治療に加え、めまい症に対する神経耳科学的検査、イビキや睡眠時無呼吸症に対する検査も行っています。

- b. 特殊検査と治療

甲状腺腫瘍に対する超音波ガイド下の穿刺吸引細胞診

アレルギー性鼻炎に対するレーザー手術

ABR、蝸電図、平衡機能検査、MRIを用いたメニエール病や突発性難聴の診断

良性発作性頭位眩暈症に対する浮遊耳石置換法

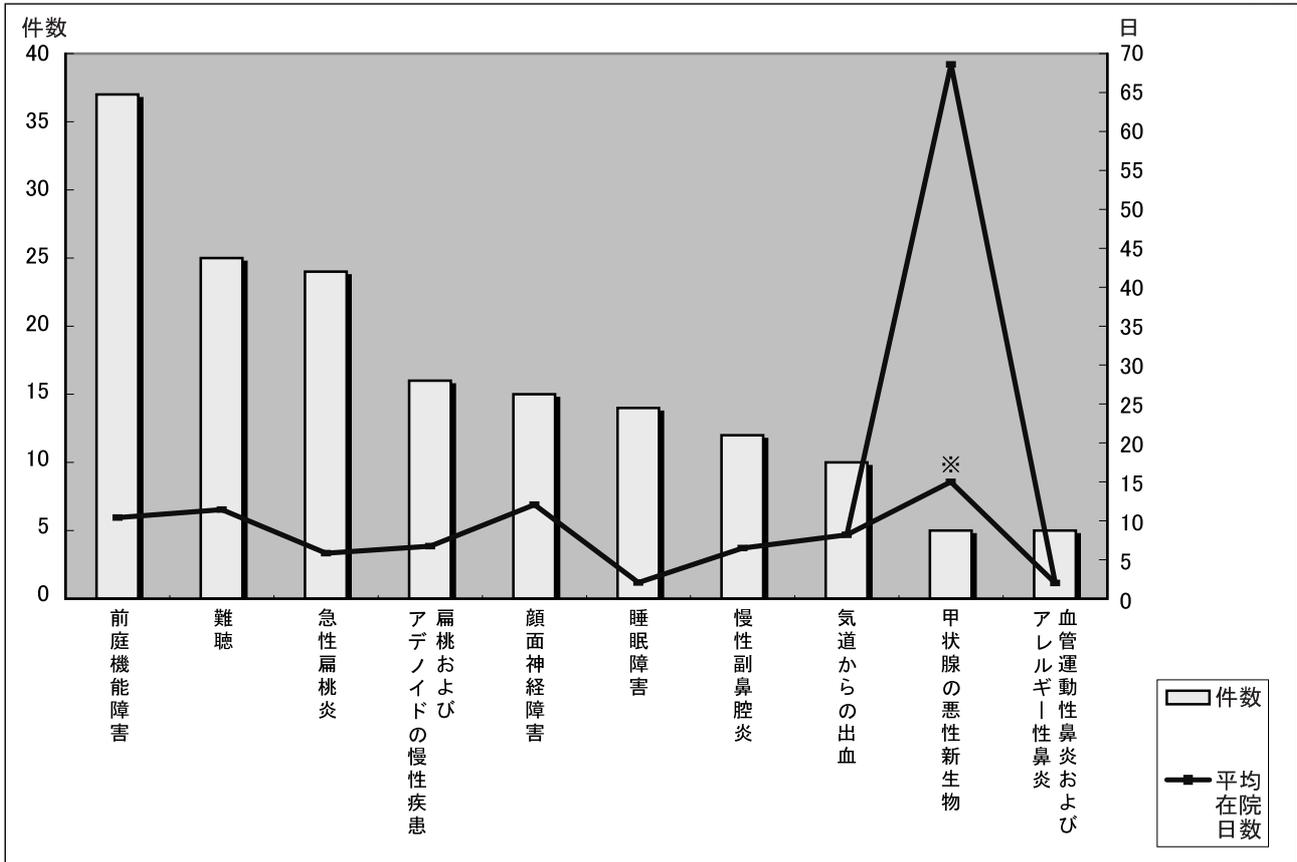
薬剤による睡眠検査

文責：金田宏和、赤羽 誉

2008年1月～12月ー耳鼻科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
前庭機能障害	37	10
難聴	25	11
急性扁桃炎	24	6
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	16	7
顔面神経障害	15	12
睡眠障害	14	2
慢性副鼻腔炎	12	7
気道からの出血	10	8
甲状腺の悪性新生物	5 ※15	69
血管運動性鼻炎およびアレルギー性鼻炎	5	2

※中央値



放射線科

1. スタッフ 部長 三谷 尚：安部久志、岩澤 仁
(放射線技師長) 松本茂一

2. 診療活動

当院放射線科は、腹部超音波検査、消化管造影、CTやMRIなどの画像診断はもとより、放射線治療、各種IVRを施行しております。三谷 尚が日本医学放射線学会専門医、日本IVR学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医、安部久志は日本医学放射線学会専門医、岩澤 仁は日本医学放射線学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医であります

3. H20年実績(2008. 1. 1-12. 31)

1) 各種IVR施行件数

i) vascular IVR ; 56件

HCCのTAE49件、脾動脈瘤塞栓術3件、BRTO1件、脾炎動注療法;1件、
動注カテーテル留置術;1件、副腎静脈採取:1件

ii) nonvascular IVR ; 55件

臓器生検;23件

膿瘍ドレナージ術;3件

PTBD;18件、胆管ステント留置術:4件

RFA;7件

以下はH20年実績(2008. 5. 26-12. 31)

2) 放射線治療

症例数;54例

症例内訳

脳2例

頭頸部2例

乳癌10例

食道癌5例

肺癌2例

悪性リンパ腫10例

転移性骨腫瘍などその他23例

文責 三谷尚

麻酔科

- 1 スタッフ 部長 川原玲子：山崎恭子 井上潤一 奥野聡子 真鍋渉 玉井裕
- 2 診療活動

a. 当科の特徴

手術時の麻酔を担当しています。全身麻酔はもちろんですが脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもあります。術中管理を行うにあたり、術前診察・術後診察を麻酔科外来で行っています。術前診察では手術前に問診・検査結果・診察を行って患者さんの全身状態の評価を行い手術に適した麻酔法を選択します。麻酔法およびその合併症について患者さんに説明・承諾していただくため非常に重要です。術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA (Patient Controlled Analgesia) 装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用しています。術後診察を麻酔科外来で行い鎮痛効果を評価し、硬膜外チューブ抜去まで行います。

ペインクリニックも麻酔科で行っています。ペインクリニック外来は毎日、透視下ブロックは月曜日午前に行っています。癌性疼痛管理にも携わり、緩和医療にも積極的にとりくんでいます。高周波熱凝固を用いた恒久ブロックや外来通院での麻薬の処方も行っており、痛みを和らげ日常生活に返すことに力を入れています。モルヒネを始め数種類の麻薬を錠剤・カプセル・細粒・シロップ・座剤・貼付剤・注射薬と多種の剤形で取り揃え患者さんに合わせて選択しています。麻薬を持って海外旅行をされた患者さんもあり、痛みを取るだけでなく一歩踏み込んで患者さんが生活をエンジョイすることを積極的にサポートすることを目標としています。平成20年2月より緩和ケアチームが発足し、週1回の回診と月2回のカンファレンスを行っています。緩和ケアにも麻酔科は積極的に関わっています。

教育にも携わっています。平成16年4月より新研修医制度がスタートしました。当院のプログラムではスーパーローテートと言って1年目の3ヶ月は麻酔科を研修します。そこで私たちも麻酔業務の傍ら、研修医を教育しています。常に1人から3人の研修医を預かるのはシステム作りも含めてなかなか大変です。ただこうして若い人たちが病院の中に急に増えたことで現場が活気付いたことは思わぬメリットでした。一般病院で育つ医師像を模索しつつ、教育活動を続けていきたいと考えています。

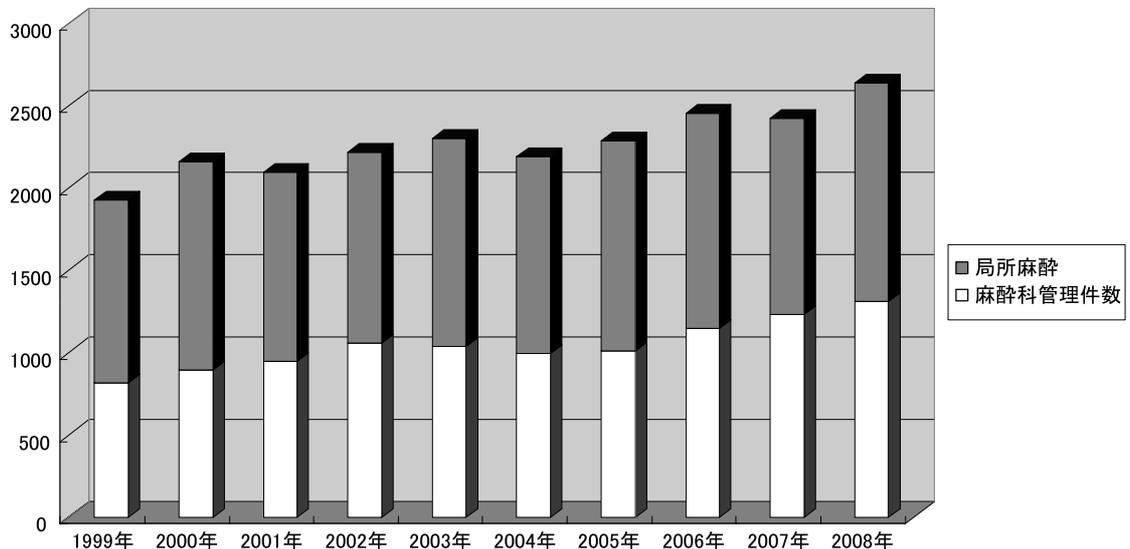
b. 平成20年の診療実績

手術件数はここ数年増加傾向で平成20年は2637件となりました。局所麻酔件数・全身麻酔件数ともに増加しています。スタッフ数減少の中でこの手術件数増加は麻酔科医の負担増を顕著にしています。全身麻酔のみならず重症例の全身管理など麻酔科医のニーズが高まっているのは全国的で、マンパワーの不足は極限に達しています。

ペインクリニックの平成20年の外来患者総数は5246人でした。ペインクリニックの新規患者様は他科あるいは他院からの紹介がほとんどで紹介元の科と共同で診療・治療に当たることが多くあります。病診連携が最も必要な科とも言えるでしょう。特に今年は癌性疼痛に対する永久ブロックに取り組みました。高周波熱凝固・フェノール・アルコールなどを用いて癌の痛みを和らげたり、硬膜外ポートを埋め込み在宅でPCAによる鎮痛を計ることで、帰宅できた方もありました。ブロック中心の疼痛管理ではありますが、認知行動療法なども取り入れ、患者さんのQuality Of Lifeを高めることを目標にしています。

麻酔業務に追われる毎日ですが、ペインクリニックや緩和医療、研修医の育成にも努力しています。

文責 川原玲子



病理診断科

1. スタッフ 部長 大嶋正人 検査技師 3名

2. 病理検査の集計

平成 20 年病理検査の集計は表に示した通りで、病理組織検査は年間 3645 件（前年比 3.7%増加）、術中迅速診断は 92 件（27.8%増加）で、免疫染色は 250 件（0.8%増加）であった。細胞診は年間 92818455 件（9.8%増加）で、婦人科系が 4379 件と 52.9%を占めた。病理解剖は 11 件（昨年比 31.3%減少）で、院内剖検率は 8.5%から 7.2%と減少した。病理解剖内訳は、内科系 11 件（剖検率 10.5%）、外科系 0 件（剖検率 0%）であった。

CPC の開催は 9 回行われ、内容は下記の示す如くであった。

158 回 01 月 31 日：第 1 例：肺炎+敗血症+頸椎損傷

159 回 02 月 29 日：第 1 例：肺癌+発作性心房細動

第 2 例：巨大肝内腫瘍

160 回 04 月 24 日：第 1 例：肺癌疑い+大動脈弁狭窄症術後

第 2 例：細菌性肺炎+陳旧性心筋梗塞

161 回 05 月 23 日：第 1 例：血球貪食症候群

第 2 例：悪性リンパ腫

162 回 06 月 26 日：第 1 例：糖尿病+肝癌

第 2 例：糖尿病+敗血症

163 回 07 月 31 日：第 1 例：出血性ショック+腸管悪性リンパ腫術及び化学療法後

164 回 09 月 04 日：第 1 例：POEMS

165 回 09 月 26 日：第 1 例：多発性骨髄腫+慢性腎不全

166 回 11 月 28 日：第 1 例：肝癌+慢性 C 型肝炎+肺癌

3. 診療方針

病理学的組織診断を正確に行うためには臨床各科と患者の医療情報交換を密にする様に心がけています。電子カルテ導入により、臨床情報の入手が容易となり、病理医と臨床各科とより密に正確な情報交換が可能となり、より正確な診断が出来る様になったと思います。

また、病診連携の重要性が言われており、紹介患者の医療情報を必要十分に得るためにも紹介医療機関の医師との情報交換も密にする必要があり、病理に関することの疑問点やその他病理情報が必要である場合には病理医に直接連絡できる体制にしているので、ご連絡よろしく申し上げます（内線：7061）。

文責 大嶋 正人

平成20年
(2008) 組織

細胞診

	入院	外来	件数 (内視鏡)	入院	外来	組織数	術中迅速	酵素抗体法	HER2	ER PgR	剖検数	婦人科 (ドック)	その他 (ドック)	細胞診計
H18	1967	1135	3102 (963)	2443	1177	3620	102	265	31	30	22	4255 (484)	4997 (935)	9252
H19	1888	1025	2913 (899)	2466	1050	3516	72	248	30	30	16	4379 (643)	4076 (866)	8455
H20	1992	1179	3171 (884)	2438	1207	3645	92	250	36	36	11	4906 (128)	4375 (215)	9281

がん治療センター

1. センター長 黒田昌男

[がん治療センター運営委員会]

吉川幸伸(外科、～H20.6)藤川正博(外科、H20.7～)、中川雅史(血液・化学療法内科)、江川功(神経科・精神科)、川原玲子(麻酔科)、石垣直也(放射線科)、野村浩英(薬剤部)、正野廣子、畠山明子、小山佐知子(以上看護部)、許斐正啓(企画室)]

[緩和ケアチーム チーム長 井上潤一(麻酔科)]

回診メンバー 寺川直樹(院長、H20.10～)、立川豊吏(血液・化学療法内科)、高橋励(神経科・精神科)、大林佳名子(薬剤部)、畠山明子、小山佐知子(看護部)、丸山加奈(神経科・精神科:非常勤)]

2. 活動

がん治療水準の向上とチーム医療の推進のための活動を、昨年度から継続して行った。また、「大阪府がん対策推進計画」に基づいて平成 21 年 4 月に創設される「大阪府がん診療拠点病院」の指定を目標とし、指定要件を充足するべく、各領域で内容の充実に取り組んだ。

・主たる業務

- ①がんに関する集学的治療の充実
- ②緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する院内外の教育研修
- ③がん治療に関する相談対応、情報提供
- ④がん登録の推進

・緩和ケア

緩和ケアチームによる介入、週 1 回の回診とカンファレンスの開催、月 2 回の各職種による定例勉強会・症例検討会の開催を行なった。

全職員及び近隣医療機関職員を対象とした、緩和ケア講演会を開催した。

・レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、化学療法レジメンの登録管理を行なった。

・相談支援

地域医療連携室横に相談室・図書情報コーナーを移転拡充するとともに、インターネット環境を整備した。

・がん登録

がん登録率向上に向けた対策を実施した結果、登録率は大きく改善した。

・広報

パンフレット、ホームページの作成更新を行った。

文責 黒田 昌男

低侵襲医療センター

1 スタッフ センター長 船渡 孝郎

[低侵襲医療センター運営委員会]

中川 厚(循環器内科)、福田 昌輝(消化器内科)、藤川 正博(消化器・一般外科)、
中西 三季、猪田 睦子(看護部)、森本 洋子、村上 学(事務)

2 診療活動

センターが開設(2007年11月)されて初めての年度でありました。このセンターの特色は各診療科の個々の協力がなければ発展していかない部門である為に今後の活動の方向性を決定する大切な時期とともに模索した年度でもありました。今年度を振り返り次年度の活動はより広報に力をいれて診療実績の向上に努力したいと思っています。

a 治療部門 (抜粋)

低侵襲手術件数：1944件(2008年1月～2008年12月)

前年 1601件(2007年1月～2007年12月)

胃内視鏡検査：2333件(2008年1月～2008年12月)

前年 2240件(2007年1月～2007年12月)

白内障手術：532件(2008年1月～2008年12月)

前年 358件(2007年1月～2007年12月)

子宮鏡検査：138件(2008年1月～2008年12月)

前年 101件(2007年1月～2007年12月)

b 学術部門

学会・後援会・論文(執筆)・・・日生医誌 2009年1号 37巻参照
内視鏡手術トレーニングルームを6階東病棟に設置

c 医療機器部門

経鼻胃カメラシステムを3セット購入(2008年3月)・・・内視鏡室

内視鏡ハイビジョンシステム(VPPシステム)を3セット設置・・・

(2008年4月)・手術室

各種内視鏡手術セット購入・・・・・・・・・・・・手術室

d 広報(サービス)部門

[女性骨盤臓器脱・尿もれ・無料電話相談] 開催：2008年2月

骨盤臓器脱に関する座談会 [読売新聞] (センター長)：2008年3月

あわぎフォーラム：低侵襲医療センター紹介 (センター長)：2008年7月

ニッセイ[夏休み子ども医療体験 2008]で鏡視下手術にチャレンジコーナー 設置：2008年8月

[女性骨盤臓器脱・尿もれ・無料電話相談] 開催：2008年9月

文責 船渡 孝郎

生活習慣病センター

1. スタッフ

センター長 笠山宗正： 住谷哲、角南ちえ子、阿部恭子、井上恵子、米田育子、
山原瑞穂、梶木理絵、片岡宏一郎

[運営委員会委員]

笠山宗正、濱田偉文、湯川雅彦、江川功、住谷哲、松本茂一、新井幸子、野村浩英、
米田育子、正野廣子、角南ちえ子、許斐正啓

2. 当センター開設の目的と開設までの経緯

2型糖尿病・肥満・脂質異常症(家族性脂質異常症を除く)・高尿酸血症・循環器疾患(先天性を除く)・高血圧症(二次性を除く)などに代表される生活習慣病の発症や進行を防ぐためには生活習慣の改善が有効であることが多いが、患者にとって生活習慣を改善させることは容易でなく、第三者による介入・指導・支援が必要とされている。当院においても、これら生活習慣改善のために、診察室における医師による生活習慣指導や管理栄養士による栄養指導が実施されてきたが、内容・実施件数ともに十分なものでなかった。

そこで、生活習慣病診療の質を高め、当院および他医受診中の生活習慣病患者に対して生活習慣改善のための診療を行い、生活習慣病の一次予防・二次予防を図るとともに、合併症の発症と進展を抑制することを目的として、生活習慣病センターを開設することとなった。

循環器内科・消化器内科・総合内科・神経科精神科・放射線科・予防医学センター・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部・看護部・事務部の各委員より構成される開設準備委員会において具体的な診療内容の計画・立案を行い、平成 20 年 7 月に生活習慣病センターを開設し診療を開始した。当初は週 2 日の診療であったが、平成 20 年 10 月以降は週 4 日の診療を行っている。

3. 当センターにおける診療内容

a. オーダーメイド生活習慣病セラピー

生活習慣病診療で重要な役割を担う食事療法について、これまで、患者の身長のみから算出した標準体重をもとに 1 日当たりの摂取カロリーを設定する方法が用いられてきた。当センターでは、30 分枠の完全予約制で、患者個々の安静時代謝量・摂取エネルギー・運動エネルギー・運動能力を測定および評価し、患者個人の病態と生活習慣に応じた栄養指導・運動指導・生活習慣指導を行っている。これら指導は、患者の病態と治療効果に応じて複数回実施した。平成 20 年 3 月までに当センターを受診した患者数は 205 名であり、延べ人数は 668 名であった。

b. 糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象に、糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した。

c. 集団指導

栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部・看護部の協力を得て、糖尿病患者を対象とした集団指導(糖尿病教室)を週 4 日実施した。

<週間スケジュール>

	月	火	水	木	金
9:00~12:00	院外・院内	院内のみ	院内のみ	院内のみ	
13:00~15:00	院内のみ	院外・院内	院内のみ	院内のみ	
15:00~16:00		集団指導	集団指導	集団指導	集団指導

文責 笠山宗正

予防医学センター（健康管理科）

1. スタッフ

センター長 佐藤文三：池原千衣子、齋藤伸一、住谷哲、泉由紀子、高島周志

2. 平成20年度の概要

平成20年度は、独立した組織として「総合検診クリニック ニッセイ予防医学センター」と名称も変更し、4月よりリニューアルオープンした。結果として人間ドック受診者総数は3501名と対前年度1208名の増加となった。また、定健受診者も32776名と対前年度925名の微増となった。総収入としては4億5千万円強となり、対前年度17.8%増となった。また要精密検査と判定された受診者を丁寧にフォローアップすることにより昨年度と同様相当数の悪性疾患をはじめ各種生活習慣病を発見しえた。これには新しい試みとして7月より病院内に開設した2次スクリーニングのための健診精査内科の貢献も大きく、今後この専門外来を充実させていく予定である。その他、平成20年度は新しい健診制度である特定健診・特定保健指導も順調にスタートすることができた。さらに、社会貢献として毎年行っている無料低額健診事業も例年どおり行うことができた。学術活動としては、恒例の「あわぎ産業医セミナー」を開催し（大阪府酒井医師会々長特別講演）、多くの産業医や日生病院登録医と意見交換をした。また、学会発表も総合健診学会1題と人間ドック学会3題を応募した。

文責 齋藤伸一

表1. 定期健康診断・人間ドック受験者数

	20年	対前年
定期健康診断	32,776名	103.4%
人間ドック(日帰り) ^{注1)}	2,038名	134.2%
人間ドック(生活習慣病など) ^{注2)}	1,463名	181.3%
人間ドック 合計	3,501名	150.3%

注1) 標準コースの人間ドック

注2) 協会健保などの簡易人間ドック

表2. 平成20年 日帰り人間ドック受診者の年代別、性別の要治療項目と要精密検査項目の頻度

	要治療項目(治療中を含む、%)			要精密検査項目(%)		
	男	女	全体	男	女	全体
39歳以下	14.2	17.2	15.6	41.7	69.4	54.7
40-49歳	44.2	20.6	33.7	58.4	69.5	63.4
50-59歳	85.8	54.2	71.3	63.7	81.2	71.8
60歳以上	110.4	72.8	93.9	118.7	84.2	103.5

表3. 性別による要治療・要精密検査の上位5項目(日帰り人間ドック受診者)

	男 性		女 性	
	要治療・要精密検査項目	%	要治療・要精密検査項目	%
1	高血圧	20.0	腎・尿路疾患	12.0
2	眼科疾患	14.8	高コレステロール血症	11.7
3	高コレステロール血症	12.9	乳房疾患	11.2
4	糖尿病	10.8	婦人科疾患	11.0
5	食道・胃疾患	8.6	高血圧	8.8

表4. 悪性疾患の発見率:2008年1月～12月(日帰り人間ドック受診者)

人間ドック受診者	2038人;
癌が確認された者	12人; 0.59%

大腸癌3人、胃癌2人、食道癌2人、前立腺癌2人、子宮癌2人、白血病1人
(副甲状腺腺腫2人、卵巣奇形腫)

表5. 検査項目別の健診精査内科受診者数: 2008年7月～12月

受診者総数 135人

1	胸部X線	43人	6	高脂血症	13人
2	尿検査	24人	7	肝・胆道・膵疾患	11人
3	甲状腺	20人	8	血液疾患	8人
4	腫瘍マーカー	15人	9	高尿酸血症	4人
5	耐糖能	13人	10	高血圧	3人

【H20.4～総合健診クリニックを含む】

第4章 部別概要

中央臨床検査部

1. スタッフ 部長 浅野彰彦 臨床検査技師長 水口洋一
- 1、検体検査部門（Ⅰ）血液、生化学、血清、輸血、凝固線溶機能、一般
伊山 修、山本慶子、池田久美、坂本美智代、吉田隆則、
藤井ゆう子、内野高裕、天野精子、倉本訓子
- 2、検体検査部門（Ⅱ）細菌、病理、細胞診
新井幸子、藤田育子、水口洋一、角田道久、石倉果林
- 3、生体検査部門
超音波生理機能検査室：
中尾やす子、相馬容子、大西 龍、川口公次、古川浩司、柳川友加、森本梓
予防医学センター配属、竹中博美、篠田和子
聴力、平衡機能検査室： 坂口伊津子
- 4、臨床工学部門
臨床工学室：井上勇夫、加藤千尋

平成19年5月から水口洋一が技師長をつとめております。

平成18年4月より生体検査部門の超音波検査室、循環器生理機能検査室、脳波筋電図検査室を統合し、平成20年4月よりは予防医学センター担当技師も含めた運用としています。

平成17年10月に中央検査部の一部門として臨床工学室を開設しました。多様化する医療機器の修理・更新といった中央管理をはじめ、部門別に個々に採用されていた機器の統一や計画的な機器の拡充など病院各部署から多彩な期待が寄せられています。

検体検査部門を大きく二つに統合し、相互協力体制をとることで高い専門性を維持しながら効率的な人員配置が出来るように運用しています。

2. 特色

質の高い検査結果を得るための精度管理に力を注ぎ、日本医師会・大阪府医師会の臨床精度管理調査に36年間にわたり参加しており、優秀な成績を収め続けています。

中央採血化により迅速性を増し（迅速管理体制対応）、また24時間体制をとることで時間外にも緊急検査に対応しています。更には輸血業務を一元とすることで輸血検査から輸血管理までを安全かつ迅速に行って（輸血管理体制対応）います。

文責 浅野 彰彦

看護部

I. 看護部理念

日本生命済生会の基本理念「済生利民」に従い、ひとりひとりの状態と立場と気持ちにそった看護を提供します。
「済生利民」とは生命を守り、万民の安寧と幸せに貢献すること。

平成20年度のスローガン 「エビデンスに基づき、思いやりと創造から生まれた看護ケアを
ベッドサイドから発信します」

看護部基本方針

1. 安心で安全な看護の実践
2. 看護師の能力開発、資質の向上
3. 病院経営に参画し、効率のよい看護の実践
4. 選ばれる職場環境作りと手厚い看護の提供
5. 専門職としての責務と自己研鑽

II. 病棟概況

病棟状況

部署	定床	H20年度 患者数	稼働率	平均 在院日数	H20年度 配置基準	勤務人員			平均 夜勤回数 前期4-9 後期10-3	備 考	
						深	準	日			
3W	45	43	71.6	9.1	30	3	4	13	3.98		
	新										15
	計										60
4W	46	48	80.0	17.5	30	3	4	14	3.99		
	別										14
	計										60
4E	51	40	78.4	14.2	27	3	3	11	4.41 4.0		
5W	44 無菌室 ⁴	38	86.4	31.6	27	3	3	10	3.71		
	3.73										
5E	49	39	79.6	17.1	27	3	3	11	3.78 4.09		
6W	42	36	76.9	14.5	27	3	3	11	3.99		
	小	10							4		3.68
6E	27	22	70.6	9.3	27	金 ⁴ 3	木 ⁴ 3	10	4.34		
	未	7				2	3.68				
外来					42 バ16					17診療科以外に、地域医療連携室、 治験管理室へ各1名を含む	
手術					16					H21.2からオンコール体制（2名）	
管理					5					入院調整1名、感染担当1名を含む	
計	350	外来 ⁹¹² 病棟 ²⁷²	77.7	14.2	274				4.03 3.8		

III. 看護研修概況

- 1) 院内研修（別表P 84 ～ 85） 延べ参加者数 1709名
- 2) 院外研修（別表P 86 ～ 87）
 - ・短期研修大阪府看護協会、日本看護協会等の75研修会 112名
 - ・長期研修大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 2名
 - ・日本看護協会認定看護師研修受講（緩和ケア） 1名
 - ・ファーストレベル2名、 セカンドレベル研修 1名
- 3) 学会発表日本看護協会主催等 15学会 13演題

IV. その他

1) 看護学生実習受入

- ・大阪府医師会看護専門学校（3年課程）57名 5月～3月（基礎・成人・老年・小児・母性看護学）
- ・大阪医専看護保健学科（4年課程）96名 5月～3月（基礎・成人・老年）
- ・大阪保健福祉専門看護（3年課程）20名 5月～11月（母性・小児）
- ・大阪病院協会看護専門学校（3年課程）22名 2月～12月（母性・小児看護学）
- ・白鳳女子短期大学（助産学専攻）2名 7月～10月（産科）
- ・住友病院附属高等看護学院（3年課程）7名 7月～8月（母性看護学）
- ・北斗会看護専門学校（2年課程）13名 7月～8月（母性看護学）

2) 研修受入

- ・大阪府看護協会平成20年度看護力再開発講習会実習受入 7月・2月 12名

3) 看護体験受入

- ・5月8日 大阪府看護協会一日看護体験事業依頼 4名
- ・8月8日 大阪府一日看護体験 9名

4) 看護フェア

- ・5月12日～5月16日 看護写真展
- ・5月16日看護相談、身体測定、アロマ、フットケア、パンフレット配布等 126名参加

5) 手術室オンコール体制実施：H21年2月から2名

平日：17時～翌8時30分
休日：8時30分～翌8時30分

文責 湯浅美恵子

薬剤部

1. スタッフ 部長 畑中 勝義
部員：長谷田 住雄、小津 貞二、野村 浩英、濱口 良彦、土江 恵美
池田 久雄、乾 有希子、吉岡 亮、森 真由子、大林 佳名子
平田 貴宏
パート薬剤師：辻 俊美、中野 静香、宮 麻紀子
事務員（非常勤嘱託）：岩城 淳子

[H.20 年度計画事項とその執行状況]

1. 薬剤部業務体制
 - ・人員 : 薬剤師 15 名（パート 3 名を含む）
事務員 1 名
 - ・配置 : 調剤・製剤業務 7 名 薬剤管理指導業務（病棟担当） 6 名
治験管理室 1 名、事務担当 1 名、産休 1 名
2. ジェネリック薬品の採用
前年に引続きジェネリック薬品の導入を図った。注射薬 40 品目、その他 4 品目を採用し薬品購入における経済効果を図った。（前年比 9 品目増）
3. 薬剤管理指導業務の充実
1 病棟に 1 名の担当薬剤師を配置し患者入院時持参薬の確認、情報提供を行い、指導内容の充実を図っている。
4. 院内の薬に関する医療安全管理対策
医薬品安全管理者を設置し、病院内にある医薬品全般についての管理、適正使用についての情報伝達、安全使用についての確認を行っている。
5. 新規業務の展開
癌化学療法について化学療法委員会と連携し、院内で実施される癌化学療法の全プロセスを収集し運用を行っている。
5. 学術活動
日本医療薬学会に 3 題、緩和医療学会に 1 題、日本病院薬剤師会近畿学術大会に 1 題発表

[薬科大学学生実習受け入れ] 大阪薬科大学 4 名、京都薬大 1 名、武庫川女子大 2 名
神戸薬科大学 1 名、徳島文理大 1 名

[主要業務 10 項目]

1. 調剤業務（入院 51,500 枚）（外来 21,667 枚）（注射 73,659 枚）（麻薬 3,151 枚）
（院外処方箋 130,664 枚）
2. 製剤業務（一般・特殊製剤 1,280 件）（無菌 2,028 件）
3. 薬剤管理指導業務（ 9,114 件）
4. DI 業務（DI ニュース 18 件）（くすりニュース 4 件）
5. 抗癌剤無菌調製業務（入院 883 件 外来 1,724 件）
6. 薬品発注・在庫管理業務（採用品目数 1,278）（臨時購入薬品 54）（院外届出薬品 58）
7. 血液製剤管理業務（17 品 23 規格 461 件）
8. 院外処方箋に関する問い合わせ（6,128 件）
9. 薬事管理委員会（新規採用薬品 33、削除薬品 52）
10. 治療用薬品払い出し業務（4,023 枚）

文責 畑中 勝義

治験管理室

スタッフ 室長：長谷田 住雄
事務局：長谷田 住雄（兼務・薬剤部） 兵頭 友子（NIC）
CRC：長谷田 住雄（薬剤師） 谷口 真理子（看護師）

[H20 年度計画事項とその執行状況]

1. 治験事務局業務

モニターの電子カルテ閲覧（記録の保管）
日生病院治験審査委員会標準業務手順書の改定
治験業務マニュアルの整備
治験受託および契約の増加
日生病院ホームページに治験審査委員名簿、標準業務手順書を掲載

2. 治験コーディネーター（CRC）業務

被験者対応の確立
インフォームド・コンセントの充実
治験実施率向上のためのスクリーニング
院内 CRC 業務の拡張

[H20 年度実績]

治験審査委員会（IRB） 10 回開催
倫理委員会 10 回開催

1) H20 年新規受託契約課題 —— 5 件

- ・SPM962 のレストレス・レッグス症候群患者を対象としたプラセボ対照試験（用量反応試験）（神経科・精神科 江川部長）
- ・SPM962 のレストレス・レッグス症候群患者を対象とした後期第 II 相試験の継続長期投与試験（長期投与試験）（神経科・精神科 江川部長）
- ・CNT01275 局面型皮疹を有する乾癬患者を対象としたプラセボ対照二重盲検比較試験（皮膚科 東山部長）
- ・JNS024PR の癌性疼痛に対する第 II 相試験（麻酔科 川原部長）
- ・JNS020QD の帯状疱疹後神経痛 CRPS 又は術後疼痛症候群患者を対象とした検証試験（麻酔科 川原部長）

2) 前年からの継続実施課題 —— 7 件

- ・L059 継続投与試験（神経科・精神科 高橋副部長）
- ・MRA の慢性関節リウマチに対する継続投与試験（総合内科 藤原担当部長）
- ・MRA の慢性関節リウマチに対する後期第 II 相継続投与試験（総合内科 藤原担当部長）
- ・MRA の関節リウマチに対する第 III 相（二重盲検）長期投与試験（総合内科 藤原担当部長）
- ・慢性局面型皮疹を有する中等症又は重症の日本人乾癬患者（尋常性乾癬）を対象とした adalimumab（D2E7）の長期投与における安全性と有効性を検討する非盲検継続投与試験（皮膚科 東山部長）
- ・AS-3201 の糖尿病性末梢神経障害患者を対象とした二重盲検法による用量設定試験（後期第 II 相）（総合内科 笠山副院長）
- ・先端巨大症及び下垂体性巨人症患者を対象とした ITM-014 の単回及び反復皮下投与による第 II 相臨床試験（総合内科 笠山副院長）

3) H20 年終了課題 —— 4 件

- ・MRA の慢性関節リウマチに対する継続投与試験（総合内科 藤原担当部長）
- ・MRA の慢性関節リウマチに対する後期第 II 相継続投与試験（総合内科 藤原担当部長）
- ・MRA の関節リウマチに対する第 III 相（二重盲検）長期投与試験（総合内科 藤原担当部長）
- ・先端巨大症及び下垂体性巨人症患者を対象とした ITM-014 の単回及び反復皮下投与による第 II 相臨床試験（総合内科 笠山副院長）

4) 市販後調査

新規契約 —— 31 件
終了 —— 23 件

5) 医師主導・自主研究

新規 —— 48 件

文責 長谷田 住雄

栄養管理室

1 スタッフ 管理栄養士：米田育子、山原瑞穂、梶木理絵 調理師：藤田龍也
委託側(管理栄養士2名、栄養士4名、調理師6名、炊事員10名、)

2 栄養管理室の方針

患者食は、月1回のメッセージカードを添えたイベント食を充実させて、美味しい食事の提供に努力した。

チーム医療の一員として褥瘡、NST各回診に参加し、患者様との連携を深くしQOLの向上と、栄養改善によって、入院期間の短縮に貢献した。

生活習慣病センター開設で、新たにセンター内と、2箇所での栄養指導を実施することになり、栄養指導件数の増加となった。

文責 米田 育子

栄養指導件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
胃腸病	0	4	2	3	1	1	0	0	2	3	1	2	19	13
肝臓病	0	6	0	1	2	4	3	2	0	4	2	2	26	40
糖尿病	49	62	39	51	48	44	77	55	69	96	64	67	721	650
腎臓病	3	5	9	9	12	4	6	9	9	8	5	2	81	47
高血・心臓・高脂	27	17	19	12	16	11	16	37	24	45	31	20	275	277
肥満症	2	1	0	1	1	2	0	0	2	1	1	4	15	11
術後食	6	3	8	12	1	7	5	3	1	10	5	10	71	51
母子栄養	4	0	0	2	1	2	5	3	3	3	2	1	26	23
その他	2	5	1	3	7	2	6	4	5	2	2	8	47	38
計	93	103	78	94	89	77	118	113	115	172	113	116	1281	1150

栄養指導〈集団指導〉年間件数

	実施回数	外来人数	入院人数
糖尿病	25	10	102
両親学級	0	0	

錦会〈糖尿病患者会〉

11月15日…総会・食事会・講演会 参加人数14名

栄養管理計画書件数〈年間〉

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
計画書作成延数	8430	7872	8105	7920	8026	8115	8227	8019	7658	8222	7842	8268	96704	97082
入院患者延数	8636	7972	8243	8007	8142	8224	8319	8128	7753	8275	7960	8394	98053	99253
算定率	97.6	98.7	98.3	98.9	98.6	98.7	98.9	98.7	98.8	99.4	98.5	98.5	98.6	97.8

患者給食数〈年間〉

患者給食	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
常食	9063	8243	8282	8805	8630	9100	9152	9112	8320	7885	7412	8247	102251	106802
特食	11455	11301	11717	10305	11087	10930	11124	10239	10232	11790	10937	11223	132340	132539
合計	20518	19544	19999	19110	19717	20030	20276	19351	18552	19675	18349	19470	234591	239341
調乳本数	2704	2097	3755	2623	2320	2745	2391	1875	2035	1870	1667	2493	28575	20982

医療生活相談室

1. スタッフ

室長 江川 功

医療ソーシャルワーカー 2名

〔 本家 裕子 所持資格：社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員
松栄 優子 所持資格：社会福祉士・介護支援専門員 〕

2. 相談援助

a. 援助総件数

平成20年は、総数4844件（1日平均18.3件、月平均403.7件）の相談を受けました。昨年より減少しましたが、2名で業務を遂行するにはやはり多く、経済的・社会的・心理的相談のニーズの高さが伺えます。

b. 新規相談

平成20年の新規相談は1047件でした。紹介経路別にみると、本人（153件）と家族（100件）からの相談が24.2%（昨年は33.0%）を占めました。看護師（333件）、医師（128件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの依頼は49.6%（昨年は45.1%）であり、院内スタッフからの依頼率が年々増加しており、連携の促進が図られている結果と考えられます。診療科別にみると、内科が40.2%と最も多く、次いで整形外科（17.5%）、神経科・精神科（11.1%）となりました。

c. 相談内容

相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および病院・施設入所先の選定援助）が48.8%（昨年は43.7%）と最も多く、次いで介護保険、身体障害者手帳、特定疾患、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（24.1%）、受診・受療に関する問題調整（7.2%）、家庭問題に関する相談援助・生活支援（6.3%）、経済的問題に関する相談援助（4.9%）となりました。

3. 地域活動

a. 近隣の施設（医療機関、介護老人保健施設等）へ訪問し、面識を持って情報交換をすることにより、スムーズな連携を図ることができました。

b. 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会へ参画し、地域の高齢者施策の充実に貢献しました。

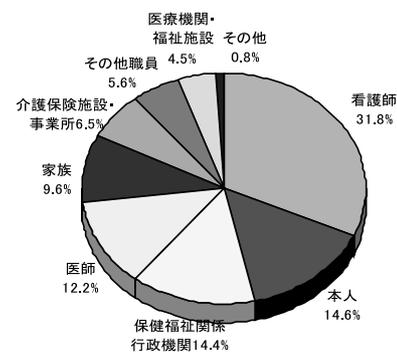
c. ケアプランセンターに所属、介護支援専門員（ケアマネージャー）を兼務し、利用者様の在宅生活を支援しました。

文責 本家 裕子

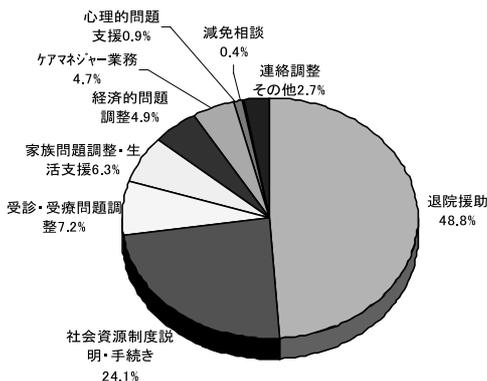
2-a. 相談件数(延べ数)

	平成20年	平成19年	平成18年	平成17年	平成16年
内科	2448	2521	2960	2370	2407
神経科・精神科	487	416	411	436	404
小児科	36	46	66	40	35
外科	301	401	325	382	237
整形外科	907	954	857	637	461
皮膚科	139	135	184	175	172
泌尿器科	100	200	172	135	112
産婦人科	205	74	175	184	189
眼科	70	27	80	236	184
耳鼻咽喉科	73	131	170	75	137
放射線科	2	0	22	11	-
麻酔科	2	0	4	4	3
歯科・口腔外科	0	21	53	70	114
不明・その他	74	104	426	518	29
合計	4844	5030	5905	5273	4484

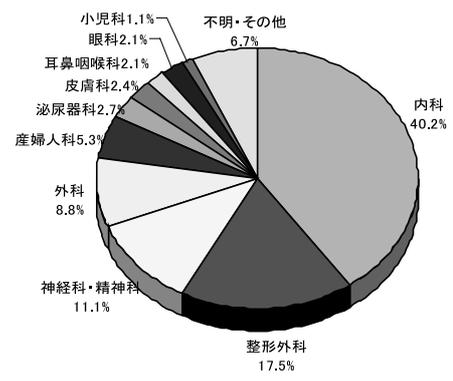
※18年までの累計には生活保護事務処理業務の件数を含む。(19年1月～医事課へ業務移管)
※歯科・口腔外科は平成20年1月～3月の件数



2-b-1. 新規ケース(紹介経路別)



2-c. 相談援助内容



2-b-2. 新規ケース分類(診療科別)

地域医療連携室

1. スタッフ 室長 廣田 憲二：猪田 睦子(看護師長) 岩田 美栄子 渡辺 喜代美

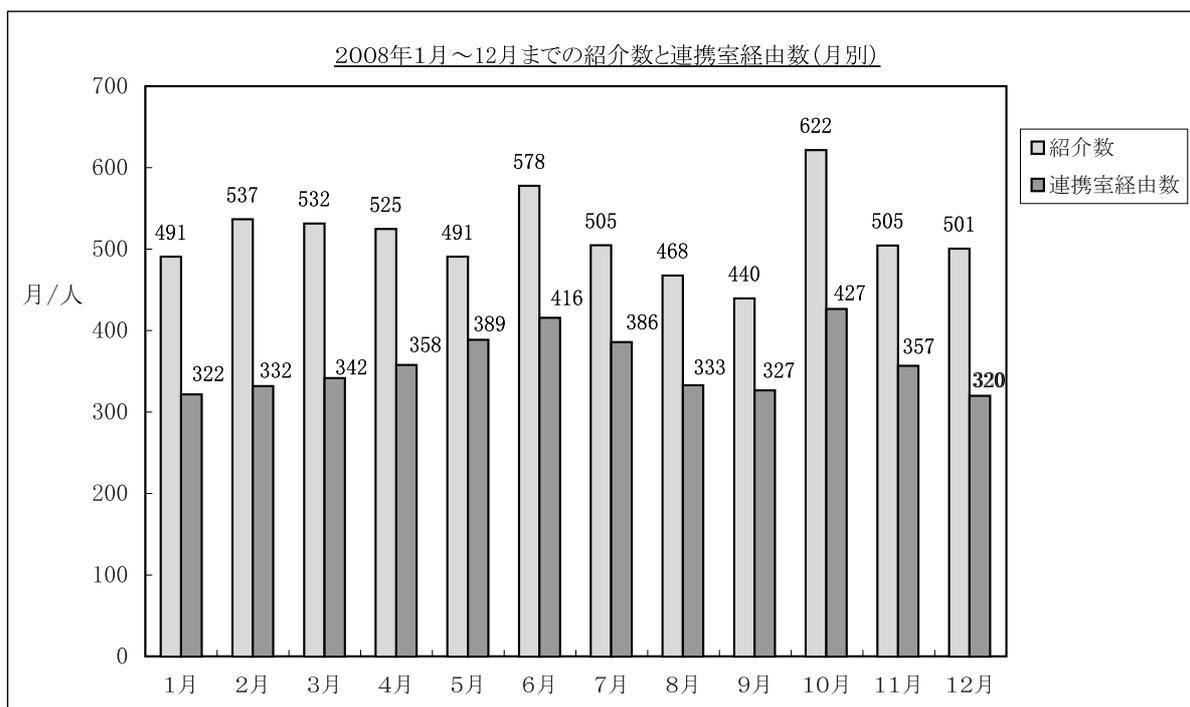
2. 活動内容

- ①連携室経由の紹介患者様の対応
- ②医療機関向けPR冊子の作成と送付
- ③第9回病診連携フォーラムの開催協力
- ④開放型病院登録医の共同診療への協力並びに登録医の増員
(登録医H20年12月末 220名)
- ⑤「第3回消化器内科・外科合同カンファレンス」(H20. 11. 22)開催協力
- ⑥紹介患者様の報告、逆紹介チェック

文責 廣田憲二

2008年1月～12月 科別紹介数、連携室経由患者数(年間)

科別	紹介患者数 (救急車搬入患者含む)	連携室経由患者数
循環器内科・神経内科	498	289
消化器内科	526	503
総合内科	481	206
血液・化学療法内科	152	95
神経科・精神科	124	59
小児科	198	124
外科	302	196
乳腺外科(H20.10より)	84	69
整形外科	344	217
皮膚科	496	356
泌尿器科	330	166
産婦人科	880	476
眼科	280	222
耳鼻咽喉科	348	189
放射線科	1071	1105
麻酔科	31	18
歯科・口腔外科(H20.3まで)	50	19
合計	6195	4309



2008年日生病院業績集

(2008年1月～2008年12月)

論文発表

循環器内科・神経内科

1. 永田大樹, 中島大成, 長谷川浩司, 中川厚, 児島成之, 浅野彰彦, 藤丸泰一, 長澤浩造, 松本茂一, 岩澤賢, 安部久志, 三谷尚, 濱田偉文: 冠動脈疾患の評価に際しての16列Multidetector CT (MDCT) の有用性. 日生医誌, 36: 9-13, 2008.
2. 村西寛実, 中川厚, 永田大樹, 中島大成, 長谷川浩司, 児島成之, 浅野彰彦, 濱田偉文: 糖尿病合併の虚血性心疾患に対するPCI治療の初期および中期成績. 日生医誌, 36: 24-31, 2008.
3. 前田悠一, 中川厚, 永田大樹, 中島大成, 長谷川浩司, 児島成之, 浅野彰彦, 濱田偉文, 大嶋正人, 三木俊治: 剖検により診断された多発性骨髄腫の1症例. 日生医誌, 36: 64-69, 2008.
4. 永田大樹, 中川厚, 長谷川浩司, 宮崎憲彦, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文: シロスタゾールが奏効した洞不全症候群の1例. 日生医誌, 36: 167-171, 2008.
5. 夏山順子, 中島大成, 永田大樹, 長谷川浩司, 宮崎憲彦, 中川厚, 仁科拓也, 児島成之, 浅野彰彦, 濱田偉文, 大嶋正人, 三木俊治: 心筋梗塞再発後に肺炎を合併し死亡したうつ病患者の1剖検例. 日生医誌, 36: 186-190, 2008.
6. 仁科拓也, 杉野正一, 佐藤智彦, 木村文治, 花房俊昭: 重症筋無力症におけるクリーゼ発現因子の検討. 神経内科, 69: 494-496, 2008.
7. IGF Res., 18: 136-142, 2008.
8. Kasayama S., Kitamura T., Inaba M., Otsuki M., Asanuma N., Kouhara H.: Painless thyroiditis occurring during postmenopausal period, following remission of Graves' disease. J. Endocrinol. Invest., 31: 92-93, 2008.
9. Maeda M., Yamamoto I., Fukuda M., Motomura T., Nishida M., Nonen S., Fujio Y., Kasayama S., Azuma J.: MTHFR gene polymorphism is susceptible to diabetic retinopathy but not to diabetic nephropathy in Japanese type 2 diabetic patients. J. Diabetes Complications, 22: 119-125, 2008.
10. Koga M., Kasayama S., Kanehara H., Bando Y.: CLD (Chronic Liver Diseases) - HbA_{1c} as a suitable indicator for estimation of mean plasma glucose in patients with chronic liver diseases. Diabetes Res. Clin. Pr., 81: 258-262, 2008.
11. Hashimoto K., Noguchi S., Morimoto Y., Hamada S., Wasada W., Imai S., Murata Y., Kasayama S., Koga M.: HbA_{1c} but not serum glycated albumin is elevated in late pregnancy owing to iron deficiency. Diabetes Care, 31: 1945-1948, 2008.
12. 笠山宗正, 浅沼伸行, 佐藤文三, 森田真也, 大月道夫: 続発性副腎皮質機能低下症患者の副腎髄質機能. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 副腎ホルモン産生異常に関する調査研究, 平成19年度総括・分担研究報告書, 105-110, 2008.
13. 笠山宗正, 森田真也, 大月道夫, 浅沼伸行, 佐藤文三: グルココルチコイド作用強度の組織特異性とその判定法の検討. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 副腎ホルモン産生異常に関する調査研究, 平成17～19年度総合研究報告書, 71-74, 2008.
14. 伊藤裕, 柳瀬敏彦, 笠山宗正, 小島元子, 大関武彦: 副腎不全に対する副腎ホルモンステロイド補充療法の現状と展望 (座談会). 日本内科学会雑誌, 97: 777-795, 2008.

総合内科

1. Fujisawa T., Ikegami H., Kasayama S., Matsuhisa M., Yamasaki Y., Miyagawa J., Funahashi T., Shimomura I.: Age-dependent difference in factors affecting choice of system for self monitoring of blood glucose. Diabetes Res. Clin. Pr., 79: 103-107, 2008.
2. Yamamoto H., Kouhara H., Iida K., Chihara K., Kasayama S.: A novel growth hormone receptor gene deletion mutation in a patient with primary growth hormone insensitivity syndrome (Laron syndrome). Growth Horm.

10. 笠山宗正：ステロイド療法とメタボリックシンドローム。臨床リウマチ（日本臨床リウマチ学会雑誌），20：278-283，2008。
11. 笠山宗正：合成グルココルチコイド。日本臨床，66：119-124，2008。
12. 笠山宗正：糖代謝関連ホルモンの作用と代謝調節 その他の調節因子 成長ホルモン。日本臨床，66(suppl 3)：258-263，2008。
13. 浅沼伸行，笠山宗正：肥満と成人成長ホルモン分泌不全症。総合臨床，57：477-481，2008。
14. 藤原弘士：リウマチ診療の病診連携。総合臨床，57：2903-2907，2008。
15. 笠山宗正：Topics：PPAR α -最近の知見-：PPAR α 作動薬の多様な作用。フィブラート Update，71-73，フジメディカル出版，2008。
16. 笠山宗正：ステロイド療法2007。リウマチ病セミナー XIX，永井書店，175-181，2008。
17. 笠山宗正：成長ホルモンとメタボリックシンドローム。日生医誌，36：1-8，2008。
18. 内藤 絢，浅沼伸行，三木俊治，濱野芳匡，藤原弘士，笠山宗正，大嶋正人：大腸癌穿孔を起こした1剖検例。日生医誌，36：70-73，2008。
19. 新井幸子，水口洋一，浅野彰彦，井上恵子，浅沼伸行，泉由紀子，三木俊治，佐藤文三，笠山宗正：「足チェックシート」を使用した糖尿病多発神経障害の実態調査-当院外来糖尿病患者249名での検討-。日生医誌，36：118-124，2008。
20. 阿部恭子，角南ちえ子，井上恵子，川瀬俊子，高山由美子，片岡宏一郎，廣田将史，大原裕子，新井幸子，小津貞二，野村浩英，乾有希子，土江恵美，泉由紀子，住谷哲，佐藤文三，笠山宗正：糖尿病患者の糖尿病教室への参加が血糖コントロールに与える影響。日生医誌，36：125-129，2008。
21. 片岡宏一郎，小倉敬子，麦田盛穂，廣田将史，喜多彬光，笠山宗正，稲岡正裕：糖尿病患者の運動習慣と身体能力に関する検討。日生医誌，36：130-134，2008。
22. 田渕優希子，前田悠一，濱野芳匡，浅沼伸行，藤原弘士，三木俊治，笠山宗正，中田 渡，黒田昌男，田邊修一，金田宏和，大嶋正人：甲状腺内副甲状腺腫による原発性副甲状腺機能亢進症の1例。日生医誌，36：162-166，2008。

血液・化学療法内科

1. 中川雅史：新・がん医学入門 3 がんをどう治すか II B がんを薬で殺す，中山書店，p108-129，2008。
2. 馬場希一郎，長谷井仁美，立川豊吏，中川雅史：テロイド単独治療により奏効を認めた血管免疫芽球型T細胞リンパ腫の1例。日生医誌，36：172-175，2008。

神経科精神科

1. 岩瀬真生，岡嶋詳二，高橋 励，最上多美子，日下菜穂子，倉恒弘彦，志水 彰，武田雅俊：慢性疲労患者にたいする精神科的治療。治療，90：495-501，2008。

整形外科

1. 和倉隆造，表 一岐，宮崎忠勝，稲岡正裕：生活習慣病は職場の腰痛の危険因子？～腰痛検診と健康検診の統合調査から～。日生医誌，36：32-35，2008。
2. 辻 成佳，稲岡正裕，東山真理，大嶋正人，三谷 尚，冨田哲也，吉川秀樹：エトレチナート長期投与後に両股関節の架橋性骨化を生じた乾癬性紅皮症の1例。臨床雑誌，整形外科，59：263-267，2008。

リハビリテーション室

1. 片岡宏一郎，小倉敬子，麦田盛穂，廣田将史，喜多彬光，笠山宗正，稲岡正裕：糖尿病患者の運動習慣と身体能力に関する検討。日生医誌，36：130-134，2008。

皮膚科

1. 糸井沙織，佐藤彩子，横見明典，東山真里，他：ステロイド局注が疼痛に奏功したSclerosing Panniculitisの1例。日生医誌，36：42-47，2008。
2. 糸井沙織，佐藤彩子，横見明典，東山真里，他：ノルウェー疥癬の1例。日生医誌，36：176-181，2008。

産婦人科

1. 廣田孝子，川崎泉，廣田憲二：高齢者の肥満，痩せと老年疾患との関係。老年医学，46：479-486，2008。

2. 廣田憲二：月経不順と生理痛. 笑顔, 10:27, 2008.
3. 松岡智史, 久 裕, 松岡左希子, 久 毅, 大塚博文, 横井 猛, 佐伯典厚, 廣田憲二, 船渡孝郎：腹腔鏡で診断, 治療した腹膜妊娠の1症例. 日生医誌, 36:56-58, 2008.
4. 横井 猛, 久 裕, 松岡智史, 松岡左希子, 久毅, 大塚博文, 佐伯典厚, 廣田憲二, 船渡孝郎：当科における子宮筋腫の内視鏡下手術の現況. 日生医誌, 36:14-17, 2008.
5. 佐伯典厚, 久 裕, 松岡智史, 大塚博文, 横井猛, 久 毅, 橋本奈美子, 廣田憲二, 船渡孝郎, 玉井 裕, 真鍋 渉, 奥野聡子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子：当科での腹腔鏡下手術におけるバソプレシンの使用状況について. 日生医誌, 36:113-117, 2008.
6. 奥野聡子, 平山果与子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子, 横井 猛, 佐伯典厚, 船渡孝郎：術後悪心・嘔吐 (PONV) に対する六君子湯による予防的治療. 麻酔, 57:1502-1509, 2008.
7. 廣田憲二：健康診断. 更年期医療ハンドブック, 日本更年期医学会, 金原出版株式会社, pp.211-215, 2008.
8. 船渡孝郎：腹腔鏡下手術中の機器損傷. 倉智博久編, 産婦人科手術・処置とトラブル対処法, 医学書院, pp.145-147, 2008.
9. 船渡孝郎, 佐伯典厚：弛緩出血の対応. 倉智博久編, 産婦人科手術・処置とトラブル対処法, 医学書院, pp.297-299, 2008.

放射線科

1. Jin Iwazawa, Masao Hamuro, Yukimasa Sakai, Kenji Nakamura: Successful embolization of a ruptured pancreaticoduodenal artery aneurysm associated with the median arcuate ligament syndrome. *Ind J Radiol Imaging*, 18:171-174, 2008.
2. Jin Iwazawa, Kenji Nakamura, Masao Hamuro, Mineyoshi Nango, Yukimasa Sakai, Norifumi Nishida: Systemic artery to pulmonary artery fistula associated with mitral regurgitation: successful treatment with endovascular embolization. *Cardiovasc Intervent Radiol*, 31: S99-103, 2008.

麻酔科

1. 奥野聡子, 平山果与子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子, 横井 猛, 佐伯典厚, 船渡孝郎：術後悪心・嘔吐 (PONV) に対する六君子湯による予防的治療. 麻酔, 57:1502-1509, 2008.
2. 内藤 絢, 遠藤高生, 井上潤一, 奥野聡子, 内田 整, 川原玲子：レミフェンタニルを用いた全身麻酔の術後痛とシバリング. 麻酔, 58:77-80, 2009.
3. 北島麻衣, 平山果与子, 奥野聡子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子：婦人科腹腔鏡手術の麻酔導入時の気管支痙攣に対して適切に対処しえた1例. 日生医誌, 36:59-63, 2008.
4. 山本亜也, 平山果与子, 奥野聡子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子：重症呼吸器疾患を伴った患者の麻酔管理. 日生医誌, 36:52-55, 2008.
5. 竹本雅子, 奥野聡子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子：甲状腺機能亢進症患者の手術に対してレミフェンタニルを用いて適切に麻酔管理しえた1例. 日生医誌, 36:153-156, 2008.
6. 沢村 梢, 井上潤一, 奥野聡子, 山崎恭子, 川原玲子：フルニエ壊疽を発症し緊急手術と嚴重な周術期管理により救命しえた1例. 日生医誌, 36:157-161, 2008.
7. 佐伯典厚, 久 裕, 松岡智史, 大塚博文, 横井 猛, 久 毅, 橋本奈美子, 廣田憲二, 船渡孝郎, 玉井 裕, 真鍋 渉, 奥野聡子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子：当科での腹腔鏡手術におけるバソプレシンの使用状況について. 日生医誌, 36:113-117, 2008.
8. 小山佐知子, 井上潤一, 高橋 励, 立川豊吏, 畠山明子, 大林佳名子, 丸山加奈, 川原玲子：日生病院緩和ケアチーム立ち上げから今後の課題まで. 日生医誌, 36:135-139, 2008.

健康管理科

1. Alsheich-Bartok O., Haupt S., Alkalay-Snir I., Saito S., Appella E. and Haupt Y.: PML enhances the regulation of p53 by CK1 in response to DNA damage. *Oncogene*, 27:3653-3661, 2008.

病理部

1. 大嶋正人, 吉川幸伸, 湯川雅彦, 黄 泰平, 福田昌輝, 濱中雄幸, 安政啓吾, 田中恒幸, 村本

理, 関 保道: 日生病院胃癌症例の病理組織学的検討. 日生医誌, 36:18-23, 2008.

2. 大嶋正人, 藤川正博, 宮田俊男, 黄 泰平, 安政啓吾, 田中恒幸: 乳腺紡錘細胞癌の1手術症例. 日生医誌, 36:147-152, 2008.

中央臨床検査部

1. 坂口伊津子, 金田宏和, 浅野彰彦: 年齢層別の純音聴力検査成績について-加齢変化と正常参考値設定の試み-. 日生医誌, 36:140-146, 2008.
2. 新井幸子, 水口洋一, 浅野彰彦, 井上恵子, 浅沼伸行, 泉由紀子, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 「足チェックシート」を使用した糖尿病多発神経障害の実態調査-当院外来糖尿病患者249名での検討-. 日生医誌, 36:118-124, 2008.

臨床研修部

1. 前田悠一, 中川厚, 永田大樹, 中島大成, 長谷川浩司, 児島成之, 浅野彰彦, 濱田偉文, 大嶋正人, 三木俊治: 剖検により診断された多発性骨髄腫の1症例. 日生医誌, 36:64-69, 2008.
2. 内藤 絢, 浅沼伸行, 三木俊治, 濱野芳匡, 藤原弘士, 笠山宗正, 大嶋正人: 大腸癌穿孔を起こした1剖検例. 日生医誌, 36:70-73, 2008.
3. 沢村 梢, 福田昌輝, 村本理, 関 保道, 湯川雅彦, 大嶋正人, 三木俊治: 腸間膜静脈瘤の破裂により腹腔内出血をきたしたC型肝炎後性肝硬変の1剖検例. 日生医誌, 36:182-185, 2008.
4. 夏山順子, 中島大成, 永田大樹, 長谷川浩司, 宮崎憲彦, 中川 厚, 仁科拓也, 児島成之, 浅野彰彦, 濱田偉文, 大嶋正人, 三木俊治: 心筋梗塞再発後に肺炎を合併し死亡したうつ病患者の1剖検例. 日生医誌, 36:186-190, 2008.

診療情報管理室

1. 島田裕子, 小坂清美, 近畿病歴管理セミナークリニカルパス調査プロジェクト: 閉鎖性大腿骨頸部骨折手術ありでクリニカルパスを用いた診療情報の施設間比較, 診療録管理, 20(1):51-55, 2008.
2. 喜多田祐子, 小坂清美, 近畿病歴管理セミナークリニカルパス調査プロジェクト: 乳がん手術ありでクリニカルパスを用いた症例に関する診

療情報の施設間比較, 診療録管理, 20(1):56-60, 2008.

学会・研究会発表

循環器内科・神経内科

1. 永田大樹, 中島大成, 長谷川浩司, 中川 厚, 児島成之, 浅野彰彦, 濱田偉文: 当院で経験した下大静脈フィルター閉塞例の2例. 第35回北摂臨床懇話会, 2月, 2008, 大阪.
2. 永田大樹, 中島大成, 長谷川浩司, 中川 厚, 児島成之, 浅野彰彦, 濱田偉文: 血栓吸引および経カテーテル的血栓溶解療法が奏功した深部静脈血栓症の1例. 第13回心血管インターベンション学会, 近畿地方会, 2月, 2008, 京都.
3. 仁科拓也, 田上宗芳: 悪性腫瘍に伴う脳血管障害の背景因子と治療因子の検討. 第105回日本内科学会総会, 4月, 2008, 東京.
4. 児島成之: KCJL Arrhythmia 部門コメンテーター. 近畿心血管治療ジョイントライブ, 4月, 2008, 京都.
5. 中川 厚: Basic Coronary Intervention Club Live demonstration 部門コメンテーター. 近畿心血管治療ジョイントライブ, 4月, 2008, 京都.
6. 中川 厚: 京都ライブ Peripheral 部門コメンテーター. 近畿心血管治療ジョイントライブ, 4月, 2008, 京都.
7. 児島成之: アブレーション ライブオペレーター. 第1回 京都北部PCIライブデモンストラーション, 5月, 2008, 舞鶴.
8. 永田大樹, 中島大成, 長谷川浩司, 中川 厚, 児島成之, 浅野彰彦, 濱田偉文: 下大静脈フィルター留置後にフィルター閉塞をきたした2例の検討. 第185回内科学会近畿地方会, 6月, 2008, 大阪.
9. 夏山順子, 中島大成, 長谷川浩司, 中川 厚, 浅野彰彦, 濱田偉文: アスピリンによると思われる十二指腸潰瘍からの出血により死亡した1例. 第36回北摂臨床懇話会, 7月, 2008, 大阪.
10. 中川 厚: 血管治療に対する新たなEBM-アクトスのエビデンスを臨床にどう生かすか-. OMCⅢカンファレンス, 8月, 2008, 大阪.
11. 中川 厚: 当院でのロサルタン/ヒドロクロロチアジド合剤の使用経験. 大阪高血圧研究会, 8月 2008, 大阪.

12. 長谷川浩司：当院で経験したこつば型心筋症。ニッセイクリニカルカンファレンス，9月，2008，大阪。
13. 中川厚：循環器医からみた糖尿病へのアプローチ。大阪糖尿病アカデミー，10月，2008，大阪。
14. 永田大樹：シロスタゾールが奏効した洞不全症候群の一例。第23回長如会，10月，2008，高槻。
15. 宮崎憲彦：胸痛とどう向き合うか－その鑑別法－コメンテーター。大阪市西区懇話会，11月，2008，大阪。

消化器内科

1. 大森好華，吉田有里，関 保道，福田昌輝，村本 理，湯川雅彦：消化管出血で発症した脾動脈瘤破裂の1例。第89回日本消化器病学会近畿支部例会，9月，2008，大阪。
2. 関 保道：化学療法が奏功した膵臓癌の1例。病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス，9月，2008，大阪。
3. 関 保道：内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の偶発症と対策。病診連携第3回日生病院消化器内科・外科合同カンファレンス，11月，2008，大阪。

総合内科

1. 藤原弘士：関節リウマチの日常診療。東医師会学術講演会，1月，2008，大阪。
2. 内藤 絢，浅沼伸行，濱野芳匡，藤原弘士，三木俊治，笠山宗正，佐藤文三，有田憲生：甲状腺サルコイドーシスに下垂体機能低下症を合併した一例。第6回関西間脳下垂体研究会，2月，2008，大阪。
3. 笠山宗正：2型糖尿病患者の脈波伝搬速度・酸化ストレス指標に対するオルメサルタンの効果－第2報－。「糖尿病と高血圧」学術講演会，2月，2008，大阪。
4. 濱野芳匡，藤原弘士，前田悠一，浅沼伸行，三木俊治，末村正樹，田中敏郎，笠山宗正：皮膚筋炎，間質性肺炎治療中に，縦隔気腫と腸管嚢状気腫を合併した一例。第38回O. I. D. Conference，3月，2008，大阪。
5. 藤原弘士，西本憲弘，濱野芳匡，末村正樹：臨床症状の乏しい肺炎を併発したトシリズマブ投与中のRAの2症例。第52回日本リウマチ学会総会・学術集会（ワークショップ），4月，2008，

札幌。

6. 西本憲弘，美馬 亨，田中良哉，齋藤和義，岩田 慈，福興俊介，住田孝之，伊藤 聡，佐伯行彦，大嶋至郎，佐伯 修，宇田裕史，蓑田清次，岩本雅弘，藤原弘士，都留智巳，赤星 透，遠藤平仁：TNF阻害治療で効果不十分の関節リウマチ患者に対するトシリズマブの有効性の検討。第52回日本リウマチ学会総会・学術集会（ワークショップ），4月，2008，札幌。
7. 濱野芳匡，北島麻衣，廣畑俊成，末村正樹，藤原弘士：除皮質硬直を主徴とする中枢神経病変を呈した重症SLEの一例。第52回日本リウマチ学会，4月，2008，札幌。
8. 笠山宗正：メタボリックシンドローム－捉え方と御し方。第3回藤井寺糖尿病スタッフ勉強会，4月，2008，藤井寺。
9. 笠山宗正：糖尿病神経障害診療のコツ。近畿大学臨床研修センター講演会，4月，2008，大阪狭山。
10. 浅沼伸行，濱野芳匡，藤原弘士，三木俊治，末村正樹，笠山宗正，佐藤文三，大嶋正人，小西登：高PTHrP血症，高カルシウム血症を呈した肺小細胞癌の一例。第81回日本内分泌学会学術総会，5月，2008，青森。
11. 森本靖彦，橋本久仁彦，濱田真一，早田憲司，笠山宗正，古賀正史：妊娠末期では鉄欠乏状態のためHbA_{1c}が高値となる。第51回日本糖尿病学会年次学術集会，5月，2008，東京。
12. 斎藤 博，古賀正史，向井幹夫，大月道夫，笠山宗正：喫煙の血清グリコアルブミンに対する影響。第51回日本糖尿病学会年次学術集会，5月，2008，東京。
13. 古賀正史，斎藤 博，向井幹夫，笠山宗正：飲酒習慣のないALT高値例の血清グリコアルブミンは低値を示す。第51回日本糖尿病学会年次学術集会，5月，2008，東京。
14. 新井幸子，浅沼伸行，泉由紀子，住谷 哲，三木俊治，佐藤文三，笠山宗正：糖尿病患者のアキレス腱反射異常と振動覚異常に関連する因子の解析。第51回日本糖尿病学会年次学術集会，5月，2008，東京。
15. 笠山宗正，大月道夫，浅沼伸行，森田真也，岡本真紀，鳥居佳代，福里陽子，牧野武利，田中宗雄，零石 聡：糖尿病患者における動脈硬化症と歯周病の関連。第51回日本糖尿病学会年次

- 学術集会, 5月, 2008, 東京.
16. 角南ちえ子, 井上恵子, 阿部恭子, 川瀬俊子, 高山由美子, 浅沼伸行, 泉由紀子, 住谷 哲, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 総合病院受診患者の糖尿病に関する認識度調査, 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2008, 東京.
 17. 松本素江子, 古賀正史, 斎藤 博, 笠山宗正: 甲状腺ホルモンが血清グリコアルブミン値に及ぼす影響. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2008, 東京.
 18. 向井幹夫, 斎藤 博, 松本素江子, 笠山宗正, 古賀正史: 閉経前女性における特定健診のHbA_{1c}基準値の妥当性-鉄欠乏状態のHbA_{1c}値に対する関与-第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2008, 東京.
 19. 森田真也, 岡本真紀, 大月道夫, 笠山宗正, 斎藤 博, 向井幹夫, 古賀正史: 尿pHと耐糖能異常の関連. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2008, 東京.
 20. 片岡宏一郎, 小野山敬子, 麦田盛穂, 西田和弘, 廣田将史, 笠山宗正: 糖尿病患者の転倒に関するリスクの検討: 下肢筋力・重心動揺・柔軟性の観点から. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2008, 東京.
 21. 藤原弘士: 関節リウマチの薬物治療~寛解をめざして~. 大阪市港区・大正区医師会学術講演会, 5月, 2008, 大阪.
 22. 前田悠一, 藤原弘士, 濱野芳匡, 浅沼伸行, 三木俊治, 笠山宗正, 末村正樹, 西本憲弘: メトトレキサート, インフリキシマブ無効の症例にトシリズマブが有効であった関節リウマチの1例. 第185回日本内科学会近畿地方会例会, 6月, 2008, 大阪.
 23. 宮武明彦, 種村麻里, 藤田きみゑ, 中野直子, 大月道夫, 笠山宗正: HFA-ciclesonide吸入中止例の考察. 第20回日本アレルギー学会春季臨床大会 (ミニシンポジウム: 喘息コントロール不良の要因), 6月, 2008, 東京.
 24. 前田恵治, 藤原弘士, 中原英子, 安藤麻衣子, 森島敦仁, 栗谷太郎, 五十嵐敢: インドシアニングリーン (ICG) とヨード造影剤の交差反応性の認知度 (アンケート調査). 第20回日本アレルギー学会春季臨床大会 (ミニシンポジウム: 喘息コントロール不良の要因), 6月, 2008, 東京.
 25. 濱野芳匡, 藤原弘士, 末村正樹, 田中敏郎, 笠山宗正: 皮膚筋炎, 間質性肺炎治療中に, 縦隔気腫と腸管囊状気腫を合併した一例. 第20回日本アレルギー学会春季臨床大会, 6月, 2008, 東京.
 26. 大月道夫, 岡本真紀, 森田真也, 藤田きみゑ, 宮武明彦, 笠山宗正: 吸入ステロイド薬治療中喘息患者の骨および当脂質代謝に及ぼすラロキシフェンの作用. 第16回大阪骨代謝研究会, 6月, 2008, 大阪.
 27. 笠山宗正: 明日から行うインスリン療法-基礎補償の重要性-. ランタスセミナー, 6月, 2008, 大阪.
 28. 片岡宏一郎, 廣田将史, 小野山敬子, 麦田盛穂, 喜多彬光, 住谷 哲, 笠山宗正: 糖尿病患者の下肢筋力・重心動揺・柔軟性に関する検討. 大阪ベイサイド糖尿病ケアセミナー, 6月, 2008, 大阪.
 29. 笠山宗正: 毎日, いきいき生きるために~大切な下垂体ホルモンの話~. 市民公開講座: 生き生きライフ講座, 6月, 2008, 大阪.
 30. 笠山宗正: 成人成長ホルモン分泌不全症とメタボリックシンドロームの気になる関係. 下垂体セミナー: 成人成長ホルモン分泌不全症~外科的・内科的治療の実際~, 6月, 2008, 大阪.
 31. 笠山宗正: 成人成長ホルモン分泌不全症-多様性と診療のコツ-. 第2回神奈川Adult-GHD講演会, 7月, 2008, 横浜.
 32. 田淵優希子, 前田悠一, 濱野芳匡, 浅沼伸行, 藤原弘士, 三木俊治, 笠山宗正, 中田 渡, 田邊修一: 甲状腺内に副甲状腺腺腫を認めた原発性副甲状腺機能亢進症の一例. 第7回大阪骨疾患治療研究会, 7月, 2008, 大阪.
 33. 濱野芳匡, 前田悠一, 田淵優希子, 浅沼伸行, 藤原弘士, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 出産後に甲状腺中毒症と自己免疫性下垂体炎を発症した1例. 第2回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス (OEMCC), 7月, 2008, 大阪.
 34. 橋本久仁彦, 森本靖彦, 古賀正史, 笠山宗正: 妊娠中の血糖コントロール指標について: 妊娠末期では鉄欠乏状態によりHbA_{1c}が高値となる. 第2回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス (OEMCC), 7月, 2008, 大阪.
 35. 大月道夫, 森田真也, 岡本真紀, 斎藤博, 向井

- 幹夫, 笠山宗正, 古賀正史: 尿酸性化が内臓肥満およびメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす影響. 高尿酸血症・メタボリックシンドロームリサーチフォーラム 第四回研究集会, 7月, 2008, 大阪.
36. 藤原弘士: 最新のリウマチ診療. 医療連携懇話会〜リウマチ治療における医療連携を考える〜, 8月, 2008, 大阪.
37. 住谷 哲, 新井幸子, 笠山宗正: アキレス腱反射異常と振動覚異常に関連する因子の解析. 第14回糖尿病性神経障害を考える会, 8月, 2008, 東京.
38. 笠山宗正: ステロイド療法の現状と将来展望. 第18回日本リウマチ学会近畿支部学術集会 (シンポジウム: ステロイドに関連する諸問題-内科学的アプローチ), 9月, 2008, 大阪.
39. 古賀正史, 斎藤博, 向井幹夫, 森田真也, 岡本真紀, 大月道夫, 笠山宗正: 体液酸性化は耐糖能を低下させる. 第49回人間ドック学会学術大会, 9月, 2008, 徳島.
40. 藤原弘士: 寛解治癒を目指した関節リウマチ治療. 病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス, 9月, 2008, 大阪.
41. 笠山宗正: 甲状腺機能異常症の診療のエッセンス. 病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス, 9月, 2008, 大阪.
42. 笠山宗正: 成長ホルモンと心血管疾患の気になる関係. ニッセイ医学セミナーUpdate, 9月, 2008, 大阪.
43. 古賀正史, 村井 潤, 斎藤 博, 向井幹夫, 笠山宗正: 飲酒による動脈硬化促進に対するIGF-Iの関与. 第42回兵庫内分泌研究会, 9月, 2008, 神戸.
44. Shimoda T., Imaoka M., Kishikawa R., Shoji S., Nishima S., Obase Y., Miyatake A. and Kasayama S.: Serum high sensitivity C-reactive protein can distinguish cough-variant and bronchial asthma. European Respiratory Society Annual Congress 2008, 10月, 2008, ドイツ ベルリン.
45. Fujita K., Kasayama S., Otsuki M., Tanemura M. and Miyatake A.: Reduced bone density in inhaled corticosteroids-treated asthmatic patients showing decreased cortisol response to low-dose ACTH test. European Respiratory Society Annual Congress 2008, 10月, 2008, ドイツ ベルリン.
46. 前田悠一, 濱野芳匡, 田淵優希子, 浅沼伸行, 藤原弘士, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 元村卓嗣: 全身倦怠と低ナトリウム血症が寛解・再燃したACTH単独欠損症の一例. 第9回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 10月, 2008, 高槻.
47. 村井 潤, 古賀正史, 斎藤 博, 笠山宗正, 今川彰久, 花房俊昭: 劇症1型糖尿病患者のグリコアルブミン (GA) -HbA_{1c}比は2型糖尿病に比し高値である. 第9回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 10月, 2008, 高槻.
48. 古賀正史, 笠山宗正, 金原秀雄, 番度行弘: 慢性肝疾患のコントロール指標としてのCLD (chronic liver disease) -HbA_{1c}. グリコアルブミン討論会, 10月, 2008, 東京.
49. 橋本久仁彦, 森本靖彦, 笠山宗正, 古賀正史: 妊娠中の血糖コントロール指標: グリコアルブミンの有用性. グリコアルブミン討論会, 10月, 2008, 東京.
50. 笠山宗正, 大月道夫, 斎藤 博, 向井幹夫, 松本素江子, 古賀正史: グリコアルブミン値に及ぼす肥満・喫煙の影響-慢性炎症の関与-. グリコアルブミン討論会, 10月, 2008, 東京.
51. 笠山宗正: 糖尿病患者の血糖コントロールをあきらめない. 大阪糖尿病アカデミー, 10月, 2008, 大阪.
52. 佐々成太郎, 住谷 哲, 浅沼伸行, 田淵優希子, 濱野芳匡, 藤原弘士, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 森内秀祐: FDG-PET検診が診断の契機となったGH産生下垂体腺腫の一例. 第4回アクロメガリーフォーラム, 10月, 2008, 大阪.
53. 宮川 康, 辻村 晃, 山本圭介, 福原慎一郎, 中山治郎, 植田知博, 高尾徹也, 大月道夫, 森田真也, 白井 健, 笠山宗正, 天野俊康, 奥山明彦: 無精子症を契機に診断された先天性副腎過形成兄弟例の治療経験. 第58回日本泌尿器科学会中部総会, 11月, 2008, 大津.
54. 阿部恭子, 角南ちえ子, 井上恵子, 川瀬俊子, 高山由美子, 泉由紀子, 住谷 哲, 佐藤文三, 笠山宗正: 糖尿病教室への参加が患者の血糖管理に与える影響. 第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸.
55. 角南ちえ子, 阿部恭子, 井上恵子, 新井幸子,

- 笠山宗正：小型呼気ガス分析装置 (MedGem) による安静時代謝量測定に関する検討。第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸。
56. 古賀正史, 村井潤, 斎藤博, 笠山宗正：高HbF血症がHbA_{1c}測定に及ぼす影響－自験例の高HbF血症2例を用いた検討－。第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸。
57. 松本素江子, 村井潤, 斎藤博, 古賀正史, 笠山宗正：鉄欠乏性貧血合併糖尿病患者の血糖コントロール指標：HbA_{1c}とGAのどちらが有用か？第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸。
58. 村井潤, 斎藤博, 古賀正史, 笠山宗正, 小川啓恭：種々の血液疾患がHbA_{1c}測定に及ぼす影響。第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸。
59. 新井幸子, 井上恵子, 浅沼伸行, 泉由紀子, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正：糖尿病多発神経障害の1年間の進行に関連する因子の解析。第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸。
60. 大月道夫, 笠山宗正, 森田真也, 下村伊一郎：グリメピリドで長期間血糖コントロールが維持できた2型糖尿病患者の臨床的特徴。第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸。
61. 田淵優希子, 濱野芳匡, 浅沼伸行, 藤原弘士, 三木俊治, 笠山宗正：ブドウ糖毒性解除のためのインスリン治療開始薬としてのグラルギンの使用経験。第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸。
62. 片岡宏一郎, 廣田将史, 小野山敬子, 麦田盛穂, 喜多彬光, 田淵優希子, 濱野芳匡, 浅沼伸行, 三木俊治, 笠山宗正：糖尿病神経障害と下肢筋力・重心動揺の関連について。第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸。
63. 廣田将史, 片岡宏一郎, 小野山敬子, 麦田盛穂, 喜多彬光, 住谷哲, 笠山宗正：糖尿病患者の下肢筋力・柔軟性・重心動揺に対する運動療法の効果。第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸。
64. 田淵優希子, 前田悠一, 濱野芳匡, 浅沼伸行, 藤原弘士, 三木俊治, 笠山宗正, 中田渡, 田邊修一, 大嶋正人：甲状腺内副甲状腺腫による原発性甲状腺機能亢進症の一例。第187回日本内科学会近畿支部地方会, 11月, 2008, 京都。
65. 下田照文, 今岡通敏, 岸川禮子, 西岡三馨, 宮武明彦, 笠山宗正：気管支喘息と咳喘息の鑑別における呼気一酸化窒素濃度と血清高感度CRPのカットオフ値に関する比較検討。第58回日本アレルギー学会秋季学術大会, 11月, 2008, 東京。
66. 宮武明彦, 種村麻里, 藤田きみゑ, 中野直子, 大月道夫, 笠山宗正：HFA-BDPとHFA-CICの使用喘息症例の中止理由の比較検討。第58回日本アレルギー学会秋季学術大会, 11月, 2008, 東京。
67. 橋本久仁彦, 森本靖彦, 濱田真一, 早田憲司, 笠山宗正, 古賀正史：妊娠末期のHbA_{1c}上昇における鉄欠乏状態の関与。第24回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 11月, 2008, 高崎。
68. 古賀正史, 橋本久仁彦, 森本靖彦, 笠山宗正：妊娠中の血糖コントロール指標としてのHbA_{1c}の落とし穴。第7回兵庫生活習慣病懇話会, 11月, 2008, 神戸。
69. 古賀正史, 橋本久仁彦, 森本靖彦, 笠山宗正：妊娠中の血糖コントロールマーカーとしてのHbA_{1c}の問題点。第8回伊丹糖尿病フォーラム, 11月, 2008, 伊丹。
70. 笠山宗正：経口糖尿病治療薬の使い方。第11回池田糖尿病勉強会, 11月, 2008, 豊中。
71. 笠山宗正：糖尿病診療におけるインスリン療法の位置づけ。Insulin Lecture Meeting, 11月, 2008, 大阪。
72. 古賀正史, 村井潤, 斎藤博, 向井幹夫, 笠山宗正：飲酒習慣が血清IGF-Iに及ぼす影響と動脈硬化の関連。第23回兵庫下垂体疾患症例検討会, 11月, 2008, 西宮。
73. 笠山宗正：糖尿病合併症診療のエッセンス。南大阪糖尿病フットケアセミナー, 11月, 2008, 大阪。
74. 笠山宗正：チームで行う糖尿病診療。病診連携学術講演会, 12月, 2008, 橿原。
75. 笠山宗正：糖尿病神経障害－診断と治療, 指導への活かし方－。大阪大学医学部附属病院看護部キャリア開発センター糖尿病療養指導Ⅶ, 12月, 2008, 吹田。
76. 笠山宗正：成長ホルモンと心血管疾患の気になる関係。糖尿病・内分泌セミナー, 12月, 2008, 福井。

血液・化学療法内科

1. 林 美沙, 長谷井仁美, 立川豊吏, 中川雅史: 悪性リンパ腫治療後に不明熱を呈した1症例. 第36回北摂血液疾患談話会, 5月, 2008, 大阪.
2. 長谷井仁美, 立川豊吏, 中川雅史: FDG-PETがfalse positiveを呈したT-cell/histiocyte-rich B cell lymphoma. 第70回日本血液学会総会, 10月, 2008, 京都.
3. 夏山順子: Follicular lymphoma症例に対しrituximab投与により誘発されたと考えられる脂肪織炎, 好中球性皮膚症の1例. 第187回内科学会近畿地方会, 11月, 2008, 京都.

神経科精神科

1. 江川 功: うつ病の病態と治療, 第1回 セファロ・ニューロ・サイコロウマトロジー研究会, 12月, 2008, 大阪.
2. 高橋 励: SSRIへの非定型抗精神病薬の付加投与により身体的強迫症状・常同行為が改善した2症例. 第4回大阪中央精神科症例検討会, 1月, 2008, 大阪.
3. 高橋 励: 塩酸ペロスピロンとクエン酸タンドスピロンの併用投与により錐体外路症状に著明な改善がみられた統合失調症の1例. 第5回大阪中央精神科症例検討会, 7月, 2008, 大阪.
4. 高橋 励: 職場精神衛生のリスク=マネジメント(自殺のリスク=マネジメント). 健康保険組合連合会心の健康講座, 8月, 2008, 大阪.
5. 高橋 励: 境界心理とうつ症状を前景に良好な転帰をとった1例. 第4回産業医・精神科医合同症例検討会, 10月, 2008, 大阪.

外科

1. 黄 泰平, 吉川幸伸, 安政啓吾, 濱中雄幸, 田中恒行, 宗田滋夫: ラテックスアレルギー外科医が勤務する当院の手術室管理の現況. 日本外科学会定期学術集会(108), 5月, 2008, 長崎.
2. 黄 泰平, 吉川幸伸, 安政啓吾, 濱中雄幸, 田中恒行, 宗田滋夫: 当院における80歳以上大腸癌手術症例の検討. 日本消化器外科学会総会(63), 7月, 2008, 札幌.
3. 黄 泰平, 藤川正博, 安政啓吾, 宮田俊男, 田中恒行: 手袋二重装着による薬品手洗いの省略とアレルギープロテクトグローブの試み. 日本臨床外科学会総会(70), 11月, 2008, 千代田区.

4. 安政啓吾, 吉川幸伸, 黄 泰平, 濱中雄幸, 田中恒行, 宗田滋夫: 肝細胞癌と多発肝転移を伴う横行結腸癌の同時性重複癌の1例. 日本消化器外科学会総会(63), 7月, 2008, 札幌.
5. 田中恒行, 黄 泰平, 吉川幸伸, 安政啓吾, 濱中雄幸, 宗田滋夫: 当院における再発鼠径ヘルニア手術症例の検討 herniography検査に着目して. 日本消化器外科学会総会(63), 7月, 2008, 札幌.
6. 田中恒行, 安政啓吾, 吉川幸伸, 黄 泰平, 濱中雄幸, 宗田滋夫: 魚骨による小腸穿通の1手術例. 近畿外科学会(183), 5月, 2008, 大阪.
7. 田中恒行, 吉川幸伸, 黄泰平, 安政啓吾, 濱中雄幸, 宗田滋夫: ベバシズマブによると考えられた消化管穿孔の1例. 大阪外科集談会(562), 3月, 2008, 大阪.
8. 竹本雅子, 安政啓吾, 藤川正博, 黄泰平, 宮田俊男, 田中恒行: 切除後2週間で広範な再発をきたした肉腫様肝癌の1例. 近畿外科学会(184), 12月, 2008, 奈良.

乳腺外科

1. 西田幸弘, 中谷恭子, 道清 勉, 玉井正光, 西蔦昌子, 古市欣也, 畑中智子, 奥井雅子, 山中妃富美, 杉琴さやこ, 西蔦準一: 地域連携がん診療拠点病院におけるプレストケアチームの役割. 第46回日本癌治療学会総会, 10月, 2008, 名古屋.

整形外科

1. 李 大相: 仙骨腫瘍に対する放射線治療の2例. 第110回 中部日本整形外科災害外科学会, 4月, 2008, 大津.

リハビリテーション室

1. 片岡宏一郎, 小野山敬子, 麦田盛穂, 西田和弘, 廣田将史, 笠山宗正: 糖尿病患者の転倒に関するリスクの検討ー下肢筋力・重心動揺・柔軟性の観点からー. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2008, 東京.
2. 片岡宏一郎, 廣田将史, 小野山敬子, 麦田盛穂, 喜多彬光, 住谷 哲, 笠山宗正: 糖尿病患者の下肢筋力・重心動揺・柔軟性に関する検討. 大阪ベイサイド糖尿病ケアセミナー, 6月, 2008, 大阪.

3. 片岡宏一郎, 廣田将史, 小野山敬子, 麦田盛穂, 喜多彬光, 田淵優希子, 濱野芳匡, 浅沼伸行, 三木俊治, 笠山宗正: 糖尿病神経障害と下肢筋力・重心動揺の関連について. 第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 兵庫.
4. Mugita M., Imagita H., Tsuji S., Kataoka K., Sindo H., Inaoka M.: Recovery of leg muscle strength, knee pain and walking speed after total knee arthroplasty. - Comparison between minimally invasive and conventional approach-. 10th Internatoinal Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, 8月, 2008, 千葉.
5. 廣田将史, 片岡宏一郎, 小野山敬子, 麦田盛穂, 喜多彬光, 住谷 哲, 笠山宗正: 糖尿病患者の下肢筋力・柔軟性・動揺性に対する運動療法の効果. 第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 兵庫.

皮膚科

1. 糸井沙織, 佐藤彩子, 横見明典, 東山真里: ステロイド局注が疼痛に奏功したSclerosing Panniculitisの1例. 第4回大阪大学皮膚科関連病院症例検討会, 3月, 2008, 大阪.
2. 東山真里, 糸井沙織, 佐藤彩子, 横見明典: 高齢者の自己免疫性水疱症におけるステロイドとミゾリンビン併用療法. 皮膚免疫疾患治療研究会, 3月, 2008, 大阪.
3. 佐藤彩子, 横見明典, 糸井沙織, 東山真里: 光線過敏症を伴った皮膚筋炎. 第107回日本皮膚科学会総会, 4月, 2008, 京都.
4. 横見明典, 糸井沙織, 佐藤彩子, 東山真里: Merkel細胞癌の1例. 第24回日本皮膚悪性腫瘍学会, 5月, 2008, 岐阜.
5. 横見明典, 糸井沙織, 佐藤彩子, 東山真里: B細胞リンパ腫症例に対しリツキシマブ投与により生じたと考えられる難治性下腿潰瘍. 第4回大阪大学皮膚科難治疾患検討会, 6月, 2008, 大阪.
6. 東山真里, 糸井沙織, 横見明典, 佐藤彩子: 乾癬患者における重症度とQOL障害の相関と治療による両者の変動について. 第23回日本乾癬学会, 9月, 2008, 旭川.
7. 横見明典, 糸井沙織, 佐藤彩子, 東山真里, 他: B細胞リンパ腫症例に対しリツキシマブ投

与により誘発したと考えられる脂肪織炎, 好中球性皮膚症の1例. 第59回日本皮膚科学会中部支部総会, 10月, 2008, 名古屋.

泌尿器科

1. 花房隆範, 中田 渡, 福井辰成, 黒田昌男: 同時発見三重複癌の2例. 第202回日本泌尿器科学会関西地方会, 2月, 2008, 京都.
2. 花房隆範, 中田 渡, 福井辰成, 黒田昌男: LH-RHアゴニストによるテストステロン低下の検討. 第96回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2008, 横浜.
3. 福井辰成, 中田 渡, 花房隆範, 黒田昌男: 前立腺癌に対する間欠的抗男性ホルモン療法の治療経験. 第96回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2008, 横浜.

産婦人科

1. Hisa T., Hisa Y., Matsuoka T., Otsuka H., Hashimoto N., Saeki N., Hirota K., Funato T.: Laparoscopic surgery in women with acute abdominal pain. The 11th World Congress of Endoscopic Surgery, 9月, 2008, Yokohama, Japan.
2. Hirota T., Kawasaki I., Ikeda H., Aoe T., Hirota K.: Prevention of the metabolic syndrome together with osteoporosis in young men. 30th The American Society for Bone and Mineral Research, 9月, 2008, Tront, Canada.
3. Hisa T., Hisa Y., Matsuoka T., Otsuka H., Hashimoto N., Saeki N., Hirota K., Funato T.: Total laparoscopic cystectomy versus laparoscopically-assisted extracorporeal cystectomy for ovarian endometriotic cysts. The 9th Annual Congress of Asia-Pacific Association for Gynecologic Endoscopy and Minimally Invasive Therapy, 10月, 2008, Daegu, Korea.
4. Matsuoka T., Hisa T., Hisa Y., Otsuka H., Hashimoto N., Yokoi T., Saeki N., Hirota K., Funato T.: Arrangement of Tension-free Vaginal Mesh (TVM) procedure: experience with 41 patients. The 9th Annual Congress of Asia-Pacific Association for Gynecologic Endoscopy and Minimally Invasive Therapy, 10月, 2008, Daegu, Korea.

5. Matsuoka T., Hisa T., Hisa Y., Otsuka H., Hashimoto N., Yokoi T., Saeki N., Hirota K., Funato T.: Reproductive outcome of laparoscopic assisted myomectomy (LAM) for myoma: eight years experience. The 11th world congress on controversies in obstetrics, gynecology & infertility, 11月, 2008, Paris, France.
6. 松岡智史, 佐伯典厚, 横井 猛, 久 毅, 松岡左希子, 廣田憲二, 船渡孝郎: 当科における Tension free vaginal mesh (TVM) 手術の検討. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2008, 横浜.
7. 久 毅, 松岡智史, 佐伯典厚, 横井 猛, 松岡左希子, 廣田憲二, 船渡孝郎: 当科における子宮鏡下子宮筋腫核出術についての臨床的検討. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2008, 横浜.
8. 松岡智史, 佐伯典厚, 横井 猛, 大塚博文, 久毅, 松岡左希子, 久 裕, 廣田憲二, 船渡孝郎: 当科における TVM (Tension-free Vaginal Mesh) 法における工夫. 第118回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2008, 大阪.
9. 久 毅, 佐伯典厚, 横井 猛, 大塚博文, 松岡左希子, 松岡智史, 久 裕, 廣田憲二, 船渡孝郎: 腹腔鏡下に治癒し得た卵巣膿瘍の1症例. 第118回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2008, 大阪.
10. 久 裕, 佐伯典厚, 横井 猛, 大塚博文, 久毅, 松岡左希子, 松岡智史, 廣田憲二, 船渡孝郎: 子宮頸部腫瘍手術における術前尿路 3 D-C Tによる尿管把握の有用性. 第118回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2008, 大阪.
11. 佐伯典厚, 横井 猛, 大塚博文, 久 毅, 松岡左希子, 松岡智史, 久 裕, 廣田憲二, 船渡孝郎: 筋腫分娩治療の一選択肢 (縮小子宮鏡手術にむけて). 第118回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2008, 大阪.
12. 船渡孝郎: 日生病院低侵襲医療センターについて. あわぎフォーラム, 7月, 2008, 大阪.
13. 佐伯典厚, 横井 猛, 大塚博文, 久 毅, 松岡左希子, 松岡智史, 久 裕, 廣田憲二, 船渡孝郎: 当科における LH を中心とした産科婦人科内視鏡手術教育のとりくみ. 第48回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 7・8月, 2008, 横浜.
14. 横井 猛, 佐伯典厚, 大塚博文, 久 毅, 松岡左希子, 松岡智史, 久 裕, 廣田憲二, 船渡孝郎: 当科における腹腔鏡補助下筋腫核出術の後方視的検討. 第48回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 7・8月, 2008, 横浜.
15. 久 毅, 佐伯典厚, 横井 猛, 大塚博文, 松岡左希子, 松岡智史, 久 裕, 廣田憲二, 船渡孝郎: 卵巣子宮内膜症性嚢胞に対する腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術における体内法と体外法の比較検討. 第48回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 7・8月, 2008, 横浜.
16. 佐伯典厚: 初心者が行う LH から、認定医を目指す TLH まで. 第1回婦人科疾患フォーラム, 8月, 2008, 大阪.
17. 久 毅, 久 裕, 松岡智史, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 廣田憲二, 船渡孝郎: 急性腹症に対する腹腔鏡下手術症例の検討. 第21回内視鏡外科学会総会, 9月, 2008, 横浜.
18. 大塚博文, 久 毅, 久 裕, 松岡智史, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 廣田憲二, 船渡孝郎: 視野不良な多発子宮筋腫に対して、筋腫核出後に全腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH) を完遂しえた一例. 第21回近畿内視鏡外科研究会, 9月, 2008, 大阪.
19. 久 毅, 佐伯典厚, 久 裕, 松岡智史, 松岡左希子, 大塚博文, 橋本奈美子, 廣田憲二, 船渡孝郎: 当科における急性腹症に対する腹腔鏡下手術症例の検討. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 11月, 2008, 大阪.
20. 松岡智史, 佐伯典厚, 久 裕, 久 毅, 松岡左希子, 大塚博文, 橋本奈美子, 廣田憲二, 船渡孝郎: 当科における不妊患者の腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術後の妊娠予後の検討. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 11月, 2008, 大阪.
21. 佐伯典厚, 久 裕, 松岡智史, 久 毅, 松岡左希子, 大塚博文, 橋本奈美子, 廣田憲二, 船渡孝郎, 真鍋 渉, 奥野聡子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子: 当科での腹腔鏡下手術におけるバソプレッシンの使用状況について. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 11月, 2008, 大阪.
22. 大塚博文, 佐伯典厚, 久 裕, 松岡智史, 久毅, 松岡左希子, 橋本奈美子, 廣田憲二, 船渡孝郎: 腹腔鏡下子宮筋腫核出術 (LM) に際して, ネラトンカテーテルを用いて子宮頸部を絞扼す

る手術方法について. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 11月, 2008, 大阪.

23. 久 裕, 横井 猛, 佐伯典厚, 松岡智史, 久毅, 松岡左希子, 大塚博文, 橋本奈美子, 廣田憲二, 船渡孝郎: 腫瘍研究部会テーマ: 「末期がん治療の限界とその後」, 腹水濾過濃縮再静注法を施行した卵巣癌末期患者の2例. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 11月, 2008, 大阪.

眼科

1. 杉本麗子: 緑内障確定診断-ベースラインの評価-眼圧を中心に. 第5回大阪レディースの会, 4月, 2008, 大阪.
2. 杉本麗子: 緑内障診療の進め方. 第一回名古屋緑内障クラブ, 4月, 2008, 名古屋.
3. 瀬口道秀, 杉本麗子, 湖崎 亮, 切通 彰: 全層角膜移植後の水疱性角膜症に対する角膜内皮移植術 (DSEK) の3例. 第31回日本眼科手術学会, 2月, 2008, 横浜.
4. Michihide Seguchi, Reiko Sugimoto, Ryo Kosaki, Akira Kiritoshi: Descemet stripping endothelial keratoplasty (DSEK) for treatment of bullous keratopathy after penetrating keratoplasty (PKP). 世界眼科学会WOC2008, 6月, 2008, 香港.

放射線科

1. Jin Iwazawa, Shoichi Ohue (Department of Radiology, Komatsu Hospital), Hisashi Abe, Takashi Mitani: Selective C-arm CT arteriography for transcatheter arterial chemoembolization of hepatocellular carcinoma: Initial experience. ISIR & JSIR, 5月, 2008, 軽井沢.
2. 岩澤 仁, 三谷 尚, 橋本尚子, 安部久志, 安政啓吾 (同外科), 大上庄一 (小松病院放射線科): C-arm CTにて横隔膜下膿瘍ドレナージ中に十二指腸穿通を同定できた1例. 日本IVR学会, 第24回関西地方会, 7月, 2008, 大阪.
3. Jin Iwazawa, Shoichi Ohue (Department of Radiology, Komatsu Hospital), Hisashi Abe, Naoko Hashimoto, Takashi Mitani: Selective C-arm CT arteriography for transcatheter arterial chemoembolization of hepatocellular carcinoma. CIRSE 2008 Copenhagen, 9月, 2008, Denmark.

4. 岩澤 仁, 橋本尚子, 安部久志, 三谷 尚, 中田 渡 (同泌尿器科), 大嶋正人 (同病理部), 大上庄一 (小松病院放射線科): 腎被膜に発生した悪性線維性組織球腫の1例. 第290回 日本医学放射線学会, 関西地方会, 11月, 2008, 大阪.

麻酔科

1. 川原玲子, 平山果与子, 奥野聡子, 井上潤一, 山崎恭子: トラマドールによるレミフェンタニルを用いた全身麻酔下婦人科腹腔鏡手術術後の鎮痛効果の検討. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 6月, 2008, 横浜.
2. 山本亜也, 平山果与子, 奥野聡子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子: 声帯麻痺に対する声門形成術を受けた患者における全身麻酔後抜管管理上の工夫. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 6月, 2008, 横浜.
3. 山崎恭子, 平山果与子, 奥野聡子, 井上潤一, 川原玲子: フォンダバリヌクス導入後の下肢人工関節置換術の術後鎮痛法の検討. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 6月, 2008, 横浜.
4. 真鍋 渉: 予定心臓血管手術の術中における心拍出量測定: Flotrac/Vigileo system TM VS TEE. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 6月, 2008, 横浜.
5. 真鍋 渉, 松山博之: 予定C A B G患者の心拍出量モニタリングにFlotrac/Vigileo system TMと経食道心エコーによるモニタリングは同程度に有効であった. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 6月, 2008, 横浜.
6. 奥野聡子, 平山果与子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子: 瘦身治療目的のフォスファチジルコリン局所注射後の難治性臀部痛の一例. 日本ペインクリニック学会第42回大会, 7月, 2008, 福岡.
7. 井上潤一, 平山果与子, 奥野聡子, 山崎恭子, 川原玲子: がん末期のせん妄に対する抑肝散投与の経験. 日本ペインクリニック学会第42回大会, 7月, 2008, 福岡.
8. 酒井希代子, 小山佐知子, 本家裕子, 井上潤一, 川原玲子, 黒田昌男: 在宅緩和ケアが可能となった知的障害を持つ癌末期症例の経験. 第14回日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2008, 静岡.
9. 大林佳名子, 野村浩英, 小津貞二, 畑中勝義, 平山果与子, 井上潤一, 川原玲子: 難治性疼痛

に対するトラマドール経口投与の経験. 第14回日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2008, 静岡.

10. 本家裕子, 松栄優子, 井上潤一, 川原玲子, 吉川幸伸: 医療依存度の高い終末期患者に対する在宅移行への医療ソーシャルワーカー (MSW) の関与 - 硬膜外ポート留置患者の在宅移行例での経験を通して -. 第14回日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2008, 静岡.
11. 沢村 梢, 井上潤一, 奥野聡子, 山崎恭子, 川原玲子: 縫合不全にてフルニエ壊疽を起こした患者に対し術中・術後管理した1例. 第54回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 9月, 2008, 大阪.
12. 竹本雅子, 奥野聡子, 井上潤一, 山崎恭子, 川原玲子: 甲状腺機能亢進症患者の手術に対してレミフェンタニルを用いて適切に麻酔管理しえた1例. 第54回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 9月, 2008, 大阪.
13. 川原玲子: 腹腔鏡手術の麻酔. 近畿産科麻酔懇話会, 11月, 2008, 大阪.
14. 川原玲子: 術後嘔気嘔吐 (PONV) に対する六君子湯による予防的治療 - 麻酔医としての漢方薬治療 -. 福岡医師漢方研究会7月例会, 7月, 2008, 福岡.

健康管理科

1. 住谷 哲, 齋藤伸一, 泉由紀子, 高島周志, 池原千衣子, 佐藤文三: 脳ドック受診者における無症候性脳虚血性病変はメタボリックシンドロームの有無よりも75gOGTT負荷後2時間値とより相関する. 第36回日本総合健診医学会, 1月, 2008, 神戸市.
2. 住谷 哲, 齋藤伸一, 泉由紀子, 高島周志, 池原千衣子, 佐藤文三: ドック受診者におけるメタボリック症候群の有病率及びその特徴について - 本邦基準及びIDF基準との比較 -. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2008, 東京.
3. 住谷 哲, 新井幸子, 笠山宗正: アキレス腱反射異常と振動覚異常に関連する因子の解析. 第14回糖尿病性神経障害を考える会, 8月, 2008, 東京.
4. 住谷 哲, 齋藤伸一, 泉由紀子, 高島周志, 池原千衣子, 佐藤文三: 血清尿酸値とメタボリックシンドロームとの関連について. 第49回日本

人間ドック学会学術大会, 9月, 2008, 徳島市.

5. 住谷 哲: 食後高血糖を考える - 2型糖尿病におけるカーボカウントの意義 -. 大阪糖尿病アカデミー, 10月, 2008年, 大阪市.
6. 泉由紀子, 高島周志, 住谷 哲, 齋藤伸一, 池原千衣子, 佐藤文三: 人間ドックにおける閉経前女性に対する簡略更年期指数検査 (SMI) の有用性. 第49回日本人間ドック学会学術大会, 9月, 2008, 徳島市.
7. 高島周志, 泉由紀子, 住谷 哲, 齋藤伸一, 池原千衣子, 佐藤文三: メタボリックシンドロームに合併した高血圧症の特性 - 人間ドック受診者での検討 -. 第49回日本人間ドック学会学術大会, 9月, 2008, 徳島市.
8. 高島周志: 勤労者のメタボリックシンドロームに合併した高血圧症の特性 - 人間ドック受診者での検討 -. 第5回あわぎ産業医セミナー, 4月, 2008, 大阪市.

病理部

1. Masato Ohshima, Noboru Konisi, Youichi Mizuguchi Michihisa Kakuda: A case of spindle cell carcinoma of the breast. The 15th Japan-Thailand International Cytology Workshop, 11月, 2008, 東京.

中央臨床検査部

1. 新井幸子, 井上恵子, 浅沼伸行, 泉由紀子, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 糖尿病多発神経障害の1年間の進行に関連する因子の解析. 第45回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2008, 神戸.
2. 新井幸子, 浅沼伸行, 泉由紀子, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 糖尿病患者のアキレス腱反射異常と振動覚異常に関連する因子の解析. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2008, 東京.

医療生活相談室

1. 本家裕子, 松栄優子, 井上潤一, 川原玲子, 吉川幸伸: 医療依存度の高い終末期患者に対する在宅移行への医療ソーシャルワーカー (MSW) の関与. 第13回日本緩和医療学会, 7月, 2008, 静岡.
2. 伊藤 都, 衣笠紡, 高田真世, 生嶋真子, 野中

歩, 結城みほ, 上原玲, 東秀彦, 松栄優子, 本家裕子, 笠籐晋也, 富士川浩子: 退院援助相談の実態把握～データ化を試みて～. 10月, 2008, 大阪.

診療情報管理室

1. 小坂清美: 今, 診療情報管理は, 医療に対してどのような貢献ができるのか-病院のための診療情報管理士-. 第34回診療情報管理士生涯教育研修会, 6月, 2008, 大阪.

薬剤部

1. 吉岡 亮, 平田貴宏, 池田久雄, 濱口良彦, 野村浩英, 畑中勝義: 当院におけるクロピドグレル使用の現状について. 2月, 2008, 奈良.
2. 大林佳名子 (同 薬剤部 緩和ケアチーム), 野村浩英, 小津貞二, 畑中勝義, 平山果与子 (同 麻酔科 緩和ケアチーム), 井上潤一 (同 麻酔科 緩和ケアチーム), 川原玲子 (同 麻酔科 緩和ケアチーム): 難治性疼痛に対するトラマドールの経口投与の経験. 第13回日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2008, 静岡.
3. 池田久雄, 大林佳名子, 野村 浩英, 田中恒行 (同 外科), 大野典子 (同 看護部), 吉川幸伸 (同 外科), 畑中勝義: バンコマイシンによると考えられるアナフィラキシーを呈した患者における薬剤師の関与 (薬剤管理指導の取り組み). 第18回 日本医療薬学会年会, 9月, 2008, 北海道.
4. 野村浩英, 青山利人 (市立岸和田市民病院 薬剤部), 望月千枝 (大阪府立成人病センター 薬局), 谷村紀代子 (医療法人明和病院 薬剤部), 阿南節子 (市立堺病院 薬剤部): ジェネリック抗癌剤は時期尚早なのか?: 他施設アンケート調査による問題点の検証. 第18回 日本医療薬学会年会, 9月, 2008, 北海道.
5. 濱口良彦, 池田久雄, 岡西康治 (藤井会石切生喜病院 薬局), 森本 明美 (きっこう会多根総合病院 薬剤部), 南野 充宏 (景岳会南大阪病院 薬剤部), 他: 病院職員に対する感染対策の調査-2006年度ワクチン接種を中心に-. 第18回日本医療薬学会年会, 9月, 2008, 北海道.
6. 大田美由希 (大野記念病院 薬剤部), 北村芳子 (大野記念病院 薬剤部), 濱口良彦, 池田久雄, 他: 大阪感染制御薬剤師研究会における感染対

策現状および統一マニュアルに対する意識調査. 第18回 日本医療薬学会年会, 9月, 2008, 北海道.

看護部

1. 大野典子: ケアを中断させる状況が発生した場合の看護師の手指衛生状況. 第8回日本感染看護学会学術集会, 1月, 2008, 東京.
2. 大野典子: 一連の看護ケアにおける看護師の手指衛生状況の検討. 第23回環境感染学会, 2月, 2008, 長崎.
3. 角南ちえ子, 井上恵子, 阿部恭子, 川瀬俊子, 高山由美子, 他: 総合病院受診患者の糖尿病に関する認識調査. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2008, 東京.
4. 秋田真沙子, 林加代子, 吉田麻美, 木村由美, 太井真理, 北村一美: 口腔内細菌数からみたリソグ酢による口腔ケアの検討. 第39回日本看護学会 看護総合, 7月, 2008, 金沢.
5. 草野真由美, 木村ちはる, 久井貴美子, 藤村玲奈, 依田恵美, 松葉久美, 町田恵子: 妊婦の異常時の対処行動について. 第39回日本看護学会母性看護, 7月, 2008, 秋田.
6. 酒井希代子: 在宅緩和ケアが可能となった知的障害を持つ腎がん症例. 第13回日本緩和医療学会学術集会, 7月, 2008, 静岡.
7. 山崎亜耶, 隼田直恵, 真継章子, 角南ちえ子, 前川明子: C H O P 療法患者への冷却パッドを用いた口内炎発生予防方法の検討. 第39回日本看護学会 成人看護Ⅱ, 9月, 2008, 名古屋.
8. 前場由美, 木場賀美, 高森由紀, 板倉まゆり, 梅田洋子: ゲル状温熱用具による腰痛予防の効果的な使用方法の検討. 第39回日本看護学会成人看護Ⅱ, 9月, 2008, 名古屋.
9. 望月希衣子, 酒井希代子, 古池菜々恵, 中川弥紀, 村上 梓, 岩本真澄: 終末期患者の排泄に対する希望と看護援助の実際～Jonsenの臨床倫理の4分割表による情報分析を行った2事例の報告～. 第39回日本看護学会 成人看護Ⅱ, 9月, 2008, 名古屋.
10. 阪口 愛, 中尾玉美, 浅水香里, 武村明子, 島津庸子: 転倒転落アセスメントシートの項目に対する看護師の判断基準の調査. 第39回日本看護学会 老年看護, 9月, 2008, 徳島.
11. 赤井知世, 葎谷さゆり, 佐野智美, 大川未紗子,

鈴木八枝子：整形外科手術後におけるDVT予防用具使用時の発赤発生の誘因調査．第39回日本看護学会 成人看護I，10月，2008，松山．

12. 中西三季，正野廣子，湯浅美恵子：電子カルテ導入後アンケートによる看護への効果と課題．第39回日本看護学会 看護管理，10月，2008，熊本．
13. 阿部恭子，角南ちえ子，井上恵子，川瀬俊子，高山由美子，他：血糖管理に与える糖尿病教室への参加影響．第45回日本糖尿病学会近畿地方会，11月，2008，神戸．

生活習慣病センター

1. 角南ちえ子，阿部恭子，井上恵子，新井幸子，笠山宗正：小型呼気ガス分析装置（MedGem）による安静時代謝量測定に関する検討．第45回日本糖尿病学会近畿地方会，11月，2008，神戸．
2. 笠山宗正：チームで行う糖尿病診療．病診連携学術講演会，12月，2008，橿原．
3. 角南ちえ子：生活習慣病診療に果たす看護師の役割．病診連携学術講演会，12月，2008，橿原．

第5章 諸活動

診療科別教育

部(科)名	教育・研修項目		部(科)名	教育・研修項目	
循環器内科	・新入院患者紹介 ・症例検討会 ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (週1回) (月1回) (年1回)	泌尿器科	・症例検討会 ・抄読会 ・学会予行	(週1回) (随時)
消化器内科	・症例検討会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (月1回) (年1回)	産婦人科	・症例検討会 ・抄読会 ・ケアカンファレンス・モーニングカンファレンス ・レントゲンカンファレンス ・日産科オープン医研究会	(週1回) (週1回) (週1回) (年1回)
総合内科	・症例検討会 ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・糖尿病療養指導チーム勉強会 ・糖尿病ケアカンファレンス ・内科・地域合同症例検討会 ・学会予行	(週各1回) (月1回) (月1回) (月1回) (月1回) (年1回) (随時)	眼科	・抄読会 ・外来勉強会 ・病棟勉強会 ・日生・住友病院合同勉強会	(月1回) (2~3ヶ月に1回) (年1~2回) (年2回)
血液・化学療法内科	・症例検討会 ・抄読会 ・血液標本検討会 ・内科合同カンファレンス ・外科・消化器内科・血内合同症例検討会 ・内科・地域合同症例検討会	(週2回) (週1回) (随時) (月1回) (月1回) (年1回)	耳鼻咽喉科	・術前カンファレンス ・日生病院耳鼻咽喉科勉強会	(週1回) (年1回)
神経科・精神科	・心理検査勉強会 ・症例検討会	(月1回) (随時)	放射線科	・日生病院外科カンファレンス ・放射線従事者教育訓練 ・学会、研究報告会 ・医療技能職勉強会 ・放射線機器情報研究会	(週1回) (年2回) (年4回) (年2回) (年4回)
小児科	・抄読会 ・輪読会 ・新生児勉強会 ・小児科外来勉強会	(週1回) (週1回) (年数回) (年数回)	麻酔科	・ペイン症例検討会 ・麻酔症例検討会 ・学会予行・学会報告	(週1回) (週1回) (随時)
消化器・一般外科 乳腺外科	・症例検討会 ・外科・消化器内科・血内合同症例検討会 ・外科・消化器内科・地域合同症例検討会 ・手術統計 ・死亡症例検討会 ・学会予行・学会報告 ・CPC ・NST勉強会 ・抄読会	(週1回) (月1回) (年1回) (年1回) (年1回) (随時) (随時) (随時) (随時)	病理診断科	・スライドカンファレンス ・症例検討会(抄読会) ・CPC ・日本病理学会近畿支部 学術集会	(週1回) (週1回) (月1回) (年4回)
整形外科	・抄読会 ・手術症例検討会 ・リハビリ検討会 ・整形病棟勉強会 ・日医教育実習 ・リサーチカンファ、及び学会報告会	(週1回) (週1回) (月1回) (年2~3回) (年1回) (年数回)	予防医学センター	・抄読会 ・予防医学センター勉強会 ・糖尿病療養指導チーム勉強会 ・あわぎ糖尿病ケアカンファレンス ・あわぎ産業医セミナー ・学会予行	(週1回) (月2回) (月1回) (年1回) (年1回) (随時)
リハビリ	・抄読会 ・リハビリ検討会 ・糖尿病療養指導チーム勉強会 ・NST勉強会 ・KRR勉強会	(週1回) (月1回) (月1回) (月1回) (月2回)	薬剤部	・新薬説明会 ・薬剤部研修会 ・服薬指導症例研究会 ・部内有害事象検討会	(週1回) (月1回) (月1回) (年4回)
皮膚科	・症例検討会 ・抄読会 ・3病院合同症例検討会 (日生・住友・大阪厚生年金病院) 大阪西・中部地区皮膚科症例検討会	(週1回) (月3回) (月1回) (年1回)	医療技能職	・医療技能職勉強会	(年2回)
			中央臨床検査部	・医療技能職勉強会 ・中検勉強会	(年2回) (月1~2回)
			医療生活相談室	・医療技能職勉強会 ・医療福祉施設MSW勉強会	(年2回) (月1回)
			栄養管理室	・栄養士勉強会 ・栄養管理室・ミーティング教育 ・献立勉強会	(月1回) (毎日) (月1回)
			診療情報管理室	・医学中央雑誌説明会 ・診療情報管理室勉強会	(月1回) (随時)
			医事G	・健保改正勉強会	(年1回)
			事務職	・勉強会	(2~3ヶ月 に1回)

C P C (平成20年)

01月31日：第1例：肺炎+敗血症+頰椎損傷

02月29日：第1例：肺癌+発作性心房細動

第2例：巨大肝内腫瘍

04月24日：第1例：肺癌疑い+大動脈弁狭窄症術後

第2例：細菌性肺炎+陳旧性心筋梗塞

05月23日：第1例：血球貪食症候群

第2例：悪性リンパ腫

06月26日：第1例：糖尿病+肝癌

第2例：糖尿病+敗血症

07月31日：第1例：出血性ショック+腸管悪性リンパ腫術及び化学療法後

09月04日：第1例：POEMS

09月26日：第1例：多発性骨髄腫+慢性腎不全

11月28日：第1例：肝癌+慢性C型肝炎+肺癌

「医務部集談会」(平成20年)

開催月日	テーマ	講師	
1月29日	骨盤臓器脱の低侵襲手術(TVM法)について	産婦人科	松岡 智史
3月19日	メタボリック症候群と特定健診	健康管理部	齋藤 伸一
5月21日	当科で経験した皮膚悪性腫瘍の臨床と治療	皮膚科	横見 明典
	医師初期臨床システムと当院の実態	臨床研修部	三木 俊治

「ニッセイ医学セミナーUpdate」(平成20年)

開催月日	テーマ	講師	
7月28日	・子宮内膜症のがん化とその対策	院長	寺川 直樹
8月18日	・腓膵性腫瘍の診断と治療	外科部長	藤川 正博
9月22日	・成長ホルモンと心血管疾患の気になる関係	副院長 総合内科部長	笠山 宗正
10月20日	・進行性腎細胞癌の新しい治療	泌尿器科主任部長	黒田 昌男
11月17日	・大腸がんの診断と治療	消化器内科部長	湯川 雅彦

「日医生涯教育講座カリキュラム」(平成20年)

整形外科(テーマ:高齢者の整形外科手術療法の現況(腰と膝))

月 日(曜日)	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
第1日 10月29日(水)	14時～16時30分	日生病院 手術室	高齢者脊椎疾患の中で最も頻度の高い腰部脊柱管狭窄症に対する手術療法について棘突起縦割式アプローチによる降圧術の紹介を中心に解説する	稲岡 正裕 (整形外科)
第2日 11月19日(水)	同 上	同 上	高齢者関節疾患の中で最も頻度の高い変形性膝関節症に対する手術療法について、MIS-TKA又は、MIS-UKAの紹介を中心に解説する	三木 宏真 (整形外科)

消化器内科(テーマ:当院における内視鏡的粘膜下層剥離術)

月 日(曜日)	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
第1日 10月9日(木) 10月16日(木) 10月23日(木)	10時～	内視鏡室	内視鏡的粘膜下層剥離術	湯川 雅彦 (消化器内科)

産婦人科(テーマ:鏡視下手術 婦人科)

月 日(曜日)	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
第1日 10月16日(木) 10月23日(木) 10月30日(木) 11月6日(木)	9時～15時	手術室	鏡視下手術見学	舩渡 孝郎 (産婦人科)

外科(テーマ:消化器外科手術)

月 日(曜日)	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
第1日 10月7日(火) 10月14日(火) 10月21日(火) 10月28日(火)	14時～16時	手術室	手術室見学	藤川 正博 (外科)

「救急医療セミナー」(平成20年)

開催月日	テ ー マ	講 師	
7月30日	・救急を要する心疾患	循環器・神経内科	中川 厚
8月27日	・急性腹痛、吐血、下血	消化器内科	関 保道
9月24日	・呼吸器疾患の救急診療	総合内科	高橋 良
10月8日	・糖尿病昏睡、急性副腎不全、甲状腺クレーゼ	総合内科	笠山 宗正
11月26日	・頭痛、痙攣、意識障害	循環器・神経内科	仁科 拓也
12月19日	・気道確保-新しい喉頭鏡の実習を中心に-	麻酔科	川原 玲子

1年目研修医 オリエンテーション

月 日	講義内容	担当
4月1日(火)	研修医の就業規則、その他	総務G
	研修プログラムの説明等	三木(臨床研修部 部長)
4月2日(水)	電子カルテの基本操作	情報システム室
	感染防止	大野(院内感染対策委員会)
	保険診療について	医事課
	ローテーションの説明・決定	三木(臨床研修部 部長)
4月3日(木)	医療安全と防災について	看護部
	チーム医療について	看護部
4月7日(月)	病歴管理、文献検索について	診療情報管理室
	カルテの記載方法	診療録管理委員会
4月8日(火)	薬剤処方	薬剤部
	当直、救急	当直救急委員会
	剖検、死亡診断書	病理部
4月9日(水)	病診連携	地域医療連携室
	栄養指導、NSTの基礎	栄養管理室
	医療生活相談室の利用について	医療生活相談室
4月10日(木)	注射、加薬その他医療手技の基礎	中西副看護部長
4月14日(月)	採血、輸血の基礎	中央臨床検査部
4月15日(火)	検血、緊急生化学、検尿	中央臨床検査部
4月16日(水)	生理機能検査、心電図、心エコーの基礎	中央臨床検査部
	外来診療入門Ⅰ(内科外来)	三木(臨床研修部 部長)
4月17日(木)	細菌検査	中央臨床検査部
4月18日(金)	病理検査	中央臨床検査部
	外来診療入門Ⅱ(内科外来)	三木(臨床研修部 部長)
4月21日(月)	腹部超音波検査の基礎	中央臨床検査部
4月22日(火)	放射線科オーダー、その他	放射線科
	運動療法の依頼について	リハビリテーション室
4月23日(水)	院内感染対策	院内感染対策委員会
	抗菌薬、消毒薬	院内感染対策委員会
	病棟勤務での注意、EPOCでの評価について	三木(臨床研修部 部長)
4月25日(金)	内科当直救急について	中川厚医長
5月～7月	勉強会、検討会	三木(臨床研修部 部長)

看護部施設内研修（平成20年度）

コース	日 程	テ ー マ	講師・担当者	参加数
新人	3/25(金)～ 4/5(土)	基礎看護技術演習 オリエンテーション		18名
新人	4/11(金).12(土)	感染経路別対策予防について 医療における看護倫理、接遇	大野・岩本・前川・南保	18名
新人	4/22(火)	業務計画立案 防災訓練	南保	17名
新人	5/12(金)	薬理学 フィジカルアセスメント 検査データの見方	薬剤部・田畑・浅野Dr	18名
新人	5/12(月)	コーチング研修	中西	18名
新人	5/30(金)	救急看護 栄養評価 看護必要度について	森川・福田・南保	18名
新人	6/13(金)	3ヶ月フォロー 輸血について 褥創予防	南保・藤村・林・三好・検査 技師：山本・WOC：山本香	18名
新人	6/23(月)	人工呼吸器の看護と取り扱い インスリン 心電図の読み方・とり方	中尾・角南・中島Dr	18名
新人	10/17(金)	MSWの役割 看護と経済学 医療安全 6カ月後フォロー	MSW：本家・林・正野・南 保・藤村・林	16名
新人	3/4(水)	1年の振り返り	南保・藤村・林	16名
レベルⅠステップ1	4/16(水)	研修の概要・オリエンテーション	大島・堤・中尾	37名
レベルⅠステップ1	6/4(水)	メンバーシップの役割について	石井京子先生	37名
レベルⅠステップ1	10/1(水)	看護過程展開冊子作りについて	大島・堤・中尾	37名
レベルⅠステップ1	2009/2/7(土)	看護過程の展開と事例検討発表会	大島・堤・中尾	37名
レベルⅠステップ1	2009/2/25(水)	1年間の振り返り	大島・堤・中尾	37名
レベル1ステップ2	5/22(木)	リーダーシップとは何か？	菅間・川崎	22名
レベル1ステップ2	6/11(水)	リーダーシップ	石井 京子先生	22名
レベル1ステップ2	2009/1/14(水)	学会に参加して学んだ事を発表する	岡村	22名
レベル1ステップ2	2009/3/11(水)	1年の振り返り	中村・岡村	22名
臨地実習指導者	5/7(水)	指導者って何だろう？	前川師長	15名
臨地実習指導者	6/18(水)	臨地実習の原理と実際・指導者の役割と は？	三好	15名
臨地実習指導者	8/20(水)	現代の若者気質・学生の関わり方 (コミュニケーション)	南保	16名
臨地実習指導者	10/22(水)	事例を通しての効果的な指導	古布	15名
臨地実習指導者	12/3(水)	指導者観発表	嶋田・戸田	16名
プリセプター	4/9(水)	プリセプターシップとは何か 概論①	鈴木	18名
プリセプター	5/12(月)	コーチング研修	中西	19名
プリセプター	5/28(水)	プリセプターシップ概論② 具体的指導法を学ぶ	鈴木	20名
プリセプター	7/23(水)	コミュニケーションスキル	鈴木	21名
プリセプター	9/17(水)	評価法 カンファレンスの持ち方	鈴木	22名
プリセプター	11/26(水)	他病棟との情報交換、リフレッシュ	鈴木・川上	23名
プリセプター	12/17(水)	プリセプターシップで学んだこと発表する	鈴木・川上	24名
プリセプター	2009/2/4(水)	1年間の振り返り	鈴木・川上	25名
フィジカルアセスメント	6/25(水)	消化器のフィジカルアセスメント講義・実技	田畑師長	15名
フィジカルアセスメント	7/2(水)	消化器のフィジカルアセスメント講義(医師)	吉川Dr	16名
フィジカルアセスメント	9/25(水)	呼吸器のフィジカルアセスメント講義・実技	田畑師長	16名
フィジカルアセスメント	10/8(水)	呼吸器のフィジカルアセスメント講義(医師)	井上Dr	16名
フィジカルアセスメント	12/24(水)	循環器のフィジカルアセスメント講義・実技	田畑師長	14名
フィジカルアセスメント	2009/1/21(水)	循環器のフィジカルアセスメント講義(医師)	中川Dr	15名
緩和ケア	5/31(土)	緩和ケア概論①	黒岩がん看護専門看護師	30名
緩和ケア	6/28(土)	症状マネジメント	小山	29名

緩和ケア	7/26(土)	緩和ケア各論①	黒岩がん看護専門看護師	28名
緩和ケア	10/25(土)	緩和ケア各論②	黒岩がん看護専門看護師	27名
緩和ケア	11/19(水)	事例検討	小山	28名
人間関係論	2009/1/20(火)	リーダーシップ	石井京子先生	27名
人間関係論	2008/12/10(水)	コーチング	福田師長	23名
人間関係論	11月12日	ストレスマネジメント	田畑師長	19名
がん化学療法看護	6/17(火)	がん化学療法の基本概念	畠山	15名
がん化学療法看護	7/8(火)	抗癌剤の作用機序	畠山	15名
がん化学療法看護	10/14(火)	症状マネジメント	畠山	14名
がん化学療法看護	11/11(火)	セルフケア支援	畠山	15名
がん化学療法看護	12/9(火)	がん化学療法における看護の役割と機能	畠山	15名
看護研究	4/10～15	医中誌の活用方法	石井・新網・原田	46名
看護研究	4/23(水)	研究とは 研究計画書の書き方	大野	46名
看護研究	5/13(火)	テーマ決定	大野	41名
看護研究	6/3(火)	研究課題の絞り込み	大野	35名
看護研究	7/1(火)	研究計画書修正	大野	33名
看護研究	8/5(火)	研究課題の絞り込み	大野	39名
看護研究	8/5(火)	分析方法①	大野	29名
看護研究	8/13(水)	分析方法②	大野	21名
看護研究	9/6(土)	看護研究計画書発表会	小西美和子先生	58名
看護研究	10/7(火)	計画書の修正	大野	32名
看護研究	11/4(火)	データ収集方法の確認	大野	32名
看護研究	12/2(火)	分析方法の確認	大野	33名
看護研究	12/5(金)	論文の書き方	小西美和子先生	35名
看護研究	2009/1/6(火)	論文作成	大野	36名
看護研究	2009/2/7(土)	看護研究 発表会	小西美和子先生 大野・石井・原田	116名
看護管理	6/12(木)	昇格者研修	湯浅・正野・木下・中西	3名

看護部施設外研修（平成20年度）大阪看護協会主催

開催日	コース名	受講者
4月19日	看護管理Ⅰ	①田畑(手術室)
5月13日、14日	看護管理Ⅱ	①鈴木(4西)
5月20日	摂食嚥下障害のある患者の看護①	①森口(5東)②播本(5東)
5月22日、23日	基礎編Ⅰ がん看護の基礎	①高藤(5西)②草野(6東)
5月26日、27日	看護職のストレスマネジメント	①西田(5東)②山下(外来)
5月28日	心の病を持つ人への接近方法とベットのサイト	①菅間(5西)②木場(6西)
5月29日	これからの褥瘡管理①	①中村(3階)②山下(5西)
6月3日	急変時の看護	①長瀬(3階)②土屋(4東)
6月4日	一般病棟におけるクリティカルケア	①村上(3階)②村上(4東)
6月5日～7日	看護管理Ⅲ	①鈴木(4西)
6月10日	新生児医療と看護	①中道(6東)②橋本(6東)
6月11日	運動機能回復への援助①	①森本(4西)
6月16日、17日	がん看護基礎編Ⅱ がん治療の基礎知識	①中川(4東)②林(4東)
6月23日、24日	ライフサイクルからみた発達段階の危機	①木場(6西)②藤井(6東)
6月24日、25日	感染看護Ⅰ 基礎編	①大川(4西)②赤井(4西)
6月6日、16日、7月10日、29日、8月6日	医療安全管理者研修	①町田(6東)②東郷(4西)
7月8日	子供の虐待と子育て支援	①松葉(6東)②藤村(6東)
7月10日、11日	患者を支援する倫理的看護	①赤松(4東)②林(4東)
7月14日、15日	看護管理Ⅳ	①鈴木(4西)
7月22日	みんなで考える看護倫理	①初岡(6東)
7月23日、24日	看護記録Ⅰ	①平田(3階)②河井(4西)
7月25日	がん看護応用編1 疼痛コントロール	①京谷(4東)②戸田(5西)
9月4日、5日	看護研究 統計処理編	①石井(6西)②亀井(4西)
8月7日	これからの褥瘡管理②	①赤井(4西)②飯堂(5東)
8月8日、9日	看護と安全教育	①木村(3階)
8月18日、19日	医療安全	①三好(5西)
8月19日	摂食嚥下障害のある患者の看護②	①廣田(4東)②中村(5東)
8月20日	スタッフ育成のためのコーチング	①三好(4東)
8月25日、26日	看護研究 クリエイティブ編	①松葉(6東)
8月27日、28日	在宅療養への支援	①川口(6西)②大山(6西)
9月1日～3日	臨地実習指導者①	①鈴木(5東)
9月4日、5日	看護研究 統計処理編	①石井(6西)②亀井(4西)
9月9日～11日	感染看護Ⅱ 応用編①	①石井(6西)
9月11日、12日	救急看護1	①望月(4東)②草野(6東)
9月13日	救急看護2—①	①堤(3階)
9月16日～18日	看護管理Ⅴ	①鈴木(4西)
9月24日	運動機能回復への援助②	①濱野(4西)
9月25日	薬剤と医療事故	①久保(3階)②十屋(3階)
9月29日、30日	がん看護応用編2 家族ケア	①山本(5西)②林(4東)
10月1日	医療安全管理者フォローアップ研修	①猪田(外来)
10月2日	患者のストレスマネジメント	①播本(5東)
10月3日	災害看護①	①岡村(4東)
10月6日、7日	看護管理Ⅵ	①鈴木(4西)
10月9日、10日	高齢者への看護・支援	①大山(6西)

10月17日	災害看護②	①井上(5西)②妹尾(5東)
10月27日	母親支援	①中道(6東)②橋本(6東)
10月28日～30日	リーダーシップ②	①田村(外来)
11月7日	看護研究 プレゼンテーション	①石井(6西)②森川(4西)
11月12日、13日	病気を持つ子供の看護	①藤井(6東)
11月14日	急変時の看護②	①東野(5東)②秦(6西)
11月17日～19日	臨地実習指導者②	①亀井(4西)
11月20日、21日	看護記録2	①梅田(6西)②谷口(外来)
11月25日、26日	施設におけるプリセプターシップのプログラム開発	①南保(5東)
12月2日	小児救急	①初岡(6東)
12月3日	看護管理Ⅶ	①木村(3階)
12月8日	慢性疾患患者のセルフケア②糖尿病支援	①藤田(5西)②藪内(5東)③井上(5西)
12月9日	感染看護 組織管理編	①水越(4東)
12月10日～12日	施設内教育	①南保(5東)
1月13日、14日	プリセプターシップ①	①山崎(5西)

看護部 長期及びその他の研修

主催	日程	研修会名	受講者
大阪府看護協会	4月11日～8月1日	認定看護管理者制度教育課程 ファーストレベル	井上 真紀子
日本病院会	6月7日～8日 11月8日～9日 2月7日～8日	平成20年度感染制御講習会	島津 庸子
国立がんセンターがん 対策情報センター	6月11日～13日	平成20年度相談支援センター相談 員基礎研修	小山 佐知子
大阪府看護協会	8月22日～11月21日	認定看護管理者制度教育課程 ファーストレベル	久留 明子
日本看護協会	10月～3月	認定看護師教育課程「緩和ケア」	久本 まき子
甲南女子大学	10月～3月	実習指導をデザインする臨床実習指 導者育成コース	木場 賀美 松葉 久美
大阪府看護協会	～11月4日	平成20年度第1回臨地実習指導者 講習会	小野 亜希子
癌研究会	11月9日～14日	がん治療実践研修	畠山 明子 平田 裕美
日本医療機能評価機構	11月22日	第3回病院機能改善セミナー	正野 廣子 中西 三季 東郷 豊子
日本看護マネジメント 学会	11月3日	看護必要度評価者・院内指導者研修	鈴木 希弥恵 小野 亜希子
大阪府看護協会	11月27日～2月20日	認定看護管理者制度教育課程セカ ンドレベル	岩本 真澄
日本看護協会	1月28日～30日	平成20年度糖尿病合併症重症化予 防研修	井上 恵子
大阪府看護協会	1月27日～28日	医療機関に働く看護師の研修	新屋 恵
大阪府医療関係団体・ 人権活動推進委員会	2月13日	人権啓発リーダー養成のための人 権研修	前川 明子 福田 みゆき
大阪府看護協会	1月7日～3月6日	平成20年度第2回臨地実習指導者 講習会	乾 郁
大阪大学医学部付属 病院看護部キャリア 開発センター	7月11日、10月31日	糖尿病看護コースⅡ	高山 由美子

講演会・研修会(平成20年)

医療安全講習会(医療安全管理委員会主催)【別館講堂にて】

- 1月8日 演題Ⅰ「医薬品の取り扱いについて」
薬剤部 畑中 勝義
演題Ⅱ「医療機器の安全管理について」
放射線科 松本 茂一

第2回TQM大会【別館講堂にて】

- 1月18日 人材育成研究所 立川 義博

人権研修会(教育委員会・看護部・総務経理部主催)【別館講堂にて】

- 1月23日 演題「患者と医療者が協働する医療を目指して」
NPO法人ささえあい医療人権センターCOML
辻本 好子

緩和ケア講演会【別館講堂にて】

- 1月25日 演題「疼痛緩和の実践と緩和ケアチームの役割」
大阪府立成人病センター
泌尿器科副部長 目黒 則男

接遇研修会【別館講堂にて】

- 1月30日 ㈱日本医療事務センター 大西 克子

輸血療法講演会(輸血療法委員会主催)【別館講堂にて】

- 2月25日 演題「血液製剤の最近の話題」
大阪府赤十字血液センター
副所長 谷 慶彦

人事制度研修会

- 3月6日 演題「人事考課の基本」
トーマツコンサルティング㈱ 中田 博之

医療安全講演会(医療安全管理委員会主催)【別館講堂にて】

- 3月18日 演題「医療事故から学ぶ医療安全-コミュニケーション不足は医療紛争を引き起こす」
弁護士 水島 幸子

H20診療報酬改正説明会【別館講堂にて】

- 3月24日 医事課 高山 國昭

第5回あわぞ産業医セミナー【リーガロイヤルホテルにて】

- 4月12日 情報提供
「持続性ARB/利尿薬合剤 プレミネント錠について」
万有製薬株式会社 杉村 睦史
特別講演「医療制度改革と勤労者の特定健診」
大阪府医師会会長 酒井 國男
一般講演①「勤労者のメタリックシフト・ロムに合併した高血圧症の特性」
総合健診クリニック・予防医学センター 高島 周志
②「職場における血圧管理と不整脈」
循環器内科 児島 成之

TQM研修会

- 5月20日・21日
人材育成研究所 立川 義博

院内感染対策に関する教育講演会(院内感染対策委員会主催)【別館講堂にて】

- 6月26日 演題Ⅰ「感染対策での他病院との比較」
薬剤部 濱口 良彦
演題Ⅱ「院内感染・最近の話題」
中央臨床検査部長 浅野 彰彦

日生病院 ICLS コース【別館講堂にて】

7月13日

病診連携学術講演会（あわざフォーラム）【リーガロイヤルホテルにて】

7月19日 情報提供

「リユープリン製品紹介」

武田薬品工業株式会社 大阪学術部

田中 雅典

講演 ～センター紹介～

①「がん治療センター」

がん治療センター長・泌尿器科部長 黒田 昌男

②「低侵襲医療センター」

低侵襲医療センター長・産婦人科部長 船渡 孝郎

③「生活習慣病センター」

生活習慣病センター長・副院長 笠山 宗正

④「新予防医学センター」

予防医学センター長・名誉院長 佐藤 文三

特別講演

「再生医学を考える-生殖医療とのかかわり-」

日本産科婦人科学会理事長

(慶応義塾大学医学部産婦人科教授)

吉村 泰典

消防署による講演会（日新会主催）【別館講堂にて】

9月12日 演題「地震に備えて」

大阪市西消防署

副署長 竹田 俊二

病診連携 ニッセイ クリニカル カンファレンス

9月20日 講演 ①「寛解治癒を目指した関節リウマチ診療」

総合内科 藤原 弘士

②「貧血と腎機能障害で紹介となった64歳女性の一例」

血液・化学療法内科 林 美沙

③「化学療法が奏功した膵臓癌の一例」

消化器内科 関 保道

④「当院で経験した『たこつぼ型心筋症』」

循環器神経内科 長谷川 浩司

ショープレクチャー

「甲状腺機能異常症の診療のエッセンス」

総合内科 笠山 宗正

災害看護研修（日新会主催）【別館講堂にて】

10月10日 演題「災害看護」

大阪府急性期総合医療センター

山下 直美

医療安全講演会（医療安全管理委員会主催）【別館講堂にて】

10月16日 演題「最近の医療安全動向と院内における推進活動」

大阪警察病院 医療安全管理センター 専従リスクマネージャー

志麻 久美子

NST勉強会（NST委員会主催）【別館講堂にて】

10月24日 演題「摂食・嚥下障害と嚥下訓練」
外科 黄 泰平

地域連携クリニカルパス講演会（地域医療推進委員会、クリニカルパス委員会主催）【別館講堂にて】

10月30日 演題「地域連携とクリニカルパス」
第一三共(株)大阪支店 学術課 医療環境担当
長野 昭二

安全衛生研修会（安全衛生委員会、職員サービス部主催）【別館講堂にて】

11月4日 演題「企業におけるメンタルヘルスケア-その影響と予防対策を考える-」
精神科・神経科部長 江川 功

院内感染対策に関する教育講演会（院内感染対策委員会主催）【別館講堂にて】

11月6日 演題Ⅰ「新型インフルエンザに備えて」
看護部 大野 典子
演題Ⅱ「細菌検査の流れ」
中央臨床検査部 棚橋 俊夫

第6回クリニカルパス大会（クリニカルパス委員会主催）【別館講堂にて】

11月10日

医療ガスの安全な取扱いに関する研修会（医療ガス安全管理委員会主催）【別館講堂にて】

11月13日 (株)馬場酸素・エア・ウォーター防災(株)・岩谷産業(株)

褥瘡対策研修会（褥瘡対策委員会主催）【別館講堂にて】

11月21日 演題「褥瘡対策の治療と現状について」（WOCの立場より）
大阪厚生年金病院
中西 由香（WOC）

消化器内科・外科合同症例検討会【リーガロイヤルホテルにて】

11月22日 情報提供 武田薬品工業(株)
症例①「内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の偶発症と対策」
消化器内科 関 保道
②「鼠径ヘルニア修復術-診断の工夫と術式の変遷-」
外科 安政 啓吾
講演「膵嚢胞性腫瘍の診断と治療」
外科 藤川 正博

放射線安全委員会教育訓練（放射線安全委員会主催）【カンファレンスルーム】

12月16日 演題Ⅰ「個人被曝管理について」
Ⅱ「ガラスバッジ・ポケットチェンバーの使用法」
千代田テクノル
上田 智美

平成20年 地 域 活 動

事業等	出務場所	出務日	講師／出務医師	その他
大阪府医師会 指定学校医制度 認定研修会	西区医師会 会員研修室	2月16日(土) 14:00～15:00	杉本 久和	演題「学校で管理する ことのある心疾患につ いて」
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	1月1日(火祝) 10:00～17:00	杉本 久和	小児科担当
		4月20日(日) 10:00～17:00	中川 厚	内科担当
老人健康 相談事業	西区老人福祉センター	8月1日(金)	川原 玲子	毎週火曜日・金曜日 開催(14:00～16:00) 8月:計6回
		8月5日(火)	永田 大樹	
		8月8日(金)	花房 隆範	
		8月22日(金)	杉本 麗子	
		8月26日(火)	田淵 優希子	
		8月29日(金)	岡本 倫朋	
3ヵ月児健康診査	西区保健福祉センター	毎月第1水曜日 13:30～	池原千衣子	1～3月度
			林田 雅子	4～12月度
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	5月21日(水) 14:00～	谷口 由希子	
		10月15日(水) 14:00～		
大阪西地域 産業保健センター 出務	西区医師会 会議室	5月21日(水) 14:00～15:30	大嶋 正人	労働者からの健康相談 (産業医)
		8月20日(水) 14:00～15:30	大嶋 正人	
大阪西地域 産業保健センター 拡充センター 出務	西区民センター 第2会議室	3月12日(水) 17:30～19:30	大嶋 正人	労働者からの健康相談 (産業医)
		11月15日(土) 13:30～15:30	三木 俊治	
		12月10日(水) 17:30～19:30	三木 俊治	
		12月20日(土) 13:30～15:30	藤原 弘士	

ボランティアについて

平成20年の活動

年 / 月	主 な 内 容
1 月	
2 月	ボランティア協会定例研修会参加（2/26） 交通費支給（12月～1月分）
3 月	ボランティア保険加入（次年度更新）
4 月	緩和ケア研修会参加（4/21） 交通費支給（2月～3月分）
5 月	
6 月	交通費支給（2月～5月分）
7 月	ボランティア健康診断（任意） ボランティア協会定例講演会参加（7/24）
8 月	表彰式・懇親会の開催 表彰：山県、河原、中瀬、川口、山本、藤原、田村、生駒 片岡（9名） 記念品、表彰状、 交通費支給（6月～7月分）
9 月	ボランティア協会に申請（1000時間越え：河原）
10 月	茶話会 日本病院ボランティア総会参加（10/30、表彰：河原） 交通費支給（8月～9月分）
11 月	インフルエンザ予防接種（任意）
12 月	交通費支給（10月～11月分）

ボランティアを導入し、今年で7年が経過いたしました。現在、ボランティア通算時間1000時間を越える方が4名になりました。また、新しく2名の方が当院のボランティアに参加して頂けることになり、全員で9名になりました。

活動内容は初診・再診手続きをはじめ、患者輸送（車椅子輸送）、各科場所の案内、移動図書管理をお願いしています。患者の立場でご意見を頂いておりますが、参加者の年齢が高いこと、活動範囲が限られていること、勉強会や研修会参加者が少ないことから、病院ボランティアのあり方・活動内容の見直しが必要だと考えます。また、ボランティアを導入している他病院の調査でもボランティアの高齢化が進み、存続が難しい状況になってきている様です。

ボランティア活動の充実が、患者様の安心感や職員の活性化につながり、患者様に気持ちよく受診して頂けると考えております。これからも、患者様サービスの向上に努めたいと思います。

院内行事

定 例 行 事

日生医学賞授賞式	10月15日
篤志解剖者慰霊祭	11月26日
消防訓練	3月21日

各 種 イ ベ ン ト

看護フェア	5月12日～5月16日
日生病院コンサート	7月7日
ニッセイ夏休みこども医療体験	8月8日
糖尿病フェア	11月13日～11月15日
いい皮膚の日	11月12日
糖尿病教室	火～金曜日 毎日
母乳外来	随時
離乳食教室	毎月／第3火曜日
マタニティービクス アフタービクス ベビービクス	毎週／火曜日・木曜日
両親学級	毎月／第3土曜日・第4土曜日
大阪乾癬患者友の会「梯の会」	年／3回学習会・定例総会勉強会
糖尿病患者友の会「錦会」主催	糖尿病教室 随時・総会 年／1回

財団法人 日本生命済生会付属
日 生 病 院
第 7 卷 平成21年10月発行

編 集 財団法人 日本生命済生会付属 日生病院広報委員会
発 行 財団法人 日本生命済生会付属 日生病院
住 所 550-0012 大阪市西区立売堀 6 丁目 3 番 8 号
T E L 06 (6543) 3581 (代表)
<http://www.nissay-hp.or.jp>

